

月報

2015年1月号

シンガポール日本商工会議所

MCI(P) NO. 170/04/2013

Japanese Chamber of Commerce & Industry, Singapore

Website: <http://www.jcci.org.sg>



毎日笑顔、健康な 海外生活をサポート!



海外在留邦人のための総合医療センター

ジャパン グリーン クリニック

外来診察



予防接種



健康診断・医療検査



理学療法



肩痛・腰痛・足痛
スポーツ障害・リハビリ等に

医療相談



生活習慣病・糖尿病・アレルギー
感染症・産科医療・他

ジャパングリーンクリニック

総合診療の
オーチャード本院

診療科目

外来診察(小児科・内科・外科・耳鼻咽喉科・
婦人科・他一般)、予防接種、乳児健診、
医療検査、健康診断、理学療法

受付時間 月~金 9:00~12:00,
14:00~17:30
土 9:00~12:00
(日・祝 休診)

予 約 一般診療は予約不要です。
健康診断、医療検査、予防
接種、乳児健診、理学療法、
婦人科は予約制です。

所在地 290 Orchard Road
#10-01 Paragon
Singapore 238859

電 話 6734-8871

ファックス 6733-1213

Eメール

reception@japan-green.com.sg

- ◆ MRTオーチャード駅より徒歩10分
- ◆ エレベーターは、1階Tower Lift Lobby1をご利用ください
- ◆ 主要各科医師が在籍し検査機器も揃えた総合クリニックです。



パラゴン



健康診断ロビー



ジャパングリーンクリニック シティ分院

オフィス街の
身近なクリニック

診療科目

一般内科診察、予防接種、
健康診断、理学療法、各種医療相談

受付時間 月~金 9:00~12:30,
14:30~17:30
(土・日・祝 休診)

予 約 ご予約をお願い致します。

所在地 20 Cecil Street
#07-08 Equity Plaza
Singapore 049705

電 話 6532-1788

ファックス 6532-7673

Eメール

citybranch@japan-green.com.sg

- ◆ MRTラッフルズプレイス駅E出口より徒歩1分
- ◆ お越しの際はIDカード(EP等)をご持参ください
- ◆ 待ち時間を最小限にする予約制を採用。
- ◆ オフィス街の身近なクリニックです。



エクイティプラザ



診察室



歯科はJGHデンタルクリニック(本院内) Tel: 6235 7747

www.japan-green.com.sg

月報

2015 Jan

1. 新年にあたって P2
- 1.1 シンガポール日本商工会議所 会頭 ITOCHU SINGAPORE PTE LTD 佐々木 淳一
1.2 シンガポール日本人会 会長 MITSUI & CO. (ASIA PACIFIC) PTE. LTD. 村上 雄二
1.3 駐シンガポール共和国日本国特命全権大使 EMBASSY OF JAPAN 竹内 春久
2. 新年随想 P6
- 2.1 シンガポール日本商工会議所 副会頭 SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION 今枝 哲郎
2.2 シンガポール日本商工会議所 財務担当理事 MIZUHO BANK, LTD 関 正樹
2.3 シンガポール日本商工会議所 運営担当理事 SUMITOMO CHEMICAL (ASIA PACIFIC) PTE LTD 立元 秀和
2.4 シンガポール日本商工会議所 運営担当理事 SUMITOMO CORPORATION ASIA & OCEANIA PTE. LTD. 岡田 卓也
2.5 シンガポール日本商工会議所 理事 ALL NIPPON AIRWAYS CO.,LTD. 富田 光政
2.6 シンガポール日本商工会議所 理事 MITSUBISHI CORPORATION 高橋 健司
2.7 シンガポール日本商工会議所 理事 PANASONIC ASIA PACIFIC PTE. LTD 工藤 俊和
2.8 シンガポール日本商工会議所 理事 SOJITZ ASIA PTE. LTD. 加藤 英明
2.9 シンガポール日本商工会議所 理事 TORAY INTERNATIONAL SINGAPORE PTE.LTD. 鈴木 孝林
2.10 シンガポール日本商工会議所 事務局長 JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY, SINGAPORE 長尾 健太郎
3. 各部会業界動向 P24
- 3.1 第1工業部会 NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL SOUTHEAST ASIA PTE. LTD. 川口 敬一郎
3.2 第2工業部会 KIKKOMAN (S) PTE LTD 林 久順
3.3 第3工業部会 CANON SINGAPORE PTE. LTD. 小西 謙作
3.4 貿易部会 MARUBENI ASEAN PTE. LTD. 出口 洋一郎
3.5 金融・保険部会 TOKIO MARINE INSURANCE SINGAPORE LTD 結城 実
3.6 建設部会 TAKENAKA CORPORATION 長田 士郎
3.7 運輸・通信部会 YUSEN LOGISTICS (SINGAPORE) PTE. LTD. 木村 敏行
3.8 観光・流通・サービス部会 BUKIT BATOK DRIVING CENTRE LTD. 織木 ゆみこ
4. 新春特集 座談会 P39
ASEANと日本、過去、現在そして未来 -シンガポール建国50周年を踏まえて-
5. 広報委員会より P54
- 5.1 広報委員長からのご挨拶 JAPAN AIRLINES CO LTD 河原畑 敏幸
5.2 2014年シンガポール10大ニュース!
5.3 JCCI広報委員会メンバーのご紹介
6. 2015年のインド、ASEAN5、オーストラリア、シンガポール経済の展望 P59
MIZUHO BANK LTD. 稲垣 博史
7. 2014年度 上海・香港視察団 P63
- 7.1 団員名簿
7.2 日程表
7.3 団長所感 ITOCHU SINGAPORE PTE LTD / 会頭 佐々木 淳一
8. 11-12月 JCCIイベント写真 P72
9. 第25回 JCCI基金・募金贈呈式 P75
- 9.1 シンガポール日本商工会議所基金[2014年度募金]への御協力御礼
9.2 第25回 JCCI基金・募金贈呈式[写真]
9.3 JCCI 基金提供先企業一覧
10. JCCI 2014年会員懇親パーティ P90
- 10.1 JCCI 2014年会員懇親パーティ[写真]
10.2 ラッキードロー商品・提供企業一覧
11. 日本シンガポール協会便り P96
日本シンガポール協会のイベントをご紹介します

月報題字: 麗扇会 青木 麗峰

表紙写真: 中島 茂 NTA TRAVEL (SINGAPORE) Pte Ltd

写真タイトル: ランニング中の一コマ

新年のご挨拶

JCCI 会頭
ITOCHU Singapore Pte Ltd
President & CEO

佐々木 淳一



新年明けましておめでとうございます。

昨年シンガポール日本商工会議所の第45代会頭を拝命し微力ながら、月例の理事会を開催し各種団体との面談、国会議員、政府関係者、地方自治体との交流会に他の理事の方々と共に参加させて頂き、シンガポール及びASEANの現状について日本企業の動向、直面する問題点をお話する機会を数多く頂きました。その他にも、ASEAN事務局長との対話(6月 マニラ)や経済視察団(11月 上海、深セン、香港)の実施、又大使館の主催するクールジャパン関連イベントにも積極的に参加協賛して参りました。新たに進出された企業の開設行事と既進出企業の周年記念行事にも招待され多くの企業の方とお会いする事が出来ました。改めて会員企業の皆様と事務局スタッフの多大なるご支援に対し感謝申し上げます。

前任の秋山会頭からSBF(Singapore Business Federation)とSNEF(Singapore National Employers Federation)のCouncil Memberを引き継ぎシンガポールの有力財界人との接点を理事会、政府関係者とのラウンドテーブル、海外からの訪問団との交流を通して持つ事が出来ております。特に雇用定年延長の動き、就労ビザ制限問題、労働者不足問題等喫緊の課題については情報の共有化を図り、日本企業の状況を報告して来ました。又、JCCIとしてEDB長官へ要望事項を定期的に陳情して参ります。

さて今年はシンガポール建国50周年で有り又AEC(ASEAN経済共同体)発足の年でも有りま

す。過去強力な政治リーダーの下、目覚ましい経済発展を遂げて来たシンガポールが次の50年をどの様に成長させて行くのか？産業の高度化の実現とグローバルアジアハブとしての確立、活気と多様な企業環境の確立、イノベーションの普及更にはスマートエネルギー経済の推進等が戦略として挙げられているが、今後人口高齢化が進む中、現状の低い出生率を考えると人口白書に有る様に外国人移民で補完し持続的な経済発展を目指す事に成ると思えます。

AEC設立に関しては正直期待通りに進んで無い点が多々有ります。非関税障壁の撤廃、基準・規格の統一、通関手続きの円滑化、サービス自由化の進展、熟練労働者の移動自由化、インフラ開発等がポスト2015年に向けた課題です。引き続きFJCCIAとASEAN事務総長との対話を通して要望をぶつけて行きます。目下日本からASEANへの直接投資額が大きく増えて行く中、我々日本企業への期待が高まって来ております。会員企業の皆様のご協力を仰ぎながらシンガポール及びASEAN地域での日本のプレゼンス向上、日本企業の発展に少しでも貢献出来ればと思えます。

又、JCCIでは会員企業同士の交流や他国の商工会との交流を手がけて参りましたが、今年度も積極的に各種交流会を実施して行きたいと思えますのでご協力のほど宜しくお願い致します。

最後になりましたが、本年が会員皆様にとって益々の発展の年に成る事を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

シンガポール日本人会 会長
Mitsui & Co. (Asia Pacific) Pte. Ltd.
Singapore Branch Manager

村上 雄二



JCCI会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

2014年もあっという間に駆け抜け新年を迎えました。アジアでは大国のインド・インドネシアで新政権が誕生し、中国を含め、その行く末・経済発展・回復状況を世界が興味深く見守っています。中東・アフリカではイスラム国空爆、エボラ熱蔓延など混沌とした状況下、ASEAN統合・TPP合意など一層のグローバル化が進められようとしています。

さて、昨年もシンガポール日本人社会の皆様より、日本人会に対して格別なご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。お蔭様で、日本人会の活動も例年にも増して活発に行われました。グランド・チャンピオンを受賞したチンゲイパレード、日本語スピーチコンテスト、運動会、夏祭り、オープンハウス等々多くの文化・スポーツ交流活動が行われました。婦人部によるチャリティ・ボランティア活動もシンガポール社会から大きな評価を頂きました。これもひとえに、各企業そして皆様お一人お一人の日本人会に対するご理解とご支援の賜物です。こころより御礼申し上げます。

今年は、シンガポール建国50周年であり、且つ日本人会100周年という、両国にとって記念すべき節目の年であります。企業活動を通じた経済面での貢献に加えて、シンガポールと日本両国の文化に深い相互理解と尊敬の念があつてこそ、より確りとした友好関係が生まれるものであると信じて

おります。激動する世界で、我々に安全で快適なビジネス・生活環境を提供してくれているシンガポールに対する感謝の気持ちを新たにし、地域社会との交流を更に深めるため、日本人会として、例年開催している恒例行事を確り行うとともに、100周年記念式典や社会貢献事業等を行って参ります。就きましては、本年も皆様の変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、何卒宜しく願い申し上げます。

最後になりましたが、シンガポール日本商工会議所のますますのご発展と会員の皆様のご多幸・ご健勝を心よりお祈りし、新年のご挨拶と致します。

新年の御挨拶

駐シンガポール共和国日本国特命全権大使
The Ambassador Of Japan To Republic Of Singapore
竹内 春久



謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

一昨年10月の着任以来、あっという間に1年以上の月日が経過いたしました。その間、JCCI会員企業の皆様におかれましては、様々な場面で日本政府の取り組みにご協力いただき、誠にありがとうございました。

昨年一年間の日本・シンガポール間の要人往来を振り返りますと、リー首相を始めとするシンガポール政府閣僚等の訪日が延べ7回もありましたほか、日本側からは、これを遙かに上回る延べ16回もの政府閣僚等の訪星があるなど、日シンガポールの政府間対話が非常に活発な年でありました。特に安倍総理におかれては、一昨年に続いて昨年5月に再び訪星され、第13回アジア安全保障会議(シャングリラ・ダイアログ)にご出席。その基調講演において、アジア太平洋地域の平和と安定を確固たるものにするための「法の支配」の重要性を強調。その後の日星首脳会談では、リー首相から、日本が地域の平和と安定に貢献しようとしていることを歓迎する旨の評価が示されるなどの大きな成果を残されました。さらに、こうした安全保障の分野での成果に加え、成長戦略の柱であるTPPの早期妥結に向けた閣僚会合も累次に渡り開催されたほか、副大臣級による在星投資家・市場関係者等を対象とした日本の成長戦略に関する講演会も累次にわたって開催されましたし、政府閣僚や議員団による複合型リゾート(IR)の視察、地方自治体知事による観光誘致、農林

水産品等のトップセールス、経済団体の当地訪問も活発に行われるなど、経済関連分野での訪星も引き続き活発な一年でした。

また、国民レベルでの交流も活発でした。官民挙げての観光誘致、東南アジア各国からの訪日観光ビザの条件緩和あるいは撤廃、加えて大幅な円安も手伝ってか、シンガポールを始めアジア各国から日本へ来て下さる観光客は増加しており、昨年のシンガポールからの訪日客数は10月時点で既に15万人、これら東南アジアの国々からの訪日客数を加えると122万人を超えるなど、史上最高の規模となりました。今後も引き続き、日本ブランドの発信など、観光立国実現に向けた観光誘致に取り組んでまいりたく存じます。

さて、今年は、シンガポール建国50周年です。そして来年は、我が国とシンガポールと日本の国交樹立50周年となりますが、JCCI会員企業の中にはその建国以前からいち早くシンガポールに進出し、既に進出50周年を迎えられた企業もおられます。これまで日本企業は、日本から製品を輸出するのみならず、現地化による雇用創出やインフラ整備にも貢献し、今日では、アジア各国のビジネスの地域統括拠点、あるいは研究開発や人材育成といった高度な機能を有する拠点としてのシンガポール経済の高度化に貢献しています。そして、日本企業のシンガポール進出が深化するにつれて在留邦人数も増加し、在留邦人数は大使館登録ベースで既に3万1千人を超えるなど、

国内経済における日本企業・日本人コミュニティーの存在感はかなりのものとなっています。また、日本企業は、経済発展への貢献にとどまらず、チャリティー活動や日本文化支援等を通じた草の根レベルでの交流・社会貢献活動も長らく続けられておられ、こうした企業レベルでの経済貢献や文化交流支援が、日本とシンガポール、ひいてはアジア各国との友好関係の基礎を築いたと言っても過言ではありません。

日本政府としましても、こうした日本企業の皆様の海外展開や国際競争力の強化を外交面から後押しし、アベノミクスの成長戦略に実質的に寄与するとともに、国際経済における日本のプレゼンスを向上すべく、一昨年12月に外務大臣を本部長として設置した「日本企業支援推進本部」のもと、本使以下館員一同が一丸となって日本企業の皆様の海外展開支援に取り組んでまいります。具体的には、①インフラ・システム海外展開の推進、②中小企業の海外展開支援、③農林水産品等の海外展開支援、風評被害対策、④医療の国際展開支援、⑤日本の多様な魅力の発信を通じた日本企業支援(文化広報等)、⑥シンガポール国内外におけるビジネス環境整備、⑦外国企業との連携支援等に重点的に取り組んでまいりますので、何卒よろしく願いいたします。

本年が皆様にとり、公私とも良い年になりますよう、改めて皆様のご健康とご多祥を祈念するとともに、被災地の一日も早い復興と日本のさらなる発

展を心から願い、新年のご挨拶といたします。

駐シンガポール共和国日本国大使
竹内 春久

海外随想

JCCI副会頭
SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION
Director and General Manager, Singapore Branch

今枝 哲郎



皆様、新年あけましておめでとうございます。

2014年4月にシンガポールに赴任となって、9ヶ月が経ちました。アジアは今回が初めてになります。全くもって足りないアジアに関する知識や経験を少しでも積み上げるために、着任以来走り回っていたらあっという間に時間が経ってしまったというのが実感です。

海外勤務は、イギリス、アメリカに次いで今回が3回目になります。海外に出ると、その土地のごく普通なことが、日本とは違うために、それをきっかけに様々な方向に思いを巡らすことが多々あります。

今回もシンガポールで、日本とは違うことに色々巡り合っていますが、その中の一つにシンガポールの物価の高さがあります。

私が初めて海外勤務をしたのは1993年でしたが、日本はバブルが崩壊、その後の失われた20年に入り始めたところでした。そして、その頃にしきりと言われたことが、日本の巨額な個人金融資産の活用です。1995年当時の日本の個人金融資産総額を見てみると、約1,250兆円です。そして、その時の米国の個人金融資産総額は、約2,140兆円(95年平均レート1USドル=94.06円)でした。因みに、シンガポールは約15兆円(95年平均レート1SNGドル=66.33円)。確かに、バブルは崩壊したものの、個人金融資産的には実はまだ日本には米国の背中が見えていたのです。

そして、最近の日本の個人金融資産の状況ですが、実はあまり変わってなくて、2013年で約1,620兆円、95年対比で約1.3倍となっています。これに対してアメリカは、何と約6,340兆円(13年平均レート1USドル=97.60円)で同年比約3倍、そしてシンガポールは約69兆円(13年平均レート1SNGドル=77.99円)で同年比約4.6倍となっています。見えたと思った米国の背中はかなり彼方に行ってしまいました。(実は、最近の円安によって円ベースで見ればこの差は更に拡大しているわけですが)。

言われてみればそれもそのはずで、この間日本はあの名だたるデフレ低成長時代が続き、一方、米国は、着実にインフレを続け、いろいろ浮き沈みはありましたが各種の成長戦略が実行されて来ました。シンガポールも、インフレと成長戦略ということでは同じです。こうなってしまうと、アメリカやシンガポールは、確かにインフレで名目的に数字が膨らんだ部分があるとは言え、為替レートがあまり変化しない下では、相対的にみれば、日本より豊かになった(あるいは相対的に日本は貧乏になった)ということになってきます。なるほど物価が高いと感じてしまう感覚もある意味しょうがないのかと自分の中では納得してしまいました。

海外では、日本にいる時より日本が相対的に見えて、そして少し違った視点から日本が見えてくるということかもしれません。このシンガポールに来てからも、日本のデフレの影響を実感させら

れるのかと妙に感心すると共に、現在日本がチャレンジしようとしているインフレと成長という方向性は、やはり一つの選択肢として真剣に考えた方がいいのではないかと改めて感じさせられます。

海外に出ると、もう一つ、日本と違うと感ずることは、業界を超えて色々な皆様と、日本にいる時よりはぐっと距離感近く交流をさせて頂くことができるということです。皆様は業務の最前線で色々なご経験を積んでおられる訳で、今までもそういった皆様から貴重なお話をお伺いして刺激をうけるということを度々体験させて頂きました。大いに自分の視野が広がり、それによって世界の見え方が変わってくることもよくありました。

私のシンガポール勤務も始まったばかりですが、今度はこの地で、どういった新たな視点や新たな出会いに巡り合うことができるのか大変楽しみです。シンガポール日本商工会議所での活動や交流の中に、そういった機会が数多くあることを大いに願うばかりです。

最後になりましたが、本年が会員の皆様にとりましてより良き年となりますよう心より祈念申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年随想

JCCI財務担当理事
Mizuho Bank, Ltd
General Manager

関 正樹



会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年4月にJCCI理事に就任いたしました以来、会員の皆様には大変お世話になっております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

私は2年間の香港勤務の後、2012年にシンガポールに赴任しました。90年代のジャカルタ勤務を含め、3度目の海外勤務であります。そのいずれもが、エネルギーに満ち溢れ成長を続けるアジアであることに、自身喜びをかみしめております。

リーマンショック以降、世界経済を牽引してきたアジア経済ではありますが、昨年は南シナ海での領土・外交問題、タイのクーデター、香港民主化運動など地政学リスクの高まりを意識せざるを得ない年でありました。また、冷静に各国別に状況を見てみますと、引き続き人口ボーナスが期待できる国（インドネシア・フィリピン・インド）がある一方、少子高齢化が進行し、生産年齢人口の伸びが鈍化している国（タイ・ベトナム・シンガポール）も見受けられます。当地シンガポールや隣国マレーシアは既に先進国化・成熟化して、経済成長率は低下傾向に向かうと予想されています。日本でも2014年の消費増税による経済影響も想定以上に尾を引いており、アベノミクスも正念場を迎えています。財政健全化問題・人口減少など、引き続き国内には課題が山積です。一方、米国では個人消費・住宅投資が牽引し、景気は拡大基調にあります。その結果、金融緩和と政策の出口戦略の時期が意識され始め、アジアにおいてもマネーの流

れの変化影響に注意を払っておく必要が出ています。本年2015年は、『アジア』を一括りで捉えることなく各国別の事情・事象の一つ一つをしっかりと分析・確認しながら事業活動を行っていくことが一層重要になってくるものと考えております。但し、悲観的にとらえることはなく、日本企業が日本及び世界でこれまで培った叡智・経験を活用できる大きなチャンスであると前向きにとらえていきたいと思っております。

アジア新興国において、インフラ整備は経済成長に追い付いておらず、電力・水・道路・鉄道・空港・病院など各国で引き続きプロジェクトが行われると見込まれます。市民の支持を得るべく各国政府が共通して、インフラ整備を最優先課題に位置付けて取り組んでいることは、日本企業にとって大きな成長の機会であると言えます。2020年東京オリンピック開催決定を契機に、アジアを含め世界が再び日本に注目しています。また、2013年12月にユネスコの無形文化遺産に『和食』が登録されたことも大きな話題となりました。日本への外国人観光客は2013年に1000万人を超え、2020年の東京オリンピックに向けて増加が続くと見込まれます。多くの外国人が日本を訪れ、日本の技術・モノ・文化に触れて自国に帰っていきます。日本では当たり前のモノ・コトが、外国人の目には新鮮で便利なこともあるかもしれません。そこに我々海外で活動する日本企業にとってのビジネスチャンスが生まれます。

冒頭申し上げた通り、不透明感が増すであろう2015年ではありますが、漠とした雰囲気の流れに流されることなく、アグレッシブにチャレンジ精神を持ち、但しリスクに対する目配せをしつつ、アジアの荒波を乗り切っていきたいものです。

2015年はシンガポール建国50周年の節目にあたります。また昨年、私どもみずほ銀行シンガポール支店は開設40年を迎えました。新年を迎え、このアジアの中心都市に根を張りビジネスをさせていただいていることに感謝の気持ちを新たにしていくところでございます。

末筆ではございますが、本年が会員企業の皆様にとって、実りある良い年となるよう心から祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

シンガポール20年の変化

JCCI運営担当理事

Sumitomo Chemical (Asia Pacific) Pte Ltd
Senior Vice President

立元 秀和



皆様、新年あけましておめでとうございます。

東京の乾いた空気と寒さの中で、引き締まった気分を迎える新年とは異なりますが、年中、同じような気候の中で迎える新年であればこそ、節目に気持ちを新たにすることの大切さを一段と感じたりもします。

さて、昨年4月にシンガポールに赴任して早くも9カ月が経ちました。シンガポールには1992年から1997年まで駐在したことがあり、今回2回目のシンガポール生活を送っています。丁度、その頃がJCCIの登録企業数のピークであったと先日、伺いましたが、今、またその頃の数に迫りつつあるようです。ということは20年ぶりのシンガポール駐在という方は存外、たくさんおられるのかもしれませんが、一方で、会員企業の業種構成は随分、変化しているとお話もございました。やはり製造業の比率が下がり、流通やサービスといった分野が躍進されているようです。シンガポールはエレクトロニクスや石油化学等の製造業や金融、サービス業の振興により飛躍的な経済成長を遂げてきましたが、近年、労働力確保やユーティリティーコスト上昇といった課題が厳しさを増しており、特にエネルギー多消費型の製造業にとって難しい局面を迎えています。私ども化学工業の分野においても、残念ながら、此処へきて生産設備の縮小、或いは撤退というケースを聞くようになってきました。シンガポール政府には電力供給の競争加速やエネルギー源の多様化等、こうした課題に様々

な観点から対策を講じていただいています。グローバルな競争が厳しさを増す中で、全てを満足させることは難しいというのが現実でしょうか。より知識、イノベーション集約型事業へのシフトを強めています。私共も、事業内容の高付加価値化を更に強化するなど、事業の新陳代謝を加速させなければならないと強く感じている所です。

こうした産業の変化と共に、やはり経済成長の結果、シンガポール社会と生活もこの20年で大きく変わったように思います。久しぶりにこちらに来て、昔住んでいたボナビスタ周辺を訪れて見た町の変わり様には驚かされました。当時はMRTの駅の周辺にはHDB、その周りは森に囲まれていたように思います。マリーナ地区の開発やマリーナベイサンズをはじめとした新しいビルの数々、MRT路線、高速道路の拡張、セカンドリンクの完成、または街中を走るスーパーカー等、ハード面で目を見張るような大きな変化が多々ありますが、生活の中で感じる変化も数多くあります。物価の高騰が一番、身近な話題でしょうが、新年に当って、少し明るいお話しを中心にこの20年の変化の幾つかを挙げてみたいと思います。

まずは、生活面での利便性が圧倒的に向上していると感じます。ITの活用により特にバスの利用が格段に便利になり、路線ガイドと睨めっこをしなくても、島内何処へでも気軽に出かけられるようになりました。そのためか、バスを利用している外国人がすごく増えたと感じます。勿論、道も整備さ

れ、フォートカニングの脇の隧道を初めて通った時はシンガポールにもトンネルができたかと感動しましたが、ECP、CTEにはもっと大規模なトンネルができていました。

そして何とんでもシンガポールの人たちの生活の変化です。先日、ベイサンズシアターでコンサートを楽しむ機会を与えていただいたのですが、着飾ったカップルが大勢、いそいそとコンサートホールへ入っていく姿を眺めて感慨深いものがありました。街行く人たちの服装が随分綺麗になり、ハイヒールを履き日傘をさしている人を沢山見かけるようになりました。美容室、エステが街中至る所にあり、賑わっています。ロバートソンキー等、随分お洒落なレストランが軒を連ね外国人と共に様々な人種の若者が一緒にお酒や食事を楽しんでいます。一方、マリーナベイやシンガポールリバー沿い、ボタニックガーデン等至る所でジョギングをしている人たちを数多く見かけますし、毎週のようにマラソン大会が行われているようです。また街中では筋骨隆々、体格の良い若者を多く見かけます。健康への関心の高まりの結果でしょうか。

また今回こちらに来て、シンガポールの方達のやさしさを感じる機会が随分、多いように思います。MRTの駅、街中の交差点等で老人の手助けをする人たちをよく見かけますし、エレベーターの乗り降りで先を譲ってもらうことも多くなったように思います。豊かになるというのはこういうことかと思ったりしています。

20年前にこの国の経済活動の一端に携わらせていただいた者として、その後の見違えるようなこの国の発展を今回、こうして実感できることはとても嬉しいことです。この先20年後、この国はどのような姿になっているのでしょうか？政府が積極的に推進している様々なハブ機能を発揮して更なる経済成長を遂げているのでしょうか？近隣国と一体となった経済圏を形成して成長しているのでしょうか？結果は兎も角、政府が目に見える形であらゆる手を打っている姿はとても頼もしく、2度目の生活をこの国で過ごさせていただいている身としては、少しでもこうした努力に貢献することができればと思う次第です。

「それにしても酒代が嵩むな」とぼやきつつ、2015年のお正月を迎えるに当って気持ちを新たに諸課題に取り組んでまいりたいと思います。

この1年、皆様方の益々のご活躍とご家族を含めた皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

シンガポールに感謝

JCCI運営担当理事
Sumitomo Corporation Asia & Oceania Pte. LTd.
Director, Chief Operating Officer

岡田 卓也



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年4月に二度目のシンガポール赴任となりました。17年ぶりにシンガポールに赴任してまず感じた点は、中国人が増えたなという事です。移民や観光客など中国本土の影響が大きくなってきているという事だと思います。香港駐在時代(2006年～)も年を追うごとに中国本土の影響が大きくなってきた事を思い出します。それだけグローバルに中国の存在感が増してきている事だと思いますが、相対的に日本の存在感が薄れてきているとも言えます。

次に感じた事は、人口増のスピードです。最初に駐在した頃1990年の人口は305万人でした。確か出張者・海外のお客様に人口300万人と言っていた記憶があります。それが2013年には540万人と23年間に何と235万人、77%も増加しています。そしてシンガポール政府の都市開発庁は、2030年の人口を650～690万人と設定しています。活力に満ちたシンガポールを維持する為の人口計画ですが、その人口に対する居住スペース・インフラの整備、確保を事前に考え 既に行動に移しています。

最後に、マリーナ湾地区の大変化は驚きを超えました。世界一高い天空プールのマリーナ・ベイ・

サンズ周辺の再開発、複合エンターテインメント施設は、今やシンガポールの一大観光名所ともなっています。嘗て1990年代はゴルフ練習場、ホーカーが立ち並ぶただの埋立地でしたので、本当にマリーナ湾かと疑うほどの変わり様です。ここマリーナ湾では既に2012年から3年連続で建国記念日の一大パレードが実施されています。小生も昨年8月9日に式典を見学し、同国の発展を続けるエネルギーと元気を肌で感じました。

ダーウィンの種の起源ではありませんが、『強い者、頭の良い者が生き残るのではない、変化するものが生き残るのだ』という事を引用すれば、シンガポールが今後益々グローバル国家として周辺国をリードしながら更に発展し行く事は論を俟たないでしょう。経済活動に従事する我々も、高い技術を持つ国民、革新的経済、特色あるグローバル国家シンガポールには大いに見習う点があるのではないかと思います。

さて、我々は当地をベースとして周辺国で様々な経済活動をしています。シンガポールの安全、高度なインフラの恩恵を受けビジネスに専念できています。少々ラーメンや日本食材の値段が高い事はありますが、何よりも生活基盤がしっかりしている事は有り難い事だと思います。

今年はシンガポール建国50周年、又、日本人会も100周年を迎える節目の年です。我々日本人として改めてシンガポールに感謝しつつ、両国

の関係を維持し更に強固にすべく、新たな一年として踏み出して行ければと思います。

今年の干支の羊は、集団行動を好み、じっくり周りの行動を観察してどうすべきかを良く考える動物だそうです。又、温順で環境適応能力が高いとも言われています。

本年一年会頭を中心に、会員の皆様のお役に立てるよう頑張ってお参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

末筆ではございますが、本年が会員の皆様及びご家族にとりまして幸多き一年となりますよう心よりお祈り致します。

新年を迎えて

JCCI理事
ALL NIPPON AIRWAYS CO.,LTD.
GENERAL MANAGER, SINGAPORE OFFICE

富田 光欧



会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。新年の門出にあたり謹んでご挨拶申し上げます。昨年4月に赴任いたしました私にとって初めて迎えるシンガポールでのお正月には日本でのお正月とは違った新鮮な喜びを感じております。

今年はシンガポールにとって建国50周年の記念すべき年となりますが、建国以降で最も国情が安定し経済も活性化し国民も豊かさを謳歌しているこのタイミングで50周年の祝年を迎えることができることはシンガポールの皆さんにとって素晴らしく、心よりお祝い申し上げます。もちろん今年の建国記念日の祝典は例年以上にとっても華やかなものになるでしょうし、その他にも多くの記念イベントが催されていく中でシンガポール国民の皆さんも国の繁栄や誇りに胸を膨らませ、そして更なる発展への期待で気持ちも高揚してくる一年になることでしょう。どこの国でも国家の成長において新しい時代にステップが進む分岐点(ターニングポイント)があると思いますが、今年のシンガポールもそういう年に位置づけられるのではないのでしょうか。私にとってもその節目となる歴史的な年にシンガポールに駐在できたことはとても幸運だと思っております。

私は2007年から2009年まで米国に駐在しておりましたがその時にも同じような経験をいたしました。それはバラク・オバマ氏が米国初の黒人(アフリカ系)大統領となった瞬間でした。ご存

知の通りアメリカ合衆国大統領選挙は予備選挙から本選挙まで長い選挙戦が繰り広げられますが、黒人大統領誕生の可能性が高まるにつれ米国民の新しい時代への期待感が高まり、2008年11月4日の選挙においてオバマ氏が第44代アメリカ合衆国大統領に決定した瞬間には「CHANGE」「YES, WE CAN」のスローガンとともに米国は興奮のるつぼと化しました。私の周りにいたアメリカ人達も支持政党や人種を問わず新しい時代の幕開けに目を輝かせて喜んでいたことを思い出します。それから6年以上が経ちアメリカ国民の中にも往時の高揚感はまだ残っていないかもしれませんが、それでも私にはあの時のオバマ大統領誕生が米国や米国国民にとって更なる発展に向けてのスタートとなる歴史の分岐点になったのではないかと感じております。私にとってはシンガポールにおいてその時と同じような歴史の分岐点に現地で立ち会える幸せを感じる新年となりました。

次に私の関わっている航空業界の2015年についても少し述べてみたいと思います。わずか50年の短い歴史の間に驚くべき発展を成し遂げたシンガポールですが、日本の航空業界も戦後初の国内民間航空定期便が就航したのが1951年ですのでシンガポールより少し長い程度の歴史しかありません。しかしその短い歴史の中で紆余曲折はあったもののシンガポールと同様に長足の発展を遂げてまいりました。シンガポール建国の年である1965年が日本の航空業界にとって

どんな年であったか調べたところ、戦後初の国産旅客機であるYS-11型機が羽田-徳島-高知路線で定期航空路線の運航を開始したのがまさにその年でありました。その後YS-11型機は日本の航空の発展を支えて合計で182機が生産されましたが利用者の増大による大型化やジェット化の流れの中で2006年に惜しまれながら国内定期路線から引退いたしました。そしてそのYS-11型機の運航開始からちょうど50年後に当たる今年にはYS-11型機以来の国産旅客機となるMRJ(三菱リージョナルジェット)の初飛行が計画されております。MRJが定期便として日本の空に就航するまでにはまだ数年はかかると思いますが間違いなく日本の航空にとって次の50年の扉を開ける新しい航空機のひとつとなると思います。航空業界で働く我々にとってはついにそのMRJの初飛行を迎える嬉しい年となります。

またアジアと日本のつながり而言えば、2015年は“2016年に訪日2000万人”という大きな目標に向かっての重要な年となります。アジアにおいては日本を含めた各空港の拡大、LCCの台頭や円安など訪日外国人増加への後押しとなる環境が整ってきてはおりますが、2000万人という大きな目標を考えれば我々も日本の航空会社としてさらに新たな工夫をしてまいりたいと思っております。当地シンガポールにおきましても私も所属しております「観光・流通・サービス部会」を始めオールジャパンで訪日外国人増加に向けて取組めればと思っておりますので是非ご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年が皆様にとって良い1年となりますよう祈念して新年のご挨拶とさせて頂きたいと思っております。本年もよろしくお願い申し上げます。

変わりゆくシンガポール

JCCI理事
Mitsubishi Corporation
General Manager, Singapore Branch
高橋 健司



皆様、新年あけましておめでとうございます。

今年は1965年のシンガポール独立から数えて50年目に当たります。8月9日の独立記念日に向け各種のイベントや講演会、テレビ番組等、国を挙げて盛り上がって行く事でしょう。

この50年間にシンガポールはどう変わってきたのだろう、そんな事を正月つらつら愚考しました。シンガポール社会が目覚しい発展を遂げた事はここに挙げる迄ありません。独立から30年経た1990年代半ばに私自身クアラ Lumpur に暮らし、シンガポールを訪れる機会も多くなりましたが、当時を思い出せばシンガポールは近代都市に脱皮しつつも未だコロニアルな雰囲気を残し、路地に分け入れればアジア的混沌とも言うべき香りに満ちていました。1995年のシンガポールの一人当たりGDPは約25,000ドル、シンガポールから見れば日本はバブルの後遺症に悩みつつも未だ‘アジアの盟主’でした。

それから20年、今やシンガポールは一人当たりGDPでアジアNO.1のお金持ちとなり、国民の持ち家比率は90%超(2013年)、社会インフラの整備状況や、ついでに物価の高さ(苦笑)から見ても堂々たる先進国です。

この間にもう一つ大きく変わったのがシンガポールの中国に対する立ち位置と姿勢ではないでしょうか。勿論シンガポール人の74%は中国系ですから、食べ物や文化、習慣の面で中国の影響

が最も強い事は独立以前から変わりません。ただシンガポールが中国と正式に国交を結んだのは1990年とかなり遅く、個人的な記憶でも1990年代のシンガポールの街角では中国よりむしろ日本の存在感がずっと大きかったように思います。今やシンガポールにとり中国は最大の貿易相手国、最大の投資先です。最近ではシンガポール政府も中国系アイデンティティを隠さず、中国政府との繋りを強めています。

だからといってシンガポールは、中国一辺倒というわけではありません。むしろ中国の台頭を警戒する米国やアジアの国々と中国をとりなし、両者の架け橋としての立場を強く意識しているように思われます。それが50年間小国ながらも複雑な国際関係の中でサバイブし、一歩ずつ繁栄を目指してきたシンガポールの現在の視点ではないでしょうか。そしてこの絶妙のバランス感覚と、機を適確に捉えて自ら行動する意志こそが、アジアの一都市国家に50年前には想像すら出来なかった国際社会での存在感を与えた素なのではないか、と改めて思った次第です。

最後になりましたが、2015年がシンガポールの皆様にとり、明るく希望に満ちた年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

「ここでしか出来ないこと」探し

JCCI理事
Panasonic Asia Pacific Pte. Ltd
Director, Member of the Board
工藤 俊和



会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いします。

私は、2012年10月にシンガポールに赴任し2年3ヶ月が過ぎました。パナソニック・アジア・パシフィック社というパナソニックグループの東南アジア・オセアニア地域の統括本社に勤務し、地域の法務・リスクマネジメントを担当しております。アメリカでの留学を入れますと、2度目の海外勤務・生活ということになります。

シンガポールに赴任する前、社内の知り合いに挨拶に行くと、「私もシンガポールに赴任してきました」という方々に多く出会いました。いつも言われるのが「シンガポールは住み易くて最高ですよ！でも、シンガポールは狭くてすぐに飽きちゃいますよ・・・。」

さて、夢を膨らませて、シンガポールに赴任し、家族も呼び寄せ、いざ生活をスタート。。。

ところが、セントーサ島などのアミューズメントもすぐに行き尽くし、ショッピングモールもどこも同じような感じ、また街が狭いせいか、車で出かける度に見えるマリーナベイサンズ、最初はあれほど感動して見たのですが、いつの間にか何の感動無くなり。また、近隣諸国も、どこに行っても、うーん、「アジアだ」。インドネシアもタイも正直区別も余り良くわからない。。。リゾートに行っても自宅コンドと変わらないな。。。、何と贅沢なことですが、

なるほど、こういうことか・・・と挨拶での出来事を思い出しました。しかし、この現状を何とか打破せねば・・・。

まずは、仕事面。多くの理事の方々とは異なり、私は法務を担当しております。仕事も大きく変わりました。日本では、主にM&Aなど新聞紙上を賑わす華やかな世界を担当しておりましたが、こちらでの主な法務課題は、ガバナンス、コンプライアンス、訴訟、不正対策。例えば、インドネシアでの訴訟、なんと判例が公開されていない、証人尋問では裁判官が冒頭証人との握手するのが慣わし、更には裁判官が証人を質問攻め、極めつけは、判決から判決文が届くの半年、司法現場での実務に驚きの連続です。或いは、地域のグループ会社(上場会社)の取締役を兼任している関係で、株主総会に出席。大きな流れは日本と余り変わりませんが、株主からの質問の多さに驚きです。アナリストさながらの鋭い質問から歌を歌う名物株主まで、入り込めば入り込むほどに、飽きるどころか誠に興味深い世界が広がっておりました。

プライベート。日本でやってきてこちらで出来きそうなことと言うことで、実は巨大なラジコン・エンジン飛行機をわざわざ日本から持参。飛行場やクラブまで見つけたものの、忙しさもあり、遠く毎日。その代わりに、昔取った杵柄の卓球で毎週汗を流しています。日本人会のメンバーのお父さん、お母さん中心ですが、全日本実業団優勝チー

ムの元監督、元インターハイ選手、元大学体育会出身者など、非常にレベルも高く、シンガポール駐在員のレベルの高さに感動しています。ローカル大会などにも出場して腕を磨いております(卓球に興味のある方、ぜひご連絡下さい!)。卓球以外にも、子供の同級生に、元Jリーガーもいたり、シンガポール日本人も知れば知るほど、「濃い」人たちの集団だなと最近思っております。

食事。事務所がMRTで言いますと、中心部から少し離れた、ニコルハイウェイ駅、ブギス駅、ラベンダー駅近辺にございます。ここでしか食べられないものと言えば、ローカル系&ホーカー系ですが、自宅近辺も含め、ほぼ行き尽くしました。最近、ブリヤニなどのカレー系に凝っております。休日の夕方、家族全員で近所のホーカーでディナー!?家族で和気あいあいと食事を楽しむシンガポリアンたちの中で、家族一緒に食事することは不思議と心和むものがあります。果物も、ドリアン、マンゴーやマンゴスティンなどはもちろんですが、色々と試す中で、デューク(Duke)、最初は変な味でしたが、一時非常にはまっていました。日本に帰任後は食べられないと思うと、より貴重で美味しく感じられます。

その他、ローカル社員の流動性と採用の難しさ故に、採用面談が年中行事化しつつあり、頭を悩ませております。一方で、近隣諸国も含めた候補者の面談は、様々の層、レベルの候補者の関心や動機などを知る貴重な機会でもあり、会社とし

てそれに応えていく、変わって行かなければいけないということを考える大きなきっかけとなっております。

さて、2015年は未(ひつじ)年です。格言を調べてみましたところ、「辛抱」ということでした。少しずつ先行きにも明るさが見えてきましたが、もう少しの辛抱ということなののでしょうか。今年も様々な経済、経営課題が待ち受けていると思いますが、少し辛抱、じっくり考え、入り込み、新たな世界、「ここでしか出来ないこと」にチャレンジしたいと思います。

もちろん、シンガポール日本商工会議所でのお役目もここでしか出来ないこと、会員各社様のお役に少しでも立てればと思いますと共に、理事、会員の皆様との親交を深めて参りたいと思います。本年も宜しくお願い致します。

ふるさと島根

JCCI理事
Sojitz Asia Pte.Ltd.
Managing Director, President & CEO for Asia & Oceania

加藤 英明



島根県の人口約70万人は47都道府県中46番目、山陰という呼び方もなにやらパツとしませんが、最も知名度の低い県のひとつの様で、最近では知名度の低いことを自虐ネタに県をPRしている有様です。その島根の松江市が私の故郷。

東は安来市(あの安来節発祥地)から西は山口県萩近く津和野町まで東西に長い県ですが、日本海には隠岐の島(隣の国と政治問題になっている竹島も島根県ですが)、世界遺産に指定された石見銀山と名所を挙げるとすれば、やはり出雲大社ですか。出雲大社は最近「縁結び」で参拝者が増えており、最寄の出雲空港も「出雲縁結び空港」と銘打っています。

2013年は60年ぶりの出雲大社の大遷宮が伊勢神宮の20年ぶりの式年遷宮と重なり話題になりました。ちなみに伊勢神宮は全て建て替えて新しい木材・部材を使うのに対し、出雲大社は再使用可能なものは釘一本でも極力再使用する「修造」という点に大きな違いがあります。いわば昔から行われてきた筋金入りのリサイクル事業とも言えます。

出雲大社でもう一つ話題になったのは、昨年高円宮典子さまと出雲大社の千家(せんげ)国麿さんの結婚。伊勢神宮は天皇家由来のアマテラスオオミカミを祀っていますが、出雲大社はオオクニヌシノカミで、お二人の結婚は過去2千年以上疎遠であった天皇家と千家つまり伊勢神宮と出雲大社の縁が繋がったという歴史的な意味があると

も言えるわけです。

ちなみに、他県が10月を神無月と呼ぶのに対し、出雲では神有月と言います。10月は全国の神様が出雲大社に集まって会議をする(?)との言い伝えで、出雲が神話の国と言われる所以でもあります。

出雲のことばかり書きましたが、私の故郷は出雲と宍道湖を挟んだ城下街松江市。宍道湖はしじみが名産ですが、湖面に沈む夕日は特筆すべき美しさです。温泉も湧き、昔の城主が好んだ為茶道が盛ん(従って和菓子店も多い)なところですよ。

人口20万ほどの松江市ですが、周辺の町村は過疎化が進み過去10年で二桁人口減の地域が複数あります。これは島根に限ったことではなく、過疎化と人口の急速な高齢化はまさに日本全国全ての地方が抱える深刻な問題です。このペースで人口減少が続けば、5~6年後には人口半減の地域が続出する現実がすぐそこにあります。

子供が独立すると親の面倒見が始まるといいますが、ここ10年近く、昨年4月シンガポール赴任まで、松江にはほぼ毎月帰っていました。2年前父親が他界し、今は母親が一人で暮らしており、当地赴任後も日本出張、プライベートでの帰国の折には、出来るだけ帰省しています。その度地方都市の抱える問題を実感する次第です。

とはいえ、自然豊かで城を中心に堀が市の中心部を巡ることから水の都と称され、武家屋敷等歴史ある街並みが残る松江は私にとって他のどの街よりも心が落ち着く場所です。そういうわけで、リタイア後は生まれ育った街で過ごしたいの思いもあり、東京育ちのオクサンにその旨軽く打診したところ、見事に却下。その明確な反応は些かサプライズでしたが、友達のいない土地はイヤデス、ということでヤムナシ。行くならおひとりということなので、将来又単身赴任の自由を満喫出来るかもしれません。

実は今回島根のテーマを選んだ理由はシンガポールでの同県人探しです。これまで自分なりのネットワークで見つけられたのは一人だけで、その方も異動で既に帰国され、現在一人県人会です。この稿を読まれた方乃至周りに島根ご出身の方がおられたら是非ご一報ください。島根の銘酒でおおいに盛り上がりましょう。

今年が皆さんにとってよい年でありますよう祈念します。

新年雑感 「未来に一番近い島」

JCCI理事
Toray International Singapore Pte.Ltd.
Managing Director

鈴木 孝林



会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

2014年7月にシンガポールに赴任し、ようやく半年が経とうとしています。私にとっては20年ぶりの海外赴任であり、たくさんの刺激と発見に満ちた日々が(今でも)続いております。この間会員の皆様には親身なお世話を頂戴し、心よりお礼を申し上げます。

20年前に赴任したのはマレーシアのペナン島でした。そして今回、同じマラッカ海峡につながるシンガポール島に戻り、何か不思議な縁を感じた次第です。

ところで前回赴任の際、当時の上司から言われたのが、ペナンは「天国に一番近い島」であるという言葉でした。その言葉通り、昔のことゆえ暮らしの不便さはあったものの、公私ともに充実した日々を過ごせました。

そして現在のシンガポール。市街地には視界を遮る高層ビル群、郊外には先進的な研究施設や先端技術のメガ工場。また国全体でデザインされた水処理施設などの公共インフラの充実。いわば時代の先端が詰まった島の姿を目にして驚くことの連続でした。ここはさしずめ「未来に一番近い島」かもしれません。

さて、「天国」は自分がそうだと思えばどこでも天国ですが、「未来」は常に追いかけて続けなければなりません。シンガポールは経済発展を追い求め続ける国だと言われます。何のための経済発展かという議論はテツガク的になるので置いておくとして、この国の未来のひとつの姿が、世界で一番豊かな島になることであるのは間違いないでしょう。その為に万を超すエリートが知恵を絞り、世界中から人と組織を集め、その人たちが

巨大なお金とモノを動かし続ける、それがこの小さな島で起こっていることなのでしょう。私にその実態は全く見えませんが、エネルギーは感じるができます。その密度とスピード感が圧倒的なゆえ、未だ来たらぬものに一番近い場所と感じさせるのかもしれませんが。

ひるがえって、ここに身を置く私と当社にとって未来とは何か？ 当社グループはアセアン地域にいくつか生産工場群を持ちますが、シンガポールには工場がありません。マレーシア、インドネシア、タイなどとは違う、この国ならではの姿は何か？ 新年早々、頭が痛くなる難問です。

ここで思い当たるのはこの国の歴史です。マレーシアとインドネシアという“土地持ち”に挟まれ、小さな島国として生き残るために、今のスタイルを選択してきました。地の利を活かしながら、情報とお金をネットワークの中でうまく使うこと。そこからなにがしかの知恵を拝借できないか？ 会員の各社様におかれては既にそれぞれの答えを見出しておられると存じますが、私にとってはまだまだ見当のつかないことばかりです。

しかし焦りは禁物。ここはひとつ腰を落ち着けて、チキンライスやバクテーに舌鼓をうちつつ、じっくりとこの国を観察していくしかないと思っています。何年かかるかわかりませんが、運が良ければ当社の未来がどこかに透けているかもしれません。そう思いながら、これからもシンガポールに強く興味を持ち続けていきたいと考えています。

とりとめのない雑感となりました。

本年も会員の皆様にとって有意義な一年となりますことを祈念しております。

新年ご挨拶

Japanese Chamber of Commerce & Industry, Singapore
Secretary General

長尾 健太郎



新年明けましておめでとうございます。

昨年3月に新たに事務局長として着任して9ヶ月が過ぎ、このように新年のご挨拶をさせていただく時期となりました。2014年は、来年のシンガポール建国50周年、その翌年の日本シンガポール外交樹立50周年を控える、日星両国にとって節目となる時期に足を踏み入れた一年でございました。このような大切な時期にシンガポールへ赴任し、身が引き締まりますと共に、多々ご迷惑をお掛けすることも多い中、正副会頭、理事、会員企業、関係機関の皆様より多大なご支援を頂きましたことに、厚く御礼を申し上げたく存じます。

私は大阪商工会議所より派遣されました。同会議所からは、シンガポールの他にはタイのバンコク、ベトナムのホーチミンの各日本商工会議所へ、事務局長が派遣されております。

私は、大阪商工会議所では派遣前に国際部に所属しており、主に在阪中小企業の製造業拠点の海外進出支援を担当しておりました。ご承知の通り、これら中小企業の製造業拠点はインドネシアやベトナム、タイなどで集積が進んでおり、私の出張や視察団派遣についてもこれらの国々が中心で、実はシンガポールに長期にわたって滞在いたしましたのは、今回の赴任が初めてでございました。赴任後数日の間、近代的なビルが立ち並び、多民族が共存するシンガポールの様子を圧倒されたことを、昨日のこのように思い出せませ

着任以来、EDBなどの政府機関の方々とお話しする機会も多く、また、僅か50年で急激な発展を遂げたその歴史を学ばせて頂く場も多く頂きましたが、シンガポール政府の柔軟かつ確固とした開発政策の運用に深く感銘を受けると共に、日本や日本企業が同国でどれだけ経済・社会に貢献してきたか、知ることが出来ました。JCCIにつきましても、1969年の設立後45年が経ちましたが、過去の活動の歴史を紐解きましても、それぞれの時代時代に求められる役割を果たすべく、会員様のご支援の下、数多くの活動を展開してきたことが分かります。現在のシンガポールでは、アセアンや南西アジア、遠く中東やアフリカ、南アメリカまでもカバーする統括拠点の設置が進み、会員様のニーズや業務内容もますます多様化しております。この変化に伴い、JCCIに求められる役割も今後変化していくものと存じます。まだまだ未熟な身でございますが、皆様の声に耳を傾け、今の時代に必要とされる商工会議所活動を目指し、支えるべく、努めたいと存じます。

最後になりましたが、各部会活動、委員会活動、賃金調査や基金活動など、JCCIの全事業へご協力・ご尽力を頂いております全ての会員様へ、心より御礼申し上げます。皆様にとって、2015年が実り多き一年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



「住めば都」を思う。

JCCI副会頭 / 第1工業部会 部会長
Nippon Steel & Sumitomo Metal Southeast Asia Pte. Ltd.
Managing Director

川口 敬一郎



明けましておめでとうございます。私は今年シンガポールで四度目の正月を迎えましたが、四年前と昨年あたりではASEAN諸国の各都市の風景だけではなく経済の様子もかなり変わったように感じます。四年前はシンガポールはもとより、ASEANの経済大国であるインドネシア、タイの成長率は著しく、とりわけ日系企業では自動車関連企業の進出・拡張が相次いでいて、「とにかく東南アジアだ」という声が強くなっていました。ところが、昨年あたりからアベノミクスの効果やら2020年東京オリンピック決定やらで、日本の景気も以前と比べると格段に改善したせいか、「どうして東南アジアの事業は儲からないのか」といった言い方がかなり増えてきたようです。

タイ、インドネシアはGDP等の数字の上でも明らかに景気減速感が見られます。とはいえ中間所得者層の拡大や旺盛なインフラ投資需要からすれば、依然としてASEAN諸国の経済発展への期待は根強く、今年の後半あたりからは回復へ向かうという予想が多いようです。私も基本は同じ想いですが、いくつか心配もあります。最も感じるのは物価高でしょう。人件費や土地代もかなり上がってしまいました。円安なので日本人にとってはなおさらです。昨年7月に第一工業部会が中心となってバタム工業団地視察ツアーを開催した際に、その説明者は「バタムの魅力は“安さ”だ。」と自慢気でしたが、実際には「シンガポールより安い」のであって、今や日本の地方都市のそれらの方がむしろ安い気がしました。

大国、中国は国家発展政策以降、欧米・日本等の先進技術を恐るべきスピードで取り入れ、かつ批判はあっても自らの技術・商品として取り込んで来ました。今や中国企業があらゆる産業分野で世界をリードしている感すらあります。しかし、つい最近まで「世界の工場」と言われた中国も人件費や物価の上昇で急速に競争力を失いつつあります。

一方、ASEAN諸国はどうでしょうか。かつての日本企業からすれば東南アジアで事業展開の理由は人件費や土地代の安さだったのですが、少なくとも東南アジアで物を安く造るメリットは次第に小さくなる方向へ向かっているようです。私は、中国の発展の背景には四千年以上に亘る文化ととりわけ教育の積み重ねがあると思っていますが、東南アジア諸国はそれも薄いのが実態でしょう。インドネシアにしても結局は資源輸出のみであったため、資源ブームが去り、自国の消費ニーズが強まると貿易赤字国に逆戻りするという構造的な経済の脆弱性を露呈してしまいました。今後新政権が構造的な経済改革を進めるとしても当面は「外国頼み」です。そういう意味では先々中国以上に深刻であるように思えます。

東南アジア諸国のリーダーたちは、経済的な格差が拡大する中で圧倒的多数の低所得者層の不満をどうコントロールしていくのかについても益々難しさを迫られています。これまで小さな島国であるシンガポールは強力な政治的リーダーシップで国を豊かにしてきましたが、これからASEAN各国がどう収めていくのか、どうやらシンガポールですら

そのあたりに行き詰まり感が出てきているようにすら思われます。

TTP交渉は、東南アジア諸国の勢いを取り込もうという先進国の思惑と、東南アジア側参加国には先進国に取り込まれてたまるかという意識が強く働いているようです。また、物価が高騰し平準化が進めば自由化の中では最終的には生産性のレベルが総合的に高いところが勝ち残っていくのが現実。日本という国は少子高齢化という課題を抱えつつも、そういう意味では将来的にも強いのかもしれません。一方で東南アジアはどうなっていくのか、四年間シンガポールで生活を営み、ASEAN各国を歩き回っていると自然に「住めば都」です。好きになり、気になります。そんな気持ちで新しい年を迎えました。

2015年を迎えて

第2工業部会 部会長
Kikkoman (S) Pte Ltd
General Manager

林 久順



皆様、新年明けましておめでとうございます。

JCCI参加半年にして慣習により、第2工業部会長を仰せつかりました。非常に不慣れな中、事務局長を始めとするスタッフの皆様、また、会頭、先輩理事、第2工業部会幹事の皆様からのご指導を戴きながら、何とか今日まで来られました。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

さて、第2工場部会は、化学、製薬、食品の各製造業の集まりであり、業界動向をひとまとめにお話しすることが出来ません。本日は、私が属する食品業界の流れについて、2014年を振り返り、今後の展望をご紹介したいと思います。

まず第一に、製造業の共通の悩みとして、製造コストアップ(人件費、ユーティリティーコスト、原料費等)があげられます。特に、国内の労働力を補うはずの外国人労働者の雇用に関する規制強化(外国人雇用税の段階的引き上げ、EP・Sパスの基本給引上げ、Job Bank登録義務化等)により人件費全体がアップしており非常に頭が痛いところです。知らない間に、自社のオペレーターより近くのコーヒーショップのウエイトレスの給料の方が高くなったと話も聞きます。

今後、シンガポール政府がどのように対応していくのか、非常に興味があると共に、人件費を抑制する方策を切に願うところであります。

第二に、この2年間でのシンドルに対する円安(2012年6月;S\$1=61円 ⇒ 2014年11月;S\$1=90円)が急激に進んでおります。そのため、日

本製品が安価で輸入され、現地生産品と競合する場面が起こっていると耳にします。この点は、円建て給与の駐在員の方々は、その変化を身を持って実感しているところでもあります。

シンガポール政府は、輸入に頼る自国を鑑み、円のみならず各国通貨に対しシンドル高を維持していくと言われております。これは、現在、シンガポール政府が力を入れている知的財産、金融中心の国作りの方向性を裏付けており、この先、この国で輸出用の単価の安い製品を作る製造業を取り巻く環境が一層厳しくなっていくものと思われます。

第三に、当部会に関係する明るい話題として、2013年12月に「和食 日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。

かなり以前から、和食ブームは、「和食=健康」のイメージで世界各地で起こっておりましたが、今回は、登録を契機に日本政府を挙げて日本産食品輸出を促進しており、アセアンのショーウィンドーと言われているシンガポールでは毎月どこかで日本産食品の紹介イベントが開かれております。紹介される食品は各地の特産品(くだもの、日本酒、焼酎等)、ラーメン、カレーライスまでに広がっております。

また、ここシンガポールでは、日本の大手外食チェーンに加え、地方の有名なラーメン店の出店が非常に活発であり、どこのショッピングセンターにも回転すし店とラーメン店が必ずと言っていいほどあり、お客さんの入りも良いようです。一日で、日本中の有名店のラーメンの食べ歩きが出来る

ほどです。

このシンガポールでの成功事例をアセアン各国に展開され、成功を収めつつある企業様もあり、今後の益々の発展が期待出来ます。

一方、まだまだアセアンのマーケットは一様ではありません。一例として、食品のマーケティングに重要である食材を購入する食品雑貨系の店舗形態別売上割合をご紹介します。

シンガポールに次ぐ所得の高いマレーシアですら個人商店での売上が50%近くあり、タイ・フィリピン・インドネシアでは80%以上が個人商店での売上です。(シンガポールの統計は示していませんが、個人商店の割合は極めて低いです。)これに、各国の諸事情(各所得層の割合、民族構成、宗教等)を考慮すると、混沌したアセアン・マーケットを垣間見ることが出来ます。

「和食」という新しいキーワードを通して、アセアンでの日本の良さ(Made in Japan)が更に一層浸透することを期待したいところであります。

第四に、近年、シンガポール政府の優遇制度もあり、アセアン域内でのサプライチェーンの拠点としてシンガポールにアセアン統括本部を設置される企業様が第2工業部会企業様のみならずJCCI加盟企業様に増えており、今後さらに増えて行く様子です。シンガポールの地政学的な重要度が益々上がっていることを肌で感じております。

最後になりますが、近年、駐在員の諸先輩が作

られた名言、「WBS」、「OKY」、「OSO」に続き、来年はどのような言葉が出て来るのか楽しみにしつつ、皆様のご健勝と会員企業様にとって飛躍される2015年であることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

一眼レフ、ミラーレス、コンパクトカメラの 違いと販売動向

JCCI運営担当理事 / 第3工業部会 部会長
Canon Singapore Pte. Ltd.
President & CEO

小西 謙作



新年明けましておめでとうございます。

2012年1月よりシンガポールに再赴任となり、今年度第3工業部会長を仰せつかりました。事務局長を始めとするスタッフの皆様、また、会頭、副会頭、先輩理事諸氏からのご指導も賜りながら活動を進めて参りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今年はシンガポール独立50周年を迎え、様々なイベントが予定され、写真を撮る機会も増えると存じます。近年スマートフォンが爆発的に普及・拡大しておりベトナムやタイなどの中間新興国はおろかミャンマーやラオスなどにおいても都市部の若者を中心に広がっております。アジアにおいて、多くの人々が最初にもつカメラは今のところスマートフォンのカメラ機能ということになります。誰もが簡単に写真撮影できるスマートフォンを保有している時代において、従来型カメラも単なる「撮影ができる機器」以上の付加価値が求められております。

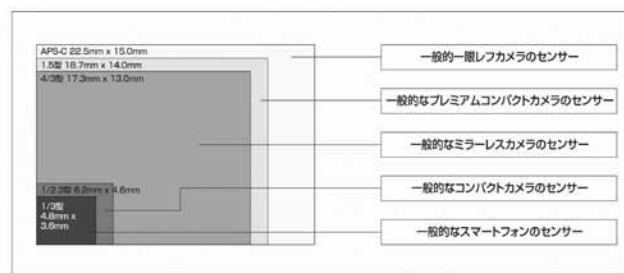
現在、カメラは大きく分けて、レンズ交換が可能で大きなレンズを活かした高画質かつ動きの早い被写体の撮影に適した一眼レフカメラ、そこからプリズム部とミラーユニット部を取り除き低価格化・小型化したミラーレスカメラ、そしてレンズ一体型で小型なコンパクトカメラに分類されます。この中でも、ミラーレスカメラは一眼レフカメラ並みの高画質をコンパクトカメラと同等の小さなボディで撮影できるカメラとして、シンガポールではレンズ交換カメラの4割以上を占めるなど、日本、中国、タイなどアジア地域を中心にここ数年売上げ台数を大きく伸ばしております。

一眼レフカメラで撮影したような明瞭感やボケ感がある写真をコンパクトなボディで楽しめるとあって、流行に敏感な若年層や子育て世代に人気のミラーレスカメラですが、購入者の中からは、付属の標準的なセットレンズでは思ったような写真が撮れず、かといって高価な交換レンズを何本も揃えるのは難しいという声も出てきております。レンズ交換式カメラは雄大な風景を収める広角レンズやケーキなどをよりおいしそうに写し出す接写レンズなど、用途に応じて使い分けることにより、その真価が発揮されるので、カメラのポテンシャルを引き出すという観点からは非常に残念な状況です。

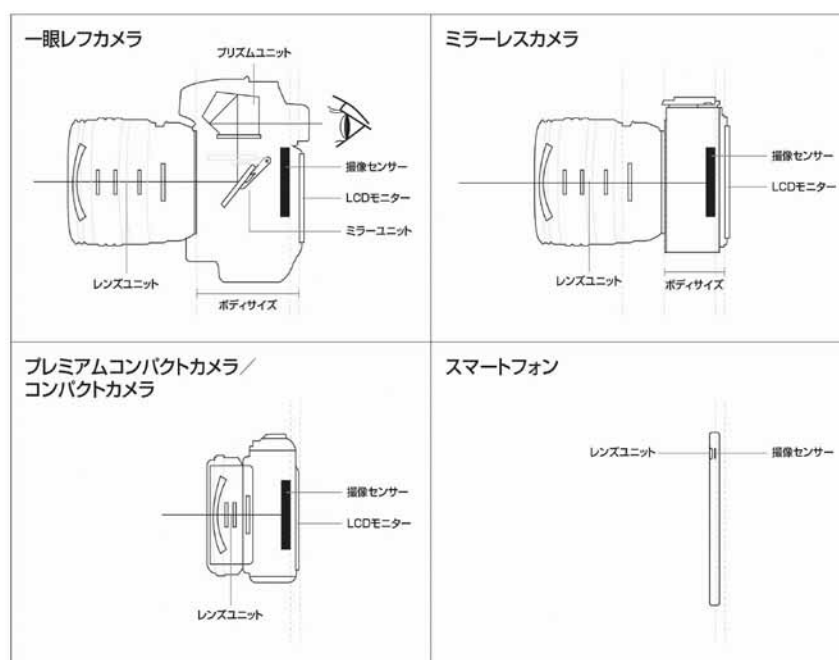
そこで、ここ1,2年で注目され始めたのがプレミアムコンパクトカメラという新しいカテゴリーです。一眼レフカメラとほぼ同等の大きな画像撮影センサーを搭載しながら、コンパクトなボディを実現しており、さらに一眼レフカメラであれば接写レンズや広角ズームレンズ、単焦点レンズなど4-5本分の撮影領域をカバーするクオリティの高いレンズを搭載することで、10万円前後の価格帯ながら、中級クラスの一眼レフに迫る画質の撮影が可能です。これを一眼レフで全て揃えると40万円くらいの予算は必要です。一眼レフカメラなみの画質をもったプレミアムコンパクトカメラは、写真趣味層に加え、カメラ一台で色々楽しみたいライトな写真趣味層にも支持され、急速な拡大をみせております。既存カメラ市場の縮小に悩まされているカメラ各社も付加価値を提案できる市場として多くの特徴的な新製品を投入しており一層の拡大が期待されています。

スマートフォンで撮影の楽しみを知った人々に、ファインダーを通じて撮る喜びや撮影者の想像力を具現化する力をもった一眼レフカメラ、レンズ交換の機能性を小型ボディで楽しめるミラーレス、そして一眼レフカメラの画質をコンパクトなボディで手軽に楽しめるプレミアムコンパクトカメラ、これらの商品群をユーザーの楽しみ方の違いにあわせて、提供していくことにより、東南アジアにおいても芳醇な写真文化を醸成していくことができると考えております。スマートフォン需要の勢いが一巡する2015年頃までは、カメラにとっては厳しい市況が続くと想定されておりますが、Facebookなどの普及による写真を見る機会の爆発的な増加を追い風として、一生の思い出をより良く残すためのサポートを続けてまいりたいと考えております。

■ カメラの心臓部であるセンサーサイズの違い
大きいほうがより魅力的な画質の撮影が可能。



■ 一眼レフ、ミラーレス、コンパクトカメラの構造の違い



2014年の回顧と2015年の展望

貿易部会 部会長
Marubeni Asean Pte. Ltd.
COO

出口 洋一郎



新年あけましておめでとうございます。

振り返りますと、2014年の世界経済はまだら模様の一年でした。米国では雇用が順調に回復し、消費も底堅く推移する中で量的緩和の縮小が着実に進展しましたが、欧州の景気回復は足踏み状態にあります。日本においては、消費増税後の内需の回復を見極める状況が続きました。他方、新興国では中国の景気減速懸念をはじめ、ウクライナやイラクでは地政学的リスクが顕在化する等、全般的に停滞感が感じられました。その中で、ASEANはタイのクーデターやインドネシアの大統領選挙など、一時的な混乱や停滞があったものの、全般的には堅調な一年だったと言えるのではないのでしょうか。

2015年は世界経済の本格回復が期待される中、ASEANが改めて注目されるとみています。最大の理由は言うまでもなく、2015年末に発足する予定のASEAN経済共同体(AEC)です。貿易及び投資の自由化は域内経済の一層の活性化につながり、とくにCLMV4ヶ国の経済成長の加速が期待されます。また、チャイナ・プラスワンの流れが続く中、東南アジアへの生産拠点の移転や域内分業の進展が予想され、シンガポールではASEAN統合に向けた中核拠点の設立が進むものとみられます。また、ASEANにおける中間層の台頭や都市化の進展といった中長期的なトレンドがより鮮明になってきており、消費市場の変革や地域の有力企業の動向も注目されます。

年後半にはタイやミャンマーでの総選挙が予定され、政治動向にも焦点が当たります。また、米国の利上げの実施時期と新興国への資本の流れの変化も定期的に話題に上がることが予想されます。しかし、AECがもたらす成長ポテンシャルを考えると、2014年に軟調だったASEAN向け投資も再び盛り上がりを見せるものと期待しています。

さて、ここシンガポールはといいますと、2015年は独立50周年の節目の年となります。予て的確な経済政策により右肩上がりの発展を続けているシンガポールにしても、都市化や少子高齢化に伴う諸問題を抱えています。昨今の政府首脳のスピーチにおいても経済から福祉へのシフト傾向が伺え、量から質の成長に向かっていくのではと思われれます。このように徐々に環境は変化していますが、AEC、イスカンダル開発等々、シンガポールは引き続きアジアのグローバルハブとしての魅力を保ち、その経済圏が拡大していくのは間違いないと確信しています。これは、シンガポールに拠点を構えるJCCI会員企業にとっても益々ビジネスチャンスが拡大することを意味します。

新しい2015年が皆様にとり実り多き一年になりますよう祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

2015年 新たな年への期待

JCCI副会頭 / 金融・保険部会 部会長
Tokio Marine Insurance Singapore Ltd.
Managing Director

結城 実



会員の皆様

新年明けましておめでとうございます。

昨年アベノミクス2年目、3本目の矢である成長戦略の具体化が注目され、また、ウクライナ情勢やエボラ出血熱といった大きなリスクの発生もあり、株価など経済指標は必ずしも順調ではありませんでした。こうした中、10月末に日銀が追加金融緩和を発表。米連邦準備理事会が量的緩和の終了を決めた2日後のことでした。このサプライズ追加緩和で為替は1ドル＝114円に下落し、日経平均株価も7年ぶりに17,000円を上回りました。一方、米国では、中間選挙で民主党が歴史的な大敗を喫し、野党共和党が上院でも過半数を獲得しました。共和党が上院下院を制したため、オバマ大統領の政権運営は一段と厳しくなり、米国のリーダーシップの更なる低下、地政学的な問題の頻発が懸念されています。これが本原稿を作成している11月上旬の状況です。

金融保険部会で10月に経済・為替・金利動向セミナーを開催しました。3名のパネラーの方は、長期的な円安傾向を予測され、また、2015年12月時点で1ドル＝114円程度まで円安が進行すると話しておられました。瞬間的ではありますが、1ヵ月後の11月上旬にこのレベルに達した訳で、日銀の追加緩和はまさにサプライズだったということだと思います。いずれにせよ、やや失速気味だったアベノミクスを日銀が援助した形ですが、安部政権が消費税を予定通り再度引き上げる決断を行うか、皆様が本稿をご覧になる頃には結論が出ていると思います。

私の仕事である損害保険業に関連するリスクという観点でも、今年には色々な事が起こりました。マレーシア航空機の消息不明、その後のウクライナ上空での撃墜事故、エボラ出血熱、イスラム国といった大事件が記憶に新しいところですが、日本国内でも、広島での土砂災害、御嶽山噴火、大型台風の直撃といった大きな災害が発生した年でした。長年損害保険の仕事をしておりますが、これだけ様々なリスクにより事件や事故が発生した年は過去に余りなかったように思います。また、被害に遭われた会員企業様には謹んでお見舞い申し上げます。日本での、最近数年間の自然災害の傾向としては、温暖化などの影響により過去顕在化していなかった災害の発生や危険度の増加による災害の大規模化が顕著です。前者の例は、竜巻による被害です。また、(災害と言うかどうかは別にして)シンガポールでお馴染みのデング熱が日本で発生するとは考えていなかったと思います。後者は、局地的な集中豪雨による洪水や大型台風などです。

よく言われることですが、グローバルなサプライチェーンの展開により、離れた国で発生した災害や事件により、企業のオペレーションが大きな影響を受けることがあります。ASEAN諸国は既に密接な関係を持っていますが、AECにより更に大きな経済圏として発展していくこととなります。従って、ASEAN域内の様々なリスクを予め想定し、準備しておくことが当地で活動する企業にとって非常に重要だと思います。また、我々の所属する金融・保険業界もリスクマネジメントで会員企業の皆様のお役に立てるのではないかと思います。

今年はシンガポール建国50周年です。シンガポールにとって新たな飛躍の第一歩の年になります。我々在シンガポールの日本企業にとっても、今年が新たな良きスタートの1年となるよう祈念しております。

最後になりましたが、皆様のご健勝と会員企業様のご発展を心よりお祈り申し上げます。

2015年建設市場の動向について

建設部会 部会長
TAKENAKA CORPORATION
Senior Executive Managing Officer
長田 士郎



新年明けましておめでとうございます。

■ 建設市場動向

2014年のシンガポールのGDPは、前年同期比において、第1四半期で4.8%、第2四半期で2.4%、第3四半期は速報値で2.4%の成長が見込まれ、年初と比べてその伸び率が比較的低調に推移しており、通年での成長率予想は2.5%~3.5%とされています。建設投資についても、第1四半期での前年同期比6.8%成長に対し、第3四半期では前年同期比1.4%成長と低調な推移をみせており、その要因として民間部門の建設投資低迷が挙げられております。(Ministry of Trade and Industry発表)

一方、インフラ投資に関しては、MRTにおいて、建設中のトムソンラインとの将来的な直通運転が予定されているイーストコーストラインの新設計画が発表されています。計画によれば、全長13km、全9駅、総事業費約68億シンガポールドルのプロジェクトで、2015年に入札を実施、2016年より着工となっております。また、チャンギ国際空港では、既に建設中のターミナル4の他、ターミナル1の駐車場跡地における大規模複合施設の「Project Jewel」建設工事、将来のターミナル5建設に向けた空港拡張準備工事が動き出します。

■ 建設業を取り巻く環境

近年シンガポール政府主導によって生産性向上に向けた様々な取組が進められていますが、BCAにより、生産性向上に向けたロードマップの第2弾が2015年中に発表される事が明らか

になっています。

この発表においては、プレハブ工法等の生産性向上のための新工法の採用や、サプライヤーも含めたBIM(Building Information Modeling)の活用等が言及されております。その推進のための補助金制度においては、基金総額をこれまでの3億3,500万ドルから更に5,500万ドルを追加することによって、企業に対してより一層の生産性向上に向けた努力を求めています。

BIMとは3次元の建物のデジタルモデルに、設計・施工・維持管理に至るまでの情報を取り込む事で業務の効率化を図るもので、シンガポールにおいては先進的な取り組みがなされております。2013年よりBIMモデルによる建築申請が段階的に義務付けられてきましたが、2015年7月からは、5,000㎡以上の新築工事において義務付けられることとなり、更なるBIMの活用推進が企業にとって必要となってきます。

プレハブ工法等の新工法活用に関しては、労働生産性が伸び悩む建設業界において、非熟練外国人労働者の大量雇用からの脱却を目指す政府方針が具体化されたものに他なりません。外国人労働者雇用税の引き上げはこれまでも段階的になされてきておりますが、2015年7月、2016年7月にはそれぞれ更なる雇用税の引き上げが予定されています。また、2017年1月から建設会社に対し、雇用する外国人のワーク・パーミット(WP)保持者の10%を高技能の熟練建設労働者(R1)とすることを義務づけることを発表する一方で、熟練労働者の雇用を維持する建設会社に対し、外国人雇用税の負担軽減を図ることが表明されています。プロジェクトの規模に応じて、特定の技

能・資格を有する労働者を配置する事を義務付けているCore Trade制度への対応も含め、建設業界としてこれまで以上に熟練労働者の確保・育成を推進し、シンガポール政府の求める「量より質への転換」に役立てていかなくてはなりません。

■ 終わりに

シンガポールは建国50周年を迎えます。他国に比べればカントリーリスクも比較的小さく、今後も政府主導での長期的開発計画を中心に堅調な建設需要が見込まれます。日系建設会社にとっては従来その技術面や品質面を評価されて一定のシェアを確保し、海外進出における主要拠点の一つとして発展してきました。この立場を維持していくためにも、建設部会会員各企業と共に、様々な環境変化に適宜対応し、シンガポール社会に貢献していきたいと思っております。

最後に、2015年が皆様にとって実りある良い一年となります事を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

国際展示会における物流の役割

運輸・通信部会 部会長
Yusen Logistics (Singapore) Pte.Ltd.
Chief Regional Officer
木村 敏行



2015年スタートにあたり、2014年の物流動向を「国際展示会」をキーに振り返り、シンガポールにおける日系企業の進出・事業拡大に、物流業界・JCCI運輸・通信部会として今後どのように足元を支える役割を果たしていくかを考察する。

本稿においては、国際展示会の中でも、シンガポールにおいて年々その量が増えており今後も成長が見込まれる食品に着目し、日本食品に特化した総合見本市、“Oishii Japan”を取り上げ、物流がどのような役割を担ったかをみていくことしたい。

“Oishii Japan”イベントは、2014年10月16日から18日に開催された。出展者は266社・団体、

来場者は10,110名となるASEAN最大級の日本食品に特化した見本市である。

16日、17日はTrader Dayとして、Buyer, Distributor, Retailer, Restaurantといった業界関係者が集う商談の場、18日は一般消費者への販売、日本食に親しむ場となった。



(出典: Oishii Japanホームページ <http://www.oishii-world.com/jp>)

IMPORTS BY COMMODITY AT CURRENT PRICES [TABLE A6.2]

| | 2010 | | | | 2011 | | | | 2012 | | | | 2013 | | | | 2014 | |
|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------|------|--|------|--|
| | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | II | III | IV | I | II | III | IV | I | II | 2014 | 2014 | | | |
| Million Dollars | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| TOTAL | 423,221.8 | 459,855.1 | 474,554.2 | 466,762.2 | 121,552.5 | 114,571.5 | 116,833.0 | 110,284.1 | 116,888.2 | 121,276.0 | 118,513.9 | 117,801.4 | 120,184.5 | | | | | |
| Oil | 115,591.6 | 149,945.6 | 154,803.0 | 146,278.6 | 40,464.8 | 34,187.2 | 37,253.8 | 35,267.1 | 36,337.4 | 38,131.4 | 36,542.7 | 36,364.3 | 38,394.1 | | | | | |
| Non-Oil | 307,630.2 | 309,709.6 | 319,751.2 | 320,483.6 | 81,087.7 | 80,384.3 | 79,579.2 | 75,017.0 | 80,350.8 | 83,144.6 | 81,971.2 | 78,437.2 | 81,790.4 | | | | | |
| Food, Beverages & Tobacco | 12,358.1 | 13,974.4 | 14,051.0 | 15,081.1 | 3,421.1 | 3,564.6 | 3,755.3 | 3,427.5 | 3,696.1 | 3,965.7 | 3,991.8 | 3,636.4 | 3,916.7 | | | | | |
| Crude Materials | 3,003.9 | 3,726.0 | 3,881.3 | 4,203.9 | 992.4 | 913.6 | 958.8 | 978.2 | 986.5 | 1,037.7 | 1,201.5 | 938.7 | 956.6 | | | | | |
| Animal & Vegetable Oils | 842.8 | 1,481.2 | 1,742.7 | 1,425.3 | 449.3 | 406.8 | 393.6 | 278.7 | 380.5 | 389.6 | 376.5 | 361.6 | 429.4 | | | | | |
| Chemicals & Chemical Products | 28,629.7 | 31,882.1 | 32,402.5 | 31,887.6 | 8,528.8 | 8,174.1 | 7,905.4 | 7,575.9 | 8,063.2 | 8,439.3 | 7,809.3 | 8,266.7 | 8,394.1 | | | | | |
| Manufactured Goods | 26,457.6 | 30,995.6 | 29,642.1 | 29,251.1 | 7,999.9 | 7,450.8 | 7,076.1 | 6,945.8 | 7,509.3 | 7,404.3 | 7,391.7 | 7,720.5 | 8,037.9 | | | | | |
| Machinery & Transport Equipment | 196,105.6 | 188,268.1 | 196,288.1 | 195,446.1 | 49,446.6 | 48,670.1 | 48,675.2 | 46,052.6 | 49,380.8 | 50,677.6 | 49,335.0 | 47,074.2 | 49,484.8 | | | | | |
| Miscellaneous Manufactured Articles | 29,683.6 | 32,060.3 | 34,026.7 | 35,974.1 | 8,392.3 | 9,171.1 | 8,752.3 | 8,066.6 | 8,473.2 | 9,270.3 | 10,164.0 | 8,572.8 | 8,694.8 | | | | | |
| Miscellaneous Transaction Articles | 10,548.9 | 7,322.0 | 7,716.8 | 7,214.3 | 1,857.2 | 2,033.2 | 2,064.5 | 1,691.6 | 1,861.2 | 1,960.1 | 1,701.4 | 1,864.2 | 1,846.2 | | | | | |
| Percentage Change Over Corresponding Period Of Previous Year | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| TOTAL | 18.8 | 8.6 | 3.2 | -1.6 | 4.6 | -1.3 | -0.4 | -9.3 | -4.0 | 5.9 | 1.4 | 6.8 | 3.0 | | | | | |
| Oil | 29.9 | 29.7 | 3.2 | -5.5 | 5.3 | -9.8 | 1.2 | -17.8 | -10.2 | 11.5 | -1.9 | 11.6 | 5.7 | | | | | |
| Non-Oil | 15.1 | 0.7 | 3.2 | 0.2 | 4.2 | 2.8 | -1.1 | -4.7 | -0.9 | 3.4 | 3.0 | 4.6 | 1.8 | | | | | |
| Food, Beverages & Tobacco | 14.5 | 13.1 | 0.5 | 7.3 | -0.9 | -0.3 | -2.6 | 3.6 | 8.0 | 11.3 | 6.3 | 6.2 | 6.0 | | | | | |
| Crude Materials | -16.4 | 24.0 | 4.2 | 8.3 | 10.3 | -2.8 | -4.4 | -4.0 | -0.6 | 13.6 | 25.6 | -4.0 | -3.0 | | | | | |
| Animal & Vegetable Oils | 19.5 | 75.7 | 17.7 | -16.2 | 22.3 | 0.0 | -0.3 | -43.5 | -15.3 | -4.2 | -4.3 | 29.8 | 12.8 | | | | | |
| Chemicals & Chemical Products | 33.5 | 11.4 | 1.6 | -1.6 | 3.5 | 2.6 | -1.6 | -2.8 | -5.5 | 3.2 | -1.2 | 9.1 | 4.1 | | | | | |
| Manufactured Goods | 1.6 | 17.2 | -4.4 | -1.3 | -3.9 | -1.8 | -11.4 | -2.4 | -6.1 | -0.6 | 4.5 | 11.2 | 7.7 | | | | | |
| Machinery & Transport Equipment | 15.5 | -4.0 | 4.3 | -0.4 | 5.0 | 1.7 | -0.1 | -7.0 | -0.1 | 4.1 | 1.4 | 2.2 | 0.2 | | | | | |
| Miscellaneous Manufactured Articles | 19.4 | 8.0 | 6.1 | 5.7 | 8.7 | 14.7 | 0.8 | 4.6 | 1.0 | 1.1 | 16.1 | 6.3 | 2.6 | | | | | |
| Miscellaneous Transaction Articles | 5.3 | -30.6 | 5.4 | -6.5 | 8.6 | 10.0 | 14.0 | -4.0 | 0.2 | -3.6 | -17.6 | 10.2 | -0.8 | | | | | |

Note: Data are based on Standard International Trade Classification (SITC) Rev 4.1.

Source: International Enterprise Singapore

(出典: Department of Statistic Singaporeホームページ)

http://www.singstat.gov.sg/statistics/browse_by_theme/trade.html

本イベントにおいて物流の果たした役割は、①日本国内における輸出手配、②国際海上・航空輸送手配、③シンガポールにおける輸入手配、輸入代行、④シンガポールでの保管・配送、⑤会期中及び会期後の物流コンサルテーション、⑥返送品手配である。

まず、①日本国内における輸出手配、及び②国際海上・航空輸送手配について。本イベントの出展者はこれまでに海外展開していない、或いは限定的な展開であるところが多かったため、輸出入に必要な書類や梱包形態、輸送方法、費用見積もり等、幅広くサポートをおこなった。

商品特性に応じた輸送方法、保冷梱包のアドバイスをはじめ、農林水産庁、動物・植物防疫所への書類確認等は、物流ノウハウのほか、現地事情に通じた対応が求められるところである。また、食品輸送で重要となる鮮度保持やダメージ防止には、CA(Control Atmosphere)、Containerや防振パレットといった物流テクノロジーも用いられた。

次に、③シンガポールにおける輸入手配・代行であるが、前述の通り、多くの出展者はシンガポールにまだパートナーをもっていないため、物流業者にて輸入代行、及び必要ライセンス・書類の確認等を関係省庁(AVA: Agri-Food & VeterinaryやIE Singapore: International Enterprise Singapore等)に対して行った。

特に加工食品については、シンガポールで流通していないものも少なくなく、成分表等をもとにAVAと密な連携を取り、規制該当の有無を確認した。

④シンガポールでの保管、配送に関しては、商品毎のシンガポールへの輸送、会場への搬入、設定温度帯(冷凍、チルド、クール、常温等)に適したFree Zone内外の保管場所を勘案した。また限られた指定時間内の搬入、多品目少量の取扱、各商品設定温度に応じた保冷管理といった条件がある中、最適な混載配送スケジュールを組むことで出展者の輸送とコストへの要望に応えた。

将来の食品ビジネス展開に向けた⑤会期中、会期後における物流コンサルテーションにおいて、出展者・来場者から一番関心が高かったのは物流コストに関するものだった。

よせられた問い合わせは、契約ターム、コールドチェーンを保つための輸送・梱包、シンガポールでの在庫保有方法、配送センター納め或いは小売店舗までの直送の比較、集約出荷のメリット、等々、さまざまだったが、物流コストはそうした諸条件により大きく変動することから、個々のビジネスに応じた提案が不可欠となる。

最後の⑥返送品手配は、当初より返送予定のものは一時輸入制度を利用し、会期後に集荷・梱し、日本への海上・航空輸送手配を行った。

今回は特に”Oishii Japan”について触れたが、シンガポールはこのほかにもAir Show, Power Logistics, SCM and Manufacturingといった多くの展示会が開催されている。

日本企業の海外新規展開へ物流業界はサポート、コンサルテーションが強く求められており、2015年もJCCI運輸・通信部門としての責を担っていきたい。

観光・流通・サービス部会の活動について

観光・流通・サービス部会 副部長
Bukit Batok Driving Centre Ltd.
Managing Director

鵜木 ゆみこ



皆様、あけましておめでとうございます。

昨年日本経済は景気低迷、震災復興も原発問題も半ばという状況で、広島をはじめとした大規模土砂災害や御嶽山の噴火など次々と降りかかる自然災害はあとを絶ちませんでした。今年は穏やかな年になりますようお願いしてやみません。

まずは昨年の部会活動を振り返りたいと思います。当部会は業種が多岐にわたり、すべての部会会員に共通したテーマを選ぶことは難しいですが、逆に部会内で他業種を知る機会を得たり、情報交換ができるというメリットがあるかと思えます。

昨年度は年度の初めに新任者と新加盟企業の歓迎会で交流するところからスタートしました。部会会員数は近年増加傾向ですが、シンガポールまたは、シンガポールをハブとしたアジアでのビジネスに進出される個人、企業が増えているのに伴い、それをサポートするビジネスサービス関連の会員が増えているのが特徴です。また若く起業される方、入社直後からの駐在などにより、若い方も多く、大変賑やかな会となりました。日本では、海外への留学生の減少や、海外に興味のない若者が増えているという報道もありますが、当地に限っては当てはまらないように思えます。

昨年の活動は、他部会との交流を深めるため、合同の視察会の回数を増やしました。その中でも、当部会主催の「PSAインターナショナル・港湾施設視察会」ではPSAインターナショナルが運営するシンガポール国内の最大級規模を誇るPasir

Panjang Terminalを見学し、シンガポール港湾機能への理解を深めることができました。また8月のスポーツハブ視察会ではナショナルスタジアムの最新技術について説明を受け、普段は立ち入ることのできないバックヤードも見学することができました。その後10月のサッカー日本代表-ブラジル戦では、部会の多くの方々が観戦し、実際に最新の施設を体感されました。

また、他部会との共催の「シンガポールの航空関連産業の現状と将来像について」の講演会や、インドネシア・バタム島のノングサ開発地域視察会には当部会からも多くの方が参加され、知見を広めることができました。

年末には、毎年、忘年昼食懇談会を開催することが恒例となっておりますが、昨年は、初の試みとして、自社PRプレゼン大会を併催しました。10分の持ち時間で6社のプレゼン、各社の特徴や強みを理解するよい機会となりました。

さて、今年の部会業界動向となりますと、部会全体をまとめるのは難しい為、私に関わっております教習所関連(交通・免許教育)について少しだけ触れさせていただきたいと思えます。ご存知の方も多いとは思いますが、シンガポール政府は約30年前に交通事故減の為に日本の免許制度をモデルに教習システムを確立しました。現在、シンガポールにある3つの教習所のうち、私が出向しているBukit Batok Driving Centre Ltd. と Singapore Safety Driving Centre Ltd. の2校はHondaが出資して、安全運転教育のノウハウを

提供しています。

シンガポールの交通事故死者数は10万人あたり2.94人(2013年)、2010年から死傷事故件数も減少傾向で2013年は6,426件でした。政府の交通の3要素のEngineering, Enforcement, Educationの施策が功を奏しているといえます。特に、Educationでは免許制度の改善や進化の貢献が大きいのと思います。そのような状況でも人が車を運転する限り交通安全は永遠の課題で、その取り組みは終わることはありません。今年早々には運転中に携帯端末を持つことが罰則対象となります。また、人口の3分の1を外国人が占めるシンガポールならではの様々な施策、たとえば免許証書き換えの際、学科試験だけではなく講習受講を義務付けたり、職種をドライバーとしてビザを取っている外国人に対しては学科試験だけでなく、実技試験も行われるなど、より安全でスムーズな交通社会をめざす施策が講じられる予定です。

一方、車の台数については今年から2018年1月までは増加率は0.25%に引き下げられます。限られた国土の中、道路の延長の可能性も少なく、渋滞や環境の観点から、すでに100万台に近い登録車の数をこれ以上増やせないということです。COEは買い替え需要で発券は多くなるものの、価格は多少の変動があっても劇的に下がることはないかと思います。公共交通機関の充実により、国民の利便性を確保していくという方向性です。環境や台数抑制の観点からはカーシェアリングも推進されることでしょう。車を所有し、運転した

いという人間の欲求は変わりませんが、免許を取得しても、所有できるとは限らないので、四輪免許保有者数は微増で、免許をとり急がない傾向が続くと思われま

このように免許制度一つ取り上げても、限られた国土でユニークな施策と国民の満足のバランスめざすシンガポールで、日本ブランドがどのように発信できるのか、日本のビジネスがどのように活きるのか、今年も部会の皆様と考えてまいりたいと思います。

皆様にとって安全でよい年になりますよう祈念申し上げます。

2015年月報新年号「新春特別座談会」

ASEANと日本、過去、現在そして未来 —シンガポール建国50周年を踏まえて—



出席者：佐々木 淳一/ 会頭 (ITOCHU Singapore Pte Ltd)
大谷 文夫/副会頭 (Toshiba Asia Pacific Pte Ltd)
末延 幸辰/理事 (Mitsubishi Chemical Singapore Pte Ltd)
西尾 幸恭/理事 (The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd)
長谷部 雅也/参与 (JETRO Singapore)
司会：河原畑 敏幸 理事/広報委員長 (Japan Airlines Co., Ltd)

会社紹介、会社設立から現在まで、 将来に向けての展望

河原畑:本日はご参加いただきましてありがとうございます。JCCI月報1月号恒例となりました座談会を開催させていただきます。

今年2015年は何々周年と呼ばれることが多い年です。例えば、第二次世界大戦終戦70周年目にあたり、これは中国から見れば対ファシズム、抗日勝利70周年記念ということになります。また日韓におきましては日韓基本条約締結の50周年です。韓国側からしてみれば日本の植民地支配からの完全な開放ということなのでしょうか。そのような意味ではナショナリズム高揚とか対日批判等のプロパガンダに利用されやすい政治の年でもあるのかなと思います。もう一つ、ここシンガポールは建国50周年という節目の年を迎えました。そのようなこともあり、まずシンガポール/アセアンと我々とのかかわり合いについてお話しを進めて参りたいと思います。

自己紹介、お会社の紹介と共に、長年当地シンガポールで事業を展開してこられた各社の歩み、今抱えている経営課題そして将来に向けての展望などお話し願います。

佐々木:先ずは本年がシンガポール建国50周年と言う記念すべき年である事で、JCCIがどの様に発展して来たかについて、少々過去にさかのぼり簡単にご紹介し弊社の話をさせていただきます。

JCCIは1969年に設立し、2015年には46年目となります。シンガポールの経済発展と共にJCCIは成長を遂げてまいりました。会員数は外資導入による輸出拡大という経済政策の発展に支えられ98年には883会員まで増えましたが、アジア金融危機の後減り始めまして2009年には、これがボトムですが、719会員まで減りました。その後、リーマンショック後2010年から再び上昇傾向に入り、今の時点で805会員まで戻りました。その構成でありますが、8部の部会からなり、中心は3つあ



る工業部会で第1、第2、第3工業部会を合わせますと現在約45%の会員数でございます。最近の傾向は観光、流通、サービス部会が会員数を伸ばしております。直面している労働者不足、高労働コスト、高いユーティリティコスト等の諸問題はあるものの、産業の高度化、効率化の動き、加えて優遇税制や優秀な人材をベースとしたアセアンのハブとしての統括会社設立の動きも活発であり、会員構成が少しずつ変化をしながらも持続的に発展していくと確信しております。2015年にはさらなる会員数の増加を期待するものでございます。

伊藤忠シンガポール会社でございますが、1956年に駐在員事務所を設立して、約59年という歴史がございます。商社として色々な商品のトレードと投資をコアのビジネスとして発展を遂げておりますが、特に3国貿易のハブという事で多岐にわたる商品のトレードがここシンガポールでの大きな収益の柱です。取扱商品でございますが 原重油、石油製品、LPG、石化製品及び紙パルプ、セメント、飼料穀物、パームオイル、乳製品、コーヒ、木材、天然ゴム、石炭、船舶、航空機、建設機械、繊維アパレル等様々な商品をここをハブとして世界中から仕入、世界中に販売します。2005年からGTPグローバルトレーダープログラムを取得しまして、三国トレードの拡大を推進しております。加えて、伊藤忠トレジャリーセンターアジアを設立しファイナンスをグループの事業会社に提供しています。最近ドールアジアホールディングスを設立して、ドールのバナナ、パイナップルといったフレッシュもしくは缶詰等のグローバル食品加工事業をシンガポールで統括しオペレーショ

ンも行っています。この様にシンガポール会社がアセアン・インド等での投資案件に本社と一緒に参画し、ここにオペレーション会社を作り事業収益の拡大を図るケースも最近顕著に増えて来てます。

大谷:1995年、地域のヘッドクォーター機能を集約した東芝アジアパシフィックリミテッドという会社をそれまでシンガポールの中核製造会社であった東芝シンガポールプロダクトからスピナウトして設立致しました。

現在、アジア・オセアニア、そしてインド・パキスタンといった地域をカバーする会社として、約70社の製造現法、販売現法、関連会社を統括する、即ち各事業部門に横串を通しコーポレートガバナンスを効かせる、特にコンプライアンス、広報、広告、デザイン、などの分野を担当しております。因みに具体的な予算等統括機能等は本社の各事業部門が担っております。但し一部社会インフラ系やクラウドビジネスについては事業部門を会社の中に持ち、自分たちのところで営業活動も行っております。

もともとリエゾンオフィスがフィリピン、ベトナム、タイ、インドネシア、マレーシアにありましたが、それらの現地法人化を進めて参りました。また伊藤忠さん同様、近隣諸国を含めた全体の金融の元締めを担う会社も去年から中に入れて運営しています。

西尾:三菱東京UFJ銀行シンガポール支店は2012年に55周年をやらせていただきましたので、先ほど会頭のお話からすると伊藤忠さんが駐在員事務所を開設された直後ぐらいに、うちも駐在員事務所を開いて活動をしてきたということになります。ただ、前身の横浜正金までさかのぼると実はもうすぐ100年になります。その間戦争がありましたけれども、それを除けば撤退することなく根を張って頑張ってきたわけです。

アジア地域は2013年の7月まで1つの地域本部として統括されておりましたが、今は中国、香港、台湾、韓国、モンゴルを統括する東アジア本部

と、アセアン諸国、インド、パキスタン、オーストラリア、ニュージーランドをカバーするアジア・オセアニア本部の2本部制に移行しました。これに伴い、アジア・オセアニア本部の本部部隊は本部長を含めて東京からシンガポールに移転、弊行のアジア・オセアニアにおける本部機能はシンガポールに存在する形になっています。

加えて、これまでアジア各国では基本的に各々の支店がその国での業務運営に責任を持つ形で運営されてきましたが、先ほど佐々木会頭、それから大谷さんのお話にもありましたように、いわゆる地域本部(Regional Head Quarter)を置かれている日本の会社さんが非常に多くなってきたことに対応、我々ももう少しシンガポールだけでなくこの地域を面で捉えたサービスが提供できるようにしなければいけないという問題意識の下、シンガポールについては従来のシンガポール支店という営業体制をやめてこの7月からアジア・オセアニア営業部に組織変更、域内の営業活動のコーディネートやサポートをするという機能を名実共に受け持つ形としました。

各種本部機能の移転はここ数年をかけて実施して参りましたが、これに伴い人員も2009年3月の650人から現在は1,200人を超え、かなり大きなオペレーションとなっています。

末延:三菱化学とシンガポールとのかかわりという意味では、弊社は化学メーカーでございますが、三井化学さんや住友化学さんと比べますとかなり歴史が浅く、実際プラントを持っておりませんでした。とは言え、かれこれ20年を超えます。最



初はリエゾンオフィスやトレーディングを担ってきたのですが、その後持ち株会社である三菱ケミカルホールディングスという会社を東京が創りましたところ、どんどん傘下に入りまして、結果的には現在ここシンガポールでもプラントが結構ある組織形態になってきております。

各国のホールディングス会社とは先ほど西尾さんがおっしゃったリージョナルヘッドクォーターですが、これも非常に我社でも流行りまして、ホールディングスとして世界にリージョナルヘッドクォーターがあるのは、アメリカ、中国、ヨーロッパです。第4番目を実はシンガポールに創ると言いますか、私が知らないところでホールディングスの経営執行会議では前向きに取り進めてみろというような話にもなったのですが、いろんな難しい面もありとりあえずペンディングになっております。とは言えシンガポールのみならずアジア地域では三菱ケミカルホールディングスの傘下の会社が大分出て来ております。

ただ、世界の他の3つのホールディングスを見ますと、基本的にはコーポレートガバナンスを効かせるようなアドミ(経営管理)を中心に展開していて、実質的な営業や事業統括、プロフィットセンターのような機能はまだできてないのが実態でございます。そういう中で、このシンガポールでそのような機能展開をやったらどうかということで、話は何度か出たり消えたりしているのですが…。私の感触ではシンガポールだけだったらできるかなとは思っているのですが、やはりアジア全体を統括管理するとなると非常に難しいものがあると思います。プラントでは三菱レイヨンさんとか、三菱樹脂さん、あと田辺三菱製薬さんと、そして今度大陽日酸さんが一緒になりましたので、そうなりますとオンサイト工場もあり多くの会社がシンガポールに入っていることになります。おそらく今年2015年はシンガポールをどうするか、あるいはアジアの統括をどうするかをじっくり考えていく年になりそうです。

少々ディーテイルに入りますけど、我が社も遅ればせながらチャイナプラスワンといううか、中国にはひと通りいろいろ事業を進出させ、ある程

度整った感がありますので、今はやはり東南アジアに目を向け始めています。マーケットとしては中国と比べるとそれほど大きくないのですが、やはり商品をひとつずつ拾っていくということになっており、特にアセアンではこのシンガポールに、次にどこの国が大きくなるかを見極めるまでちょっと拠点を置くということで事業部単位、事業単位で1人か2人ですが各会社から送り込まれてきております。よくハブ空港と言いますが、私は我社、三菱化学シンガポールをハブカンパニーと呼び、各社の皆さんの足がかりの器として位置づけています。最近はそういう仕事が増えてきていると実感しています。

河原畑:多くの日本企業では地域統括機能をここに移して来られ、かなりその機能を充実させ、組織も大きくなってきた。また末延さんの話しにもありましたが、現在詳細に検討中等々の企業もございませぬ。長谷部さんの目から見まして、現在の日本企業のアセアン及びシンガポールにおける統括機能の進捗度合いあるいはどの産業がどのような形態で展開しているかといった産業別の特徴など総括的にご説明いただけませんか。

長谷部:我々が4年おきに実施している日系企業統括機能調査ではシンガポールに拠点をもちの企業600数十社にアンケートをお願いしていますが、その回答をみますと、統括機能の有無に関して既に4割の企業が統括機能を持っていて、残り2割がこれから設置したいと考えているとの結





果でした。統括機能をこちらに置くという動きがかなり進んでいます。

産業別での最近の進出の傾向としては、やはりサービス産業、これはASEAN全体でも同様の傾向ですが、サービス関連企業の進出が大変多くなっています。その意味ではAEC(ASEAN共同体)の発足に当たり、どのように小売、卸売、金融、運輸等のサービス産業の各国の外資規制の撤廃・緩和が進んで行くのかというところが一番の関心事と思っています。これはロジスティクスから小売、卸売、全ての分野に関わりますが、特にインドネシアがこれからどうなっていくのか。議会の多数を野党が占めている中で果たしてどこまで変わるのかという見方もあります。、今後こうしたところは注意深く見ていかなくてはいけないと思っています。2015年末に発足するAECのブループリントでは、平均して70%まで外資規制の緩和、特に小売、卸売、ロジスティクスの分野で認めるという方向で今話し合いがなされていますが、各産業分野を各国がどこまで広げるのか注視する必要があります。

それとこのAECに関連して、今後の動きとして注目されるのはビジネスインテグレーションではないかと思っています。要するに日系企業、欧米企業、あるいはアセアン企業との合従連衡、こういう動きがもっと加速していくのではないかと。例えば伊藤忠さんのCPグループとの資本提携、あるいは三菱東京UFJさんのタイ、アユタヤ銀行の買収とか金融の分野においてもこうした動きが進んでくる

と思います。例えばシンガポールにおいてももっとシンガポール企業と連携して中国を攻める、あるいはインドを攻めるとか、こういう第3国展開の動きが多く出てくるのではないかと思います。、こうした民間の動きが進むことでAECの経済統合の中身もハイレベルなものにつながってくると思います。

最後にジェトロの仕事についてですが、大きな柱の一つは対日投資促進の活動で2020年までに今の残高17兆円を35兆円にしないといけないという大きな目標があり、これに向けてシンガポールの投資家を訪問し対日直接投資の勧誘を精力的にやっています。あとは日本の農林水産物、加工食品の輸出促進、中小企業の海外展開の支援も大きな柱の一つです。



AEC/アセアン経済共同体構想・ 企業の対応、中所得の罫等々



河原畑:先ほどアセアン経済共同体AECというお話がありましたが、確か2015年末をターゲットとしていろいろ検討/交渉は行われていますが、アセアンにはシンガポールのような優等生がいて、ほかには中進国あるいはまだそこまで至っていない国々が存在している現状で、将来的にはフリートレードを志向し規制の撤廃となっていくのですが、それらを達するまでの道のりはそんなに簡単ではないようにも思います。

例えばエアライン業界において、航空自由化の話になりますとシンガポールが最初からリードしています。しかし、シンガポール国内には国内路線はなく、空港も国際空港が1つしかないわけですから、フリーにしても基本的にはそれ程支障がないわけです。ところがインドネシアのような島国から見れば島がたくさんあって、かなりの国内線を保護しない限りなかなかインフラ、ネットワークとしての航空産業は育たない。収益性の高い路線は競争に晒され、国内線の収支の悪いところは慢性的な赤字路線あるいは国が金を注込まなくて



成り立たないということになりかねない。恐らくフィリピンも同じだと考えられます。なかなか各国利害の調整はできないのではないかと思います。

先ほど外資規制70%程度等のお話がありましたが、実態面ではそれぞれの国へ持ち帰ると、国内での利害調整、法制化に手間取るなど結局ワークしないと行ったケースが多いようにも思えます。実態面においては規制緩和などうまく行きそうだと思っていたものが実際にはそう進んでいないあるいは全然進んでいないなど、実際の事例や今お悩み問題など、お話しできることがあればコメントして頂きたいと思っております。

末延：私どもケミカル会社でして、もう何年も前からですが、日本の競争力の問題をよく問われています。今後日本では人口も減っていくし、競争力がなくなりやはり外に出て行くしかないという考え方から、それほど大々的にグローバル市場には出ている訳ではありませんが、とりあえずアジア地域に各会社がプラントを海外に建てて来ております。結果海外売上高は30%ぐらいになりましたが、それを40、50%に持っていこう、会社はそういう考えでずっと進めてきました。

こういう中にフリートレードという話しになると今度は逆で、せっかく日本から出て行って、海外で関税やいろんな非関税障壁を克服して勝ち抜いてきたことが無駄になるようなことも起きかねない。苦労しながらも市場のパイオニアとしてそのマーケットを押さえてやってきたのが守られなくなる。現在、このような問題が出始めています。こちらがそれぞれの国の政府に何とかそのへんは

ひとつよろしく的なロビー活動をしている一方で、日本からフリートレードの話が出てきて、少々ジレンマを感じることもございます。早めに出て行って、そこでやろうとしていたことがフリートレードになり、進出のメリットがなくなる、じゃあ化学産業はどうやって生きて行くのか、実際今正直なところそう感じております。

長谷部：まったくその通りだと思います。進出しても、進出した国の産業政策の方向性がはっきりしないとか、政策が後で変わってしまう。例えばASEANが経済共同体となりフリートレードになることによって、例えば自動車産業を1つ取ってみても、進出先の市場規模がまだ小さい場合、別にタイから輸入したっていいじゃないかと、インドネシアから輸入したっていいじゃないかと、そこはやはり関税で守ってもらわなきゃいけないとか、そういう問題がどうしても出てきてしまう。やはり製造業の場合はFTAができることによって、製造拠点の再配置というような問題が必ず出てくると思えます。

佐々木：AECについて進捗状況は不透明で、思惑通りには作業が進んでないと思えますね。ただし、マクロ的に申し上げますと、このアセアン域内の貿易額が2000年から2013年、この10年強で3倍に拡大しています。アセアン域内の貿易の世界シェアも24%から26%に拡大し、関税撤廃が徐々に進む中で、やはりアセアン域内の貿易量というのは間違いなく増えている、これは事実なのです。

ただし、心配な点がいくつかあります。1つがカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムという、後から入った4ヶ国、これらの国が本当に18年までに関税撤廃できるのかという懸念があります。例えば自動車の産業保護の問題、仮にベトナムが本当に関税を0にする事になっても、色々な非関税障壁が有って実際物がなかなか入らない事態が発生するのでは無いかと危惧します。それからサービス産業に関する外資規制が緩和されてない事も気に成ります。例えばコンビニの店舗展開が遅々として進まない事等です。このような問題

がいつ解決できるのか。

それから、熟練労働者の移動についても非常に規制が厳しく、円滑な運用とか対象分野の拡大が今後強く求められます。こういった問題があって、本当にAEC構想は良いのだけでも、これが本当に実用的に運用できるかは未だはっきりしません。まあ2015年末で期限を切ってしまうと出来ないと言う結論になるが、ポスト2015年でどの様に進展していくのか期待をして見て行く事が肝心だと思います

大谷：製造業は様々な国で色々なものを製造しており、特に直接的な影響を受けるのはもちろん関税もそうですが、短期的に見るとやはり為替の影響のほうがはるかに大きいですね。とにかく為替のバランスを取るために海外に出るという話があり、海外に出たのですけれども、ここに来てやっぱりチャイナプラスワンと言いますか、全体的に東南アジアへのシフトを強めているんですね。そのときに部品の調達、原材料の調達、あるいはできたものを出荷する地域を考えるとやはり製造調達戦略というのは非常に難しくなっていると感じましたね。ACEにせよ、RCEPやTPPにせよ、段階的な関税引き下げによって、一体どこかの時点でどこからどういうふうに運ぶのがいちばんベストなのかというところが今ひとつよく見えない。それからそれらが書いてあるものも明解なテーブルになってないということもあり、いちいち文言を読み解かなくてはならず大変な作業となります。とかく表面価格で値段を考えてしまいがちですが、競争力を維持し続けるためにはかなり困難な作業になってきています。かつ、やはり中韓との競争、特に韓国勢とのB to Cのマーケットでは非常に難しい戦いになってきています。そういう時にやはりアセットの大きい重電が頑張る、化学さんもそうでしょうけれども、とは言えそれらの工場はそう簡単には移せない。一方、アセットの軽い工場は、これからこの先を見据えて、特にメコン地域にどうやって展開していくかが経営的な大きな課題の一つかなという認識を持っています。



河原畑：製造分野だけではなくて、その他インフラ需要や消費市場としてもやはり親日であるアセアンはかなり魅力的だと思いますが。

大谷：そうですね。国ごとにいろんな魅力度合いが違っていて、例えばインドネシアで言えば世界第4位の人口で人口ボーナスが続くというのは非常に魅力的だと思います。ただし現体制でどこまで魅力的な市場が本当にうまく育ち得るのかということ。政権が野党主体でジョコさんのリーダーシップがどこまで発揮できるか向こう3ヶ月ぐらい見ないと確信が持てないというのが本音です。本当に目指しているところのクリーンな良い国になって行くのか、それとも足踏みを続けて行くのか、BtoCだけじゃなくてやはりインフラのビジネスを考えるとそういう政権等のマクロなファクターが非常に大きいかなという気がします。

それともう1つがやはり天災ですよね。フィリピンでは毎年大雨や台風による洪水が発生していますし、インドネシアでは、火山の噴火や地震が発生していますので、そういうところも今後どのようにリスクをヘッジしていくのかいろいろシナリオを考えながらという話ですね。

西尾：金融の世界では今後規制がどうなるかよく分かりませんが、もし自由に金融機関の買収ができるようになったとすればいろいろ戦略も変わってくるだろうとは思いますが。もっと自由度が広がれば選択肢も増えてくる。もちろん、我々にとってだけ選択肢が増えるわけではないので競争は厳しくなるでしょうが、ビジネスチャンスも大きく広が

るということです。

同時に、我々のお取引先であるお客様の活動の変化も非常に大きいインパクトをもたらします。物の流れがもっと自由になり、取引量が増えれば銀行としてもっとお役に立てる部分が多くなる。そうなれば、金融機関にとってもAECの意義は大きいものとなります。

我々が今回、域内営業体制の強化を目的に組織変更をした背景もその辺にあるわけです。

河原畑：長谷部所長にお聞きたいんですが、地域統合的な話が出ておりますがその前例はヨーロッパですよね。EUはいつ頃からでしたっけ？

長谷部：1952年の欧州石炭鉄鋼共同体の創設以来です。

河原畑：経済連合体の例のひとつとしてEUがありますが、今までの発展過程においてこれは失敗だったとか、あるいはこれは良かったというあればお伺したいですね。それらはアセアン共同体構想に関して何かの示唆なれば思うのですが、何かコメントいただけることはありますか。

長谷部：例えばEUみたいに共通関税制度、共通パスポートにするとか、人の移動も自由にするとか、ユーロの導入で通貨まで統一するという話はASEANでは難しいでしょう。

河原畑：通貨はどうだとか、ちょっと大胆な話しかもしれませんが、要は当事者間の交渉・検討のなかで共同体構想を促進する助けになるようなアイデアを我々としてサジェスションできるものはないのかなと思っています。

長谷部：例えばEU理事会議長みたいな権限を集中させた理事会を創り、そこが財政規律、あるいは通貨、金融をコントロールするというようなことはやはりアジアでは考えられないと思います。

佐々木：アセアンの国も10ヶ国あって、財政規律と長谷部さんがおっしゃったんですけど、財政



というのは国によって全然違いますね。特に補助金バラマキ型のインドネシアとかマレーシアはやはりそれが経常収支赤字、財政収支赤字の温床という事になる。だから金融を引き締めざるを得ない。片や経済発展もしなければいけない。だから財政規律の問題と経済発展をいかに上げていくかというのが常にジレンマがあります。それぞれの国の事情が異なる中で、例えばポリシーを1つにするなんて絶対難しいと思います。やはり現時点では通貨統合なんかできないし。関税撤廃してできるだけフリートレードをまず実施し、人・物の移動を促進することでしょう。これにおいても優等生のシンガポールですら外国人労働者を規制し始めたわけですから。非常にナーバスな問題で、聞こえはいいのですが、実際やってみるとやはり特に政治的な色合いが強く、経済だけでは考えられないところがあります。ここら辺が難しいですよ。だからユーロがうまくいっているとも言い難いですけどね。

河原畑：要はユーロが今うまくいってない原因に、何か高すぎる理想を掲げたができなかったことあるいは先走ってやったみたがほころびが出てしまったことなど、経済共同体を目指す上で、ここあたりに最初にやった方が良く、あるいは順序を変えた方が良くと思われることはないかということですが。ないものねだりかもしれませんが。

末延：ユーロと比べるとやはりアセアンでは国家間格差が大きすぎるのではないですかね。そして多国間を掌握できるリーダーがあんまりいない

と言いことですかね。リーダーというやはりフランス、ドイツ、何人かで決められますが、アセアンでもしEUみたいな共同体が将来できるとしてもじゃあ誰がリーダーになるのか？自国のことで精一杯な国がほとんどで、そういう意味ではかなり難しいなあと思いますよ。

長谷部：石炭同盟から始まって50年代から話をしてきたわけです。またその当時はやはり東西冷戦という国際政治体制が大きく影響していたということでしょう。

河原畑：ある意味では秩序も安定し、利害も一致していたということかもしれませんね。

長谷部：ASEANも最初は反共ということでもまとまった部分もあります。あと、ビジネスインテグレーションと私が申し上げたのは、やはりそういう動きが出てこないビジネスモデルとして大きなリターンを追求できないのではないかという気がします。例えばシンガポールの対内直接投資のリターンを見ても、2012年末時点の直接投資残高ではアメリカがダントツに1位です。次は意外ですがオランダ、3位がバージン諸島、そして4位に日本。5位にはUK。残高ベースでは日本は4位にいます。ところが、利益率でみた場合には日本の順位は18位に下がってしまいます。因みに同年の日本の投資収益利回りが6.7%、欧米は10~30%です。例えば英国22%、オランダ22%、スイス31%など欧州の平均は19%。アメリカは13%です。この利回り格差が何から生じるのか、非常に興味深いことの一つです。そこはやはり欧米企業の活発なM&Aなどの影響もあると思いますが、やはり何かビジネスモデルに違いがあるのではないかと思います。

以前製薬メーカーさんからお話を聞く機会があったのですが、グラクソ・スミスクライン、ファイザーといった国際的な大手製薬メーカーはその中で特許の話など色々と情報交換し共有している。しかしながら日本の製薬メーカーは、「なかなかそこに入っていけない」とおっしゃっていました。その意味で日本企業がASEANの中において欧米企

業とでもASEANの企業ともですけど、提携関係を築いて、ASEANの成長力あるいは市場統合から得られる果実、旨味をもっと吸い上げていけるビジネスインテグレーションを意識したビジネスモデルを構築して行くことが必要ではないかと思っています。市場統合自体のレベルを高いものにしていくことの重要性という観点からも必要なことだと思います。

河原畑：M&Aの話がありましたが、日本企業のM&Aはかなり増えているということですよ。

西尾：アジアでは中国系企業による買収も多いですが、日系企業もアグレッシブに展開しています。

佐々木：日本の去年のアセアン地域への直接投資は確か中国を抜いて2兆3,000億ぐらいだったと思います。この額は確か中国の2.5倍とか2.6倍とかの規模です。日本のM&Aというか投資の矛先が中国からアセアンにシフトしたというのが昨年の特徴でその流れは今年になっても続いていると思います。

佐々木：そういう面でビジネスインテグレーションと長谷部さんはおっしゃられましたが、ギブアンドテイクで組めるパートナーを見つけ、そこと一緒に面展開していく、それが有効なビジネスモデルの一つだと思います。その中で日本のブランドというものをやはり彼らも必要としているわけですし、日本の技術であり、日本のブランドがあれば、彼らがたとえ華人であれ、マレー人であれ、インド人であっても、ここで頑張っている地元のパートナーと組めるということじゃないんですかね。

河原畑：共同体のレベルが進むことにより、より大きな波がもたらされる。つまり先ほどからおっしゃられているように、民間、企業の力がそれを揺り動かすというふうな話しになって行くということですね。

長谷部:まさしくそうです。FJCCIAとASEAN事務局との対話においてASEANの日系企業がまとまって改善要望をだすことなどは市場統合をより高いレベルに持っていくために重要な行動です。こういうことをEUやアメリカも官民でやっていますし、こういうのが増えていけば更に自由化の度合いを高めていくことができる。要するにビジネス界からそういう運動を起こして行く流れももっと必要じゃないかということです。

西尾:良く言われることですが、確かにこれまで日本は、官民一体となった売り込みというのが他の国と比べると弱かったのかも知れませんが。韓国企業はほとんどオーナー会社ですけれども、大統領に帯同して市場開拓に励んでいます。アメリカでさえ要所要所で官民が連携していますし、他にもアグレッシブな国はあります。

河原畑:やっと安倍政権になってからは、全世界的に飛び回る回数も多くなりましたが、そこに経済ミッションが同行するケースが多くなりました。例えば鉄道や原子力発電の売り込みですが、

大谷:そうですね。前とはだいぶ違いますね。これが実績というか、実を結べばいいですけどね。

西尾:先ほど末延さんがおっしゃっていたように、日系企業の多くは早い段階からアジアに出てこられています。いろいろな規制がある中で、できる限りの範囲で頑張ってやってこられて相当なプレゼンスやビジネスモデルを作り上げてきた。これが逆に今、ビジネス界として経済共同体やフリートレードなどを後押しするような動きをしようとした時に、必ずしも皆さんの利害が一致せず足並みが揃わない、企業間や産業間での温度差みたいなものが生じてしまう、という状況を生んでいる面はあるのかも知れませんね。

河原畑:日本国内は多くの産業で競争が厳しく、その状況が海外進出にも表れているということでしょうか。ところで、戦後先進国入りしたのはア

セアンの中ではシンガポールだけですよ。

長谷部:そうですね。

河原畑:アジアでは日本、台湾、韓国、香港、シンガポールぐらいですかね。中所得の罫、ここに陥ったもしくは陥りそうところがアセアン諸国にもあり、よくインドネシアがそうだと言われているですね。多分中国もそうじゃないかと思いますが、これらの国々に対して何にか先進国入りするための起爆剤的なイノベーションを、日本企業あるいは政府が提供することができれば他の欧米諸国に一步先んじて行けるようなにも思いますが。例えば欧米にはないもうちょっと手の込んだ技術とか日本人だから考えられるものやサービス、あるいは戦後急速に経済成長を成し遂げたノウハウみたいなものも考えられます。またそれはAECの早期化にも寄与しそうなのですが。ないものねだりかもしれませんが、何か面白そうな話しはありますか。

長谷部:1つは中小企業が考えられます。アセアン全体、どの国をみても、シンガポールは少々特殊かも知れませんが、産業構造上特に中小企業が弱いと言われています。これはアセアンの中でも非常に大きな問題として捉えられていて、日本ができるとすれば中小企業に対する例えば人材育成や中小企業政策ノウハウの提供、あるいは金融ファイナンス面でのサポートなどが考えられます。

一部の財閥、大企業が動くというだけで、全体の所得を増やしていかなければいけない中で、やはり最大の課題は中小企業の裾野を広げるということになりますね。

大谷:中小企業はやはり低コストとか匠の技、ちょっとした得意な技やノウハウを武器に生き残っていますよね。それらをじゃあすぐ海外に出せる人がいるかどうかという、指導者の育成をどうしたら良いのかなど課題も多そうですね。またなかなか固有のテクノロジーを出したくないとか仰る方



もいらっしゃるし、難しいですね。

長谷部:確かに難しいところではあるんですが。

西尾:日本の銀行である我々にとって、日本の中堅・中小企業は大事なお客様ですから、海外に出てこられた時に可能な限りお手伝いをさせて頂くのは当然ですが、地場の中堅・中小企業とお取引するにはそれなりのノウハウと体制を整備することが必要で、実はそう簡単ではありません。自前で体制を整えるとか、地場の銀行を買収するか方法はあるんですが、経済合理性を含めて一般論としては参入障壁は高いと言って良いでしょう。

河原畑:ただ、リテールをやっていくということになればそれに近いことになりませんか。

西尾:海外でリテールをやることと、その国で中堅・中小企業取引をやることは必ずしも繋がりません。アジアでリテールをやるのは、その市場そのものに大きな成長性が期待できること、流動性の確保(現地通貨建ての預金の確保)に寄与すること、等々が背景になります。つまり、リテール業務そのものの収益性と、そこから得られる貸出原資(=預金)の確保ですね。一方で、こうして集めることが出来た資金をどう運用するかは、収益性・安全性と言った全体のバランスの中で考えていくことになるので、必ずしも地場の中堅・中小取引に投入していくという結論にはならないケースもあるわけです。

河原畑:産業界では何か考えられませんか。例えばポットと思ったのですが、環境ビジネス関係とか。これから発展していく中でやはり環境問題は発生してきます。世界的な取り組みもだんだん厳しくなっていく中で、今は昔とは異なり排出権の取引も可能になっています。例えばCO2の排出権と日本の強みの一つである省エネ技術や製品をパートナーするとかですが。それで経済発展と共に環境対策にも貢献できる。

佐々木:今言われた中所得の罫(中進国の罫)ですが、これをどうやって克服して行くのかと言うと2つあると思う。1つはアセアンでいくとやはりインフラ整備ですよ。大型インフラプロジェクトというのが目白押しですから。

これを官民一緒にサポートしてあげること。安倍内閣もそこはやると一歩踏み込んでくれていますから。環境にもつながるし、電力、交通、こういったインフラ案件ですね。やはり国としてきちっと整備していくことが中所得の罫から脱皮できる1つのチャンスだと思います。そこはもう本当に予算編成から国としてきちっとやって欲しいと思います。

もう1つがそれはやはり内需ですよ。このアセアンにいる6億人、これから中間層が増えてきますから、所得が増え、金持ちが増えるとやはり消費が拡大する。そこにビジネスチャンスがあってコンビニチェーンの整備とか日本の強みがあるところはやはりパートナーと組んでやっていけばまた一歩先に行きますし、よりきめ細かいサービスの提供までやれるようになっていけばこれも中所得から脱皮できる1つのチャンスだと思います。国としてそのような改革をやるかどうかです。外資規制も外してね。やるという意気込みも見せて欲しいですね。そこらが中途半端じゃあかんですわ。インフラもやるんだと言いながらバラマキをやってはいけません。本当にそれらを国として断行できるかどうかの中所得の罫から脱皮のポイントだと私は思いますね。



末延: 私はここに来る以前はインドに駐在していたのですが、インドが中進国か途上国かという言われますが、インフラという点ではかなり遅れており、今佐々木さんがおっしゃったインフラ整備のためのプロジェクトは難しいですね、PPPってご存じですかね? プライベートパブリックパートナーシップと言って、要はそんなじゃダメですよ。民間企業と政府が一緒になってインフラをやるというのはまず無理ですね。国指導でやらないとダメですね。

インドのような大国は、データでいろいろ調べてみましたが、普通は第一次産業、第二次産業、第三次産業って徐々に伸びていくのですが、ご存知のとおりインドは第一次から一気に第三次に移行し、第二次が極めて脆弱なんです。全然ないということではないのですが、あれだけ人口が多いとやはり第二次産業の過程を踏まないと国力のUPにつながらないし、給与水準も上がらないし、一気にに行ったことによりいろいろ問題が起きると思います。シンガポールを見ますと、第一次産業もない、第二次産業もない、いきなり第三次産業からスタートしたみたいなまれな国ではあると思うんですが、、、。私は中国へ行ってインドへ行ってここに来ました。その経験から見て中国はやはり日韓台と同じように、一次、二次、スピードはものすごく早かったですけど、そして三次へさっと行っている、あの国は早晚先進国入りするだろうと思います。だからインドを見ているとちょっと心配なんです。あまりにインフラ整備に時間がかかるという意味で。この国はこの国で人口少ないですけど、一気に三次産業に移行しています

が、そのためのインフラは全部やってきているんですね。

フィリピンも最初は英語が通じ9,000万人もの人口がいるということで、もう少し重工業が発達すると思っていたのですが、やはり少々心配ですね。そうなりますとベトナムは本当に大丈夫、カンボジアはどうだろうと、それこそミャンマーは大丈夫か、ミャンマーはこれからでしょうけど。そういう国は中進国までまだとどろいていないんですが、そういう国が将来先進国に仲間入りするには、やはり佐々木さんがおっしゃった大型インフラ整備を今からきちんと国としてやっていくことが必要ですね。時間はかかりますからね。現代のようにライフサイクルが短い中で果たしてそれを時間をかけてやれる余裕があるのかなと思います。シンガポールはまれに第三次からスタートして、あっという間に有名になっちゃってうまくいっている国ですね。

大谷: 1つには政権の強さがあるのではないですかね。

末延: そうですね。政権の強さがありますね。

河原畑: シンガポールは確かに優等生ですが、課題がない訳でもないと思います。おそらくサービス産業が今後のシンガポールの成長戦略の重要なキーになるのでしょうか、実は半年ぐらい前に開催されたエアポート・カンファレンスで興味深い話がありましてね。航空局CAASとチャンギ空港CAGそれに労働組合上部組織、そこにコンサルタント会社加わって、これから一緒に生産性向上に取り組んで行きましょうという決意表明的なプレゼンと舞台上でのシェイクハンド、結束式みたいな感じでしたが。ベースとなっているのはCAASが空港整備、エアライン誘致支援等に一億ドルの投資を行うことになったようで、その半分は我々運航事業者に対する管制費用等の減額やインセンティブに充てられ、残り半分は今後の空港運営の生産性向上、自動化、人材育成のために投資に用いるということでした。生産性向上に寄与するアイ

デアや魅力的な航空業務への改善案の募集、それらの実現に必要な投資にです。確か建国当時の逸話として耳にしたことがあるのですが、当時まだ財政的に苦しかったシンガポール政府は各国からの支援を要請していたわけですが、日本に対しては資金援助ではなく、生産性向上のための技術者の派遣を求めたということです。日本の卓越した生産性の高さ、質を学ぶことが将来のシンガポールにとって重要だと考えたのでしょう。正に先見性のあるリーダーの的確な判断だったと思います。建国50年となり、先進国となり成長を続けているにもかかわらず、やはり生産性向上ですよ。それもサービス産業の一つ、空港オペレーションです。非常に興味深いですね。まあおそらく人材難という側面もあるとは思いますが。

長谷部：課題としてはもう1つ、政府予算を見るとやはり社会保障費がものすごく増大しています。2014年の予算では医療費だけで約6,300億円です。基本的に社会保障は積立方式なので財政負担は少なくて済むのですが、医療費が約6,300億円ということはGDPの1.8%(2008年1.0%)程度に相当します。日本の場合はおよそ10%ぐらいですからまだまだ低い数値ですが、とはいえ2008年時点では2,000億円ぐらいでしたから、2008年からこの2014年の予算を比較するとおよそ3倍になってきています。こうした増大する社会保障費や生産性向上のための企業への税控除、補助金、中小企業対策費等の増大による財政負担を最終的に穴埋めしているのが、政府投資会社(SWF)のGICとTEMASEKの収益金なんです。両SWFから繰り入れる収益金は今財政収入の10%を超えています。シンガポールは約5兆円の国家予算なんですけど、だいたい年間で6,000億円をこの2つのSWFの収益から繰り入れてます。それで財政は黒字、80年代以降この財政が赤字になったの2009年1回だけで、建国以来リザーブを積み上げてきたわけですから、そういう意味では政府のリザーブを運用して稼ぎ出すSWFに多く依存した財政構造になりつつあるという状況があります。2009年からは長期

収益見通しをベースにした新たな基準を制度化(NIRC)して、SWFの財政貢献(収益の最大2分の1まで)を倍増させています。

だから外的要因に対して経済が影響されやすい状況が更に進むような感じがしてます。まだまだ政府のリザーブは潤沢ですので安泰だと思いますけど、今後急速な高齢化の進展で社会保障費の増大は明らかですから、GICとTEMASEKが一層稼がなければいけないという状況になると思います。

その他の課題として人口問題や後継者の問題があります。人口は2020年代には移民を受け入れなければ国民が減少する過程に入ります。これは移民の受け入れで対応せざる負えないわけですが、外国人流入抑制策との関係でどうなるのか。建国50周年の来年選挙という噂もありますけど、これもどうなるか1つの注目点だと思います。

佐々木：今の社会保障費増大に関し、人口問題に関して矛盾が有ると思います。この国の発展というのは経済発展というのがシンガポールの永遠の課題であり、それがベースでずっと上がってきたと。すなわち、少子高齢化が出てきて、稼ぎ手が少なくなってくる時に今のような外国人規制を続けて本当にこの国が成長を持続できるかっていうことは大きな疑問で。昨年人口白書が出ましたよね。あれで見ると2030年ですね。690万人。そのときの外国人が45%ですよ。それがカンファタブルな今の少子高齢化の状況を考えるとそうなるんだろうと。やはり選挙の問題もあるのかもしれませんが、ちょっとこれ人口白書に書かれた姿が本当にそのまま実現できるかっていうところがちょっと分からなくなってきたと。

長谷部：そうですね。今の不動産市場鎮静化策と外国人労働者流入規制、これは選挙対策ではないかとの見方もあるようですが、まさしく人口白書で出したとおり人は絶対に減らせないということですね。この国の形成は近隣諸国からの安い賃金の労働投入を増やして、効率的にインフラを整備しそのパイを拡大することによって成長してき

たという側面が強いと思います。逆に言うと、これを止めたら成長も難しい。いくら労働生産性も向上させようとしても、限界がありますからね。

今後市民権で約2万5,000、PRで約3万人、年間約5万5千人をレジデントの中に入れて行きこれで人口は維持して行く。あとは外国人をいかに増やし人口を拡大させて行くかということかと思いません。



2015年はどんな年になるか？



河原畑：多岐にわたる興味深いお話しが多々あり、毎回そうなのですが、少々まとまりの悪い座談会となってしまいました。司会者としては反省する必要があります。最後に恒例になったおりますが、今年2015年はどういった年になりそうか、キーワードを挙げて頂きご説明を頂ければと思います。

末延：新春の話としてはやや暗い話しになってしまいますが、原油価格がここ数ヶ月でものすごく下落しています。世界全体の景気についてアメリカをはじめ、中国もヨーロッパもその点で今年は注意したほうが良いのかなと思っております。昨年の中国の経済成長率は過去30年で最低になると見ていまして心配が必要かと思えます。原油が下がることは、日本にとっては必ずしも悪くないと思えますが、世界全体を見ますとちょっと、要注意の兆候が出始めていることとなります。慎重に分析し、いろいろ準備をしておかなければいけない、日本はデフレからインフレに転換、アベノミクスも一応成功軌道に乗り、さあ行こうと言う時に、今度は周りがどうかなあとという感じで、しっかり心構えをしておかなければいけないと思っております。この先いろいろなインデックスで不安な兆候が出始めるような感じがしてならないですけども、、、。新年にはあまり相応しくない話ですが、正直なところ私はそう思っています。



佐々木：今年の展望ということを申し上げますと、シンガポール建国50周年ということでいろいろな記念行事があると思います。その中で、やはりシンガポール経済は周辺国、欧米、中国、アセアンの各国の状況に左右されますね。世銀やADBをはじめほとんどのアナリストの方が来年はアセアンの経済成長率、GDP成長率は今年より良くなるだろうと予想しています。平均で5%はキープ、5%プラスアルファというところでしょうか。

ただ、私の心配な点はアメリカがQE3を終えて金利を上げるだろうということです。そのタイミングがセカンドクォーターなのか、いつになるのかということでございます。その中でやはり経常収支の赤字国、具体的に申し上げますとインドネシア、インド、ベトナム、こういった国々はそのタイミングで通貨下落の状況に陥るのではないかなということですが、昨年一時のような状況になりましたが、その際いかに自国の金利を上げ、経済を引き締めながら成長させていくかの攻防戦になる。経済成長をある程度犠牲にしてでも通貨下落を防ぐというふうにすると、内需そのものに悪影響を受けてしまうでしょうし、本当に5%キープできるかなというのがちょっと心配です。

ただ、長い目で見るとこのアセアン、インドはやはり間違いなく成長するし、我々ビジネスとしてもここを置いてほかこれ以上伸びるところはまずないと思えますので、それなりにきっちりとビジネスをキープしていければと思います。

西尾：会頭がおっしゃられたとおりで、紆余曲

折はあるかもしれませんが、アジアのポテンシャルが大きいことは間違いありません。ベースとしては間違いなく伸びていくマーケットだと思いますし、日本人にとって地理的にも心理的にも近い。引き続き日本の企業さんのアジアでの活躍の場というのはたくさんあるだろうと思いますね。

先ほどもアセアン共同体やアールセップの話がありましたけれど、この地域全体が1つのマーケットという方向は加速することはあっても減速することは恐らくない。そういう意味では、当地日系企業において「リージョナル」というのは引き続き大きなキーワードになっていくでしょう。その中で私も銀行としては何とかお役に立ちたいと思いますし、我々自身もその中でいろいろビジネスチャンスを見つけていけたらと。今年もそういう年であって欲しいと思っています。

大谷：私のもっぱらの興味は年末に向けたAECの進展ですね。それが本当にどっちに転ぶのか、先送りにするのか、そこでちょっと挫折感を味わうのか、これが今後の特にメコン地域の将来を変えてしまうのではないかと思います。

またインドネシアのジョコさんがどこまで与党と戦えるのか。インドのモディさんがどれだけ主権、リーダーシップを発揮できるのかと点でも非常に楽しみな年ですね。それによって大きなインフラビジネスのスピードや国の発展度合いがかなり変わってくる可能性があり注視しています。

ミャンマーは虎視眈々といろんなところから金引っ張っているいろいろ始めて、これがまた結構面白いなと思っています。建国50周年という非常に大きな節目を迎えるシンガポールでもいろいろあるとは思いますが、むしろ周りの国のほうが興味を引いてやまないところですね。弊社ももちろんご多分に漏れず海外売上比率をもっと上げようと計画し、その原動力にアジアを据えようとしています。世界中の売り上げからみますと比率的にはまだ小さい。ただやはり成長率としては大きい。このアジアの成長をいかに取り込むかが大きな課題だということはもう明言して止みません。

長谷部：私はやはりこのASEAN全体の成長というものを取り込んでいくには、いろいろな意味でやはり日系企業、欧米企業、ASEAN企業も含めたネットワークの拡大、ビジネスでの連携の拡大が必要だと思います。そういう意味においては今、会頭が率先して検討しているインドネシア、インド等とのラウンドテーブル、ネットワークの開催は非常に良い試みではないでしょうか。ただ、実際にどうビジネスにつながるのか、進展させるのは難しい面はありますが、ファーストステップとしてローカルの企業との交流を図り、その中で次にビジネスにつながるケースが出てくれば良いと思います。それによってこのASEAN地域の成長を取り込むことができるようになるのではないかと思います。そうしたイベントにはジェトロとしてできるかぎり支援して行きたいと思っています。

河原畑：いろいろなお話が出ましたが、今年のアジアの経済は特にアメリカの動向、特に経済運営、そして金利・為替、原油価格に大きな影響を受けるのかなと思っています。また政治と経済という目で見ると政治や国際紛争などが経済の足を引っ張ってしまうのではないかと心配しています。特に中東、ウクライナ、ロシア、そして中国、北朝鮮も。また反日問題、イスラム国も。アメリカの中間選挙の結果、オバマ政権の残り2年間はかなり厳しい議会運営になり、世界のリーダーとしてそのような問題に対処できるのか、それでなくとも内外ともに頭の痛い話しが目白押しですので。

長谷部：本当にそうだと思います。最近、英国のスコットランド、スペインのカタルーニャ州、クリミア問題、中東におけるISISの勢力拡大など世界的にボーダーが曖昧になってきている感じがします。中国もウイグルのようにイスラム系が多いところは心配の種です。

河原畑：長い時間、お疲れ様でした。それでは新年座談会を終わらせて頂きます。皆様にとりまして今年も良い年となりますように。ありがとうございました。

広報委員からのご挨拶

JCCI 広報委員長、JCCI理事（観光・流通・サービス部会長）
Japan Airlines Co.,Ltd.
Vice President & Regional Manager

河原畑 敏幸



2015年年初にあたり広報委員会メンバーを代表してご挨拶させていただきます。

新年明けましておめでとうございます。皆様にとりまして今年も最良の年となりますように、心よりお祈り申し上げます。またいつもJCCI広報誌「月報」をご愛読頂き、誠に有難うございます。

私事ですが、5回目の正月をここシンガポールで迎え、当地の「日本人村」ではそろそろ「古株」の域に達しつつあるような気がしております。季節感が乏しいこともあり、あっと言う間の4年でしたが、振り返ってみますと日本では東日本大震災、政権交代（アベノミクス、円高から円安へ、消費税8%に）、2020年東京オリンピック招致、訪日外国人1,000万人突破（活発な観光誘致展開）、平泉/富士山/富岡製糸場世界遺産登録、羽田空港国際線発着枠の拡大、自然災害の続発、TPP交渉最終局面へ、円安加速、消費税10%先送り、師走総選挙等々、またこちらでも議会/大統領選挙、マレー鉄道廃線、外国人労働者規制強化、安部総理来星、在留邦人数3万人突破（地域統括会社の設立ラッシュ/機能拡大、日本人学校児童生徒数再度2,000名越え）、チャンギ空港第四/五ターミナル建設着工（2020年半ばには1億3,500万人規模の乗降利用客数に）、各種IR/アミューズメント施設完成（MBS/セントーサのゴージャスホテル群、ナイトサファリ、スポーツハブ等）等々、なかなか心安らか（清らか）なる南国での駐在生活とはいかないようです。

このところ良く耳にする言葉のひとつに「生物多様性」という5文字があります。数十億年にわた

り進化し受け継がれ、形作られてきた生物の生き様、それが生物の多様性ということです。そしてその堅持こそが地球をより長く人類を含む多種多様な生物の母屋（マザープラネット）として存在させ得ることになるということでしょう。但し、この「生物多様性=Biodiversity」という言葉が生まれたのはそんなに古いことではありません。1985年、2つの言葉「生物的な=biological」と「多様性=diversity」を合成して作られました。以来、世界の政治家や科学者、環境保全を熱心に考える方々等によってその重要性が支持され、頻繁に使われるようになりました。その背景には、地球環境の未来に対するかなり深刻な危機感がありました。即ち20世紀後半から、とりわけ自然豊かな開発途上国地域を中心に、人類自身が自然環境を大きく改変し、多くの生物を減少・絶滅に追い込み、地球の生態系を大きく損なう環境問題を引き起こしてきたことからでしょう。まあ個人的には、多少ではありますが、中トロやウナギの蒲焼きの摂取を我慢する必要がありそうですね。

さて人間社会ではどうでしょうか。超保守派、ナショナリズム、ポピュリズムの台頭/影響による内向な政治運営への転換、各地でおこる領土・民族紛争、「イスラム国」に象徴される原理主義的思想・宗教に基づく秩序なき戦闘行為/略奪行為の拡大、その長期化?等々、それらは同じ「人間社会」の「多様性」を強く否認していくようにもみえます。ではその先には・・・??。

異なる人種/民族、考え方、生き方を相互に尊重し合い、対立/格差が生じた場合には何とか第

三の道を相互に考えて方向転換していく。正に現在人間の叡智が問われているようにも思われます。マザープラネット「地球」の主要メンバーとして人間がその地位をより長く堅持していくためにも・・・。

拙広報誌「月報」は1970年1月に創刊され、毎月20名の異なる業界から選ばれた若手メンバーと議論を繰り返しながら発行させて頂いております。今後もシンガポールを中心にASEAN地域や日本との関連性が高い経済、産業等に関する最新かつ話題性の高い内容をお伝えすべく努力して参ります。今後ともご指導・ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

会員皆様のご多幸と更なるご発展を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。



シンガポール



2014 年主要ニュース一覧

普段月報編集を担当している広報委員 22 名がその年の 10 大ニュースを Pick up し、そのニュースを 10 項目【①インフラ、②ハブ政策、③金融/物価、④雇用、⑤医療/健康、⑥環境、⑦観光、⑧社会保障、⑨社会情勢、⑩政治】に分け、記事をいたしました。2014 年を振り返りながら、ご覧くださいませ。

【 ① インフラ 】

- シンガポールスポーツハブ完成
- ラオパサリニューアルオープン
- チャンギ空港第 5 ターミナル土地造成を開始へ T5の基礎工事を日系企業が受注
- チャンギ空港第 4 ターミナル建設始まる 2 名チャンギ国際空港第 4 ターミナル新築工事日系企業が受注
- シンガポール/クアラルンプール間の高速鉄道のシンガポール側終着駅の候補地 3 か所が決まる
- ダウンタウンライン開通
- 高速道路 MCE が完成
- マレーシア・シンガポール連絡道通行料金値上げ…10 月 1 日より両国合わせて 33 リンギに



【 ② ハブ政策 】

- 個人情報保護法施行

【 ③ 金融/物価 】

- 黒田バズーカ2でシン \$ 高が加速
- 日本円 通貨安により一時 1 ドル = 90 円超え
- 違法行為対策として世界一の高額紙幣である S\$10,000 紙幣の発行中止が発表される
- 酒税、たばこ税 UP
- シンガポール生活費世界一、昨年1位の東京は 6 位
- シンガポールから日本への直接投資が増加



【 ④ 雇用 】

- FCF(Fair Consideration Framework)として 新たな EP 取得申請プロセス (Jobs Bank)の適用
- 外国人建設労働者の 10%以上を熟練労働者に—人材省が 2017 年から義務付け
- 外国人雇用規制により人手不足続く
- 雇用法改正 施行 ①4500S\$/月以下は雇用法適用対象
②雇用法 4 章の規定(休日、労働時間等に関する)適用対象が 2000S\$/月→2500S\$/月



【 ⑤ 医療/健康 】

- 水たばこの輸入・販売が禁止へ、喫煙禁止は 2016 年 8 月から
- 独立第 1 世代の高齢者医療費を支援する「パイオニア・パッケージ」導入

【 ⑥ 環境 】

- 1869 年以降の最低月間降水量記録



【 ⑦ 観光 】

- 中国からの観光客激減によりカジノ統合型リゾートの収益激減
- シンガポール航空 札幌線 季節便運航(2014/12、2015/1)発表
- オーチャード一部歩行者天国に
- 円安で、シンガポール人の訪日旅行者が増加
- ナイトサファリ 20 周年、白ライオン公開
- チャンギ空港の旅客、昨年は 5,370 万人の過去最多に
- 遊園地人気投票、ユニバーサル・スタジオがアジア 1 位に
- 大手旅行会社が NATAS(シンガポール旅行業協会)主催のフェア(2015 年 3 月)に不参加を表明し、独自フェアを MBS で開催することを発表
- 日本庭園と中国庭園の大幅改修工事が発表される
- 遊園地人気投票、ユニバーサル・スタジオがアジア 1 位に
- 中国からの観光客、MH370 便 墜落(?)の影響で激減
- 航空各社、羽田便増便
- ボタニック・ガーデンがユネスコの世界遺産登録に申請される
- 沖縄県がチャンギ空港と MOU(Memorandum of Understanding)を締結



【 ⑧ 社会保障 】

- 医療保険制度を改革、2015 年末までに終身保障の皆保険を導入

【 ⑨ 社会情勢 】

- マレーシア航空 消滅事故
- 住宅市場低迷 / 民間住宅価格、下落はじめる
- 過去 1 年間のオフィス賃貸料上昇率、域内でシンガポールが最大
- デング熱感染者、過去最高に～オーチャード地区も感染危険区に
- エボラ出血熱の感染検査、チャンギ空港で開始
- シンガポールで 40 年ぶりの暴動発生(リトルインディア)
- マレーシア・シンガポール連絡道通行料金値上げ…10 月 1 日より両国合わせて 33 リンギに
- 人口の伸びは前年比 1.3%、過去 10 年で最低に
- AVA 福島県産含め日本産食品の輸入規制を大幅緩和
- スマホの普及率、世界一はシンガポール

【 ⑩ 政治 】

- シンガポール内閣改造～社会福祉の人事体制を強化



JCCI広報委員会



(敬称略、会社名アルファベット順)

| | NAME | COMPANY |
|----|------------|--|
| 1 | 委員長 河原畑 敏幸 | JAPAN AIRLINES CO., LTD |
| 2 | 幹事長 中島 茂 | NTA TRAVEL (Singapore) Pte Ltd |
| 3 | 委員 津田 律子 | DREW & NAPIER LLC |
| 4 | 委員 森山 正明 | EISHINKAN SINGAPORE PTE LTD. |
| 5 | 委員 西野 雄介 | EN WORLD SINGAPORE PTE LTD |
| 6 | 委員 武末 知之 | ERNST & YOUNG SOLUTIONS LLP |
| 7 | 委員 高橋 利明 | FUJI OIL(S) PTE LTD |
| 8 | 委員 沼田 宏光 | HAKUHODO CONSULTING ASIA PACIFIC PTE LTD |
| 9 | 委員 大友 一成 | HITACHI ASIA LTD |
| 10 | 委員 安田 雅子 | INTERTRUST SINGAPORE CORPORATE SERVICES PTE. LTD. |
| 11 | 委員 小峯 彩 | ITOCHU SINGAPORE PTE LTD |
| 12 | 委員 真鍋 英樹 | JAPAN NATIONAL TOURISM ORGANIZATION SINGAPORE OFFICE |
| 13 | 委員 本田 智津絵 | JETRO SINGAPORE |
| 14 | 委員 岡田 周平 | KAJIMA OVERSEAS ASIA PTE LTD |
| 15 | 委員 松井 達也 | KDDI SINGAPORE PTE LTD |
| 16 | 委員 國井 大輔 | mitsubishi chemical SINGAPORE PTE LTD |
| 17 | 委員 東間 譲 | MITSUBISHI LOGISTICS SINGAPORE PTE LTD |
| 18 | 委員 川俣 昌次 | MITSUI FUDOSAN (ASIA) PTE LTD |
| 19 | 委員 猪飼 邦保 | PANASONIC ASIA PACIFIC PTE LTD |
| 20 | 委員 竹腰 雄二 | THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI, UFJ LTD |
| 21 | 委員 古谷 るくら | TOKIO MARINE INSURANCE SINGAPORE LTD |
| 22 | 顧問 門伝 好司 | SBG HOLDINGS PTE LTD |

2015年のインド、ASEAN5、オーストラリア、シンガポール経済の展望

MIZUHO BANK LTD.
SENIOR ECONOMIST

稲垣 博史

経済成長が総じてふるわなかった2014年の インド、ASEAN、オーストラリア経済

2014年のインド、ASEAN、オーストラリア経済を振り返ると、実質GDP成長率が低下したり、成長率が従来よりも低水準にとどまったりした国が目立った。米国経済の回復が続く中、エレクトロニクス製品などの輸出は総じて拡大基調で推移したものの、中国経済の減速などを背景に、素材の輸出は伸び悩んだ。また、国内要因により、インド、インドネシア、タイという域内経済大国の内需は全般に伸び悩んだ。なお、ASEAN5はインドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナムの5カ国を指す。

① インド

インド経済は、緊縮的な財政・金融政策により、内需を中心に伸び悩んだ。まず金融政策を見ると、政策金利は2013年に0.5%ポイント引き上げられた後、2014年1月にさらに0.25%ポイント引き上げられて8.0%となり、執筆時点(2014年11月)まで同水準で維持された。また財政運営をみると、赤字を持続的に削減する方針が打ち出されている。緊縮政策が維持された背景には、米国の量的金融緩和第3弾(QE3)縮小観測の台頭を契機に、2013年以降インド・ルピーが売り圧力に直面したことや、国内のインフレ圧力がある。実質GDP成長率は、2013年実績を小幅に上回ったものの、+7%を超えた2011年と比べると低い水準にとどまった見込みである。

② ASEAN5

経済規模が大きいインドネシアとタイが減速したことを主たる原因として、成長率は全体として低下した。

まずインドネシアは、インドと同様に2013年に自国通貨売りに直面し、それ以降は緊縮的なマクロ経済運営が続いた。金融政策をみると、政策金利は同年中に1.5%ポイント、さらに2014年11月に0.25%ポイント引き上げられ、7.75%となった。2014年11月に燃料補助金を削減するなど、財政についても健全化がはかられており、これらの結果として内需は伸び悩んだ。未加工鉱石の輸出規制強化の悪影響もあり、実質GDP成長率は2013年を大きく下回る水準にとどまる見込みだ。

図表1 四半期実質GDP成長率

| | 2013 | | | | 2014 | | |
|---------|------|------|-----|-------|------|------|-----|
| | 1~3 | 4~6 | 7~9 | 10~12 | 1~3 | 4~6 | 7~9 |
| シンガポール | 1.9 | 10.2 | 0.7 | 6.9 | 1.9 | ▲0.3 | 3.1 |
| タイ | ▲5.2 | 1.1 | 3.7 | 2.7 | ▲8.6 | 4.3 | 4.4 |
| マレーシア | ▲1.2 | 6.8 | 7.1 | 7.6 | 3.5 | 7.8 | 3.6 |
| フィリピン | 9.3 | 5.3 | 5.8 | 5.8 | 5.7 | 7.9 | 1.5 |
| オーストラリア | 1.0 | 3.0 | 1.5 | 3.4 | 4.1 | 2.0 | 1.4 |
| | 前年比% | | | | | | |
| インドネシア | 6.0 | 5.8 | 5.6 | 5.7 | 5.2 | 5.1 | 5.0 |
| ベトナム | 4.8 | 5.0 | 5.5 | 6.0 | 5.1 | 5.4 | 6.2 |
| インド | 4.4 | 4.7 | 5.2 | 4.6 | 4.6 | 5.7 | 5.3 |

(資料) 各国統計

次にタイでは、政治混乱による企業・消費者のマインド悪化や、輸出の構造的な不調など、様々な悪条件が重なった。この結果、実質GDP成長率は、わずか+1%弱程度にとどまった見込みである。

その他の国をみると、一時経常収支が悪化していたマレーシアも、財政健全化に舵を切ったため内需がやや減速した。ただし、半導体を中心とするエレクトロニクス製品の輸出が好調であったことなどから、実質GDP成長率は加速した見込み

である。フィリピンでは、個人消費が底堅かったほか、2013年末の台風からの復興を目指した公共投資が実施されたことから、経済は底堅く推移した。成長率は2013年対比で低下したものの、+6%近い水準を維持した見込みだ。ベトナムでは、反中デモによる経済的悪影響もあったが、対内直接投資を中心に民間投資が拡大したことから、景気は堅調に推移した。

③ オーストラリア

2014年のオーストラリアの成長率は、2013年対比で加速した見込みだが、これは主にゲタが高かったことによる。1～3月期に資源輸出主導で比較的高い成長を記録したものの、その後は同輸出や資源関連投資の減速で、経済は低調に推移した。

④ シンガポール

シンガポール経済は、総じて振るわない展開となった。とくに、これまで経済成長の原動力であった輸出は、低迷が続いた。低成長の背景には、失業率が2%前後という歴史的な低水準で推移するなど労働力需給が逼迫する中、労働力が不足したことがあるとみられる。

経済安定化は総じて前進

域内経済大国を中心に内需が不振に陥る中、輸入が抑制されたことなどから、マクロ経済は総じて安定化の方向に向かった。

まずインドでは、2012年から2013年にかけて経常収支の大幅な赤字が問題視されたが、2013年後半以降は小幅な赤字にとどまっている(図表2)。消費者物価指数(CPI)上昇率も、ASEAN諸国対比では依然高い水準にあるものの、2013年に一時二桁に達したのに対し、2014年10月には5%台まで低下した(図表3)。もっとも、前年の物価水準が高いことによるベース効果で低下したという側面もあり、依然インフレ懸念が解消されたわけではない。

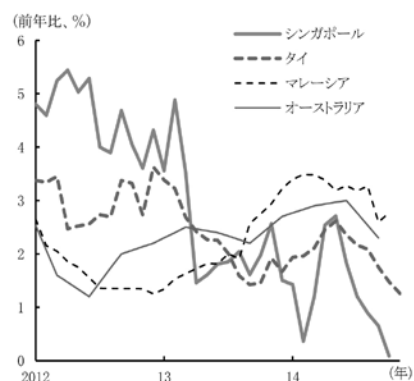
図表2 経常収支

| | 2013 | | | | 2014 | | |
|---------|-----------|------|------|-------|------|------|------|
| | 1～3 | 4～6 | 7～9 | 10～12 | 1～3 | 4～6 | 7～9 |
| | 単位: GDP比% | | | | | | |
| シンガポール | 20.6 | 20.1 | 17.5 | 17.5 | 20.1 | 20.1 | N.A. |
| インドネシア | ▲2.7 | ▲4.5 | ▲3.9 | ▲2.1 | ▲2.0 | ▲4.1 | ▲3.1 |
| タイ | 0.5 | ▲6.7 | 0.9 | 3.1 | 8.8 | 0.6 | ▲1.6 |
| マレーシア | 5.6 | 0.8 | 4.0 | 5.6 | 7.7 | 6.1 | 2.8 |
| フィリピン | 3.3 | 3.2 | 4.1 | 4.5 | 1.2 | 4.4 | N.A. |
| ベトナム | 7.4 | 3.8 | 9.1 | 3.0 | 9.2 | N.A. | N.A. |
| インド | ▲3.5 | ▲4.8 | ▲1.2 | ▲0.9 | ▲0.2 | ▲1.6 | N.A. |
| オーストラリア | ▲3.4 | ▲3.4 | ▲3.0 | ▲2.0 | ▲3.4 | ▲3.4 | N.A. |

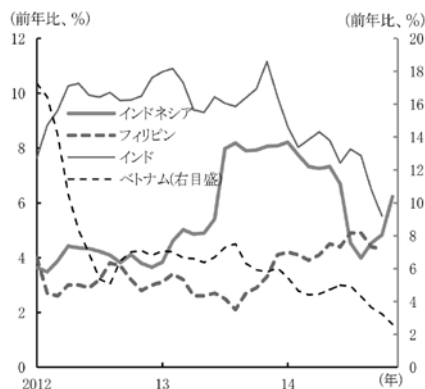
(注) オーストラリアは季節調整値。

(資料) 各国統計、IMF

図表3 消費者物価指数



(資料) 各国統計



インドネシアでは、2013年において、緊縮政策により内需が鈍化し、経常収支は年後半から緩やかな改善傾向であった。前述の鉱石輸出規制の影響で、2014年4～6月期の経常収支はGDP比▲4.1%、7～9月期は▲3.1%と再度高水準の赤字となったが、2014年11月の燃料補助金削減と利上げを受け、再度赤字は縮小に向かうとみている。

このほか、財政健全化に舵を切ったマレーシア

の経常収支も総じて改善傾向となった。また、経済安定化を重視するようになったベトナムの経常収支は、おおむね黒字が続いた見込みである。

一方、タイの経常収支は、2013年後半以降に改善したものの、2014年4～6月期以降は再度悪化している。内需が低迷して輸入が伸び悩んだものの、輸出も不振に陥ったためだ。

AEC発足の影響は当面小さい見通し

2015年には、AEC(ASEAN経済共同体)が発足する。これにより、ASEANの後発国であるベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー(CLMV)の輸入関税が原則撤廃されるほか(一部は2018年に先送り)、非関税障壁撤廃、サービス貿易の自由化、人の移動の自由化の実現が目指されている。詳しくは、「ASEAN経済共同体の前途」(みずほ総合研究所『みずほインサイト』2014年11月14日)を参照されたい。

さて、CLMVの関税撤廃は予定通り行われる見通しだが、関税以外の分野については加盟国間で利害対立が大きく、多くの点で継続協議となるため、2015年に各国の制度が劇的に変わるということはないと予想している。

米国利上げと輸出環境の厳しさで、2015年の景気は引き続き勢いを欠く

今後を展望すると、2015年中に、米国で利上げが実施されることが予想される。このため、一部で緊縮政策が続くことから、全体としてアジアの内需は引き続き緩やかな伸びにとどまるとみている。また、欧州経済の展望が悪化していることから、2014年対比で、2015年における輸出環境の改善は限定的なものにとどまりそうだ。以上から、景気の拡大ペースは総じて2014年から横ばい程度で推移すると予測する。

① インド

現政権は、成長よりも財政の健全化を目指す方針である。また、これまでの緊縮的な金融政策の影響も続きそうだ。このため、内需は緩やかな伸びとなろう。輸出は拡大基調が続くが、成長率は2014年とあまり変わらない水準にとどまりそうだ。現政権は改革志向だが、議会对策等が難航するとみられ、その成果が現れるには時間がかかるとみられる。

② ASEAN5

インドネシアは、経常収支改善など、マクロ経済の安定化を実現する過程にある。燃料補助金の引き上げと利上げの影響などから、インドと同様に、2015年の内需は緩やかな伸びにとどまろう。鉱石輸出規制の効果剥落から輸出が加速するものの、成長率は2014年と同程度にとどまりそうだ。

タイは、2014年の政治混乱の反動から内需が持ち直すため、経済成長率は大幅に加速するだろう。一方、労働集約産業の衰退といった構造要因から、輸出は引き続き低迷しそうだ。このため、力強い経済成長を回復するには至るまい。

その他の国をみると、財政健全化を目指すマレーシアの景気は減速する見通しだ。インフラ整備が本格化するフィリピンと、対内直接投資の堅調な増加が見込まれるベトナムは、引き続き高い成長を実現するだろう。

③ オーストラリア

資源プロジェクトの稼働などから、輸出主導で経済は底堅く拡大するだろう。成長率は2%台前半となる見通しだ。

④ シンガポール

労働力需給の逼迫が深刻であり、引き続き輸出は低迷する見通しである。雇用・所得環境は良好であり、個人消費は底堅く推移するであろうが、成長率は2014年と同程度にとどまりそうだ。

単位 :%)

| | 2010年 (実績) | 2011年 (実績) | 2012年 (実績) | 2013年 (実績) | 2014年 (予測) | 2015年 (予測) |
|----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| アジア | 9.4 | 7.5 | 6.1 | 6.1 | 6.0 | 6.0 |
| 中国 | 10.4 | 9.3 | 7.7 | 7.7 | 7.4 | 7.2 |
| NIEs | 8.7 | 4.1 | 2.2 | 2.9 | 3.2 | 3.2 |
| 韓国 | 6.5 | 3.7 | 2.3 | 3.0 | 3.4 | 3.5 |
| 台湾 | 10.6 | 3.8 | 2.1 | 2.2 | 3.5 | 3.5 |
| 香港 | 6.8 | 4.8 | 1.5 | 2.9 | 2.1 | 2.1 |
| シンガポール | 15.2 | 6.1 | 2.5 | 3.9 | 3.0 | 2.9 |
| ASEAN5 | 6.9 | 4.7 | 6.2 | 5.2 | 4.6 | 5.1 |
| インドネシア | 6.2 | 6.5 | 6.3 | 5.8 | 5.1 | 5.2 |
| タイ | 7.8 | 0.1 | 6.5 | 2.9 | 0.8 | 4.4 |
| マレーシア | 7.4 | 5.2 | 5.6 | 4.7 | 5.8 | 4.4 |
| フィリピン | 7.6 | 3.7 | 6.8 | 7.2 | 5.8 | 6.2 |
| ベトナム | 6.4 | 6.2 | 5.3 | 5.4 | 5.8 | 5.8 |
| インド | 9.3 | 7.7 | 4.8 | 4.7 | 5.2 | 5.4 |
| オーストラリア | 2.3 | 2.6 | 3.7 | 2.0 | 2.7 | 2.3 |

(注) 1. 実質 GDP 成長率 (前年比)。

2. 平均値は IMF による 2012 年 GDP シェア (購買力平価ベース) により計算。

(資料) 各国統計、みずほ総合研究所

執筆者氏名

稲垣 博史(いながき ひろし)

経 歴

1969年 東京都生まれ

1991年 早稲田大学政治経済学部卒業、富士総合研究所入社

2003年 統合により、みずほ総合研究所アジア調査部所属

2004～2009年 香港駐在

2014年～ みずほ銀行シニアエコノミスト(在シンガポール)

シンガポール日本商工会議所主催

2014年度 海外ミッション 上海・香港視察団報告書

期 間：2014年11月5日（水）～8日（土）



シンガポール日本商工会議所
2014年度 「上海・香港視察団」 団員名簿
 2014年11月5日(水)～8日(土)

| | | |
|---------------------|--|-------------------|
| 佐々木 淳一 | 伊藤忠シンガポール | 代表取締役社長 |
| SASAKI JUNICHI | ITOCHU Singapore Pte Ltd | President & CEO |
| 川口 敬一郎 | 東南アジア新日鉄住金 | 社長 |
| KAWAGUCHI KEIICHIRO | NIPPON STEEL & SUMITOMO MEAL Southeast Asia Pte.Ltd. | Managing Director |
| 今枝 哲郎 | 三井住友銀行シンガポール支店 | 支店長 |
| IMAEDA TETSURO | Sumitomo Mitsui Banking Corporation | Director&GM |
| 上田 二郎 | 三井不動産アジア | 取締役社長 |
| UEDA JIRO | Mitsui Fudosan Asia Pte Ltd | Managing Director |
| 長谷部 雅也 | 日本貿易機構(ジェトロ)シンガポール | 所長 |
| HASEBE MASAYA | JETRO Singapore | Managing Director |
| 長尾 健太郎 | シンガポール日本商工会議所 | 事務局長 |
| NAGAO KENTARO | Japanese Chamber of Commerce & Industry, Singapore | Secretary General |



2014年度 海外ミッション 上海・香港視察団日程表

| スケジュール | | 先方応接者 | |
|--------------------|--------|---|---|
| 11月5日（水）1日目 | | | |
| ～6:30 | | チャンギ空港到着、出国準備 | |
| 7:30 | 5時間15分 | SQ828便 チャンギ発上海浦東行き | |
| 12:45 | | 上海浦東国際空港到着 | |
| | | 空港到着後、現地ガイドと合流。バスに乗車。 車内より上海市内視察。 | |
| 15:45 | | JETRO上海オフィス到着 | JETRO 上海 所長 三根伸太郎様 |
| 16:00 | 1時間 | ブリーフィング（～16:00） | |
| 18:00 | | 夕食会場に移動 | |
| 18:30 | 2時間 | 上海日本商工クラブ様と懇親会（～20:00） 会場：老夜上海 | 上海日本商工倶楽部 理事長 伊藤幸孝様 事務局長 中村仁様、常松直志様他 |
| 上海泊 | | チェックイン後解散。 | |
| 11月6日（木）2日目 | | | |
| | | ホテルにて朝食 | |
| 8:00 | | ホテルにて通訳・ガイドと合流後、出発 | |
| 9:00 | 1時間 | 中国（上海）自由貿易試験区 三井住友銀行（中国）有限公司（～10:00） | 三井住友銀行中国 社長 龍田俊之様 三井住友銀行中国 上海自贸試験区出張所副所長 小林廣太様 |
| 10:00 | | バスで移動 | |
| 10:30 | 1時間 | 中国（上海）自由貿易試験区 上海国際経済貿易仲裁委員会（～11:30） | 上海国際経済貿易仲裁委員会 黄文様他 |
| 11:30 | | バスで昼食会場へ移動 | |
| 12:30 | | 昼食 会場：蕨鮮工場 | |
| 13:30 | | 上海都市計画展示館 入館 | |
| 15:30 | | 新天地市内視察（～16:45） | |
| | | 空港に向け移動 | |
| 18:10 | 2時間45分 | HX239便 上海虹橋発香港行き | |
| | | 香港国際空港到着 | |
| 香港泊 | | 車でホテルへ移動。チェックイン後解散。 | |
| 11月7日（金）3日目 | | | |
| | | ホテルにて朝食 | |
| 8:30 | | ホテルからCanon Finetech工場へ、バスで移動。 | |
| 10:30 | 2時間 | Canon Finetech 深セン工場訪問 プレゼンテーション、工場内見学、写真撮影。 | Canon Finetech NISCA(Shenzhen) Inc 副総経理 笹本弘司様 小黒貴信様 |
| 12:30 | | 工場内にて、昼食。懇親会。 | 羅日本商工会 事務局長 中村良一様 |
| 13:30 | | 昼食後、香港に向け、出発。 | |
| 16:00 | 1時間30分 | 香港・シンガポール合同ブリーフィング（～17:30） | JETRO 香港 所長 小野村拓志様 香港日本人商工会議所 会頭 下山陽一様 事務局長 柳生政一様他 |
| 18:00 | 2時間 | 同会場で懇親会（～20:00） | |
| 20:00 | | 懇親会終了後、解散 | |
| 香港泊 | | | |
| 11月8日（土）4日目 | | | |
| | | ホテルにて朝食、出発まで自由行動 | |
| 9:05 | 30分 | バスにて空港に向けて出発 | |
| 12:30 | 3時間50分 | SQ891便 香港国際空港発シンガポール行き | |
| 16:20 | | シンガポール到着、解散 | |



2014年度 海外ミッション

上海・香港視察団団長所感

会頭 佐々木淳一

ITOCHU SINGAPORE PTE LTD



2014年度JCCIの経済視察団として11月5日から8日の日程で上海・香港(深圳)に行き参りました。JCCI視察団として初めての中国視察で、今回はタイトな日程の中で新常态(New Normal)と言われる経済発展の速度より質を重視する時代に入った中国がどの様に産業構造の高度化やサービス産業へのシフトを行おうとしているのか。又行政の効率化とサービスの向上を図ろうとしているのか。ASEAN各国とのビジネスが拡大している中国がどの様に変わろうとしているのかに焦点を当て、現地上海日本商工クラブ、深圳日本商工会、香港日本人商工会議所及びJETRO上海、JETRO香港の皆様のご協力を得て日程を組み現場の生の声を聴いて参りました。

最初に中国最大の商業都市上海に来て驚いたのは、上海タワー(632M,128階)の建設が進んでおり来年開業予定との事。又、地下鉄も沿線拡張が進み総距離600KM近くまで延び2020年には780KMになる様です。ディズニーランドも来年開園予定。社会インフラ建設と商業施設・観光施設建設への資金の流れは止まる事なく進んでいる様です。反面車の量も増えて交通渋滞が酷くなって大気汚染が気になる日も多くなっています。今回は上海自由貿易試験区を訪問しました。2013年9月に設立され14年9月で12,600社(含む外資1,784社)が進出済み、日系企業も80社。金融、ゲーム機の組み立て販売、医療、Eコマース等。李克強氏の肝入りでスタート、上海試験区で成功実績を作りそれを他省市に展開し拡大する為の試験プラットフォーム。現状は税金のメリットが無い、外資に対するネガティブリストがある、金融業への規制緩和が遅い等の問題があり利用範囲が限られて

おり本格的に活用している実例が少ない。但し中国企業の海外進出に取っては審査が簡単で融資が受け易く海外投資が進むと言うコメントがありました。人民元の国際化を睨み今後どの様に活用されて行くのか要注意です。試験区の管理委員会を訪問した際に出て来られたトップが上海国際仲裁中心の方で試験区のPRを一方的にするのでは無く、政府行政の企業管理理念を変化させ行政サービスの質の向上を目指しトラブルが起きた場合は外資の立場を公正公平にジャッジするので安心して進出して欲しい。又法令遵守を徹底すると言われたのには正直驚きました。誘致には積極的だが進出した後の行政サービスの悪さに泣かされて来た経験があるので正に隔世の感でした。今後中国の本気度を見ていく必要がありますね。

次に中国で最初に設立された深圳経済開発区のOA事務機製造メーカーを訪問しました。深圳の人口は1,300万人で殆どが他の省から来た流動人口。深圳日本商工会は470法人会員でサービス産業の会員が最近増えている。労働コストの高騰とサービス産業へのシフトが市全体で進む中、訪問した製造メーカーは日本から生産ラインを移転させ、人材育成に注力し合理化と効率化を推進して現にワーカーを減らして売り上げを伸ばしている。多品種少量生産に適応する為能力の高い幹部社員を育成し人事制度、福利厚生制度を充実させ離職率を下げる努力をされていました。深圳地区で部品の殆どを現地調達出来るほどサプライチェーンが集積している事とインフラが充実している事及び能力の高い人材を確保出来る事が他の国と比べると大きなアドバンテージがあり深圳にステイしている。一方単純な労働集約的な製造業はより人件費が安いベトナム等にシフトが進んでいる様で深圳でのChina plus One化の実態を理解する事が出来ました。

最後に香港で香港日本人商工会議所の会頭以下理事の皆様とJETRO香港との交流会に参加しました。香港とシンガポールの優れた点と課

題問をJETRO香港の小野村所長とJETROシンガポールの長谷部所長からブリーフィングして頂き、Q&A、意見交換を2時間かけて行いました。お互いに良きライバルでもあり熱い議論が交わされその後の懇親会も非常に盛り上がりました。香港は産業発展の歴史がシンガポールとは異なり製造業は殆ど大陸にシフトして、金融センターとしての機能と観光サービス産業、不動産建設業に特化した産業構造。香港日本人商工会議所は法人会員数659社、97年の787社がピークで2011年の585社がボトムでその後増加傾向にあります。中国のゲートウェイとして高度な物流機能と充実した社会インフラを持つ香港は中国の経済発展の恩恵を享受して来たが、今般の行政長官選挙に関する決定後 民主化運動が激化しオキュパイ セントラルを実行し抗議運動を行っている。徐々に観光業や小売業に悪影響が出始めており、長期化すると香港の経済に大きなダメージが懸念される。現場近くを歩いて見たが平和的で暴力行為は見られ無かったが、交通渋滞が酷くなっており周辺の商店や住民はデモ反対を訴えている。多くの香港人はビジネスライクに物を考えており民主化運動に理解は示すも、オキュパイ セントラルのやり方には反発している。対話を通して事態の收拾を早期に図れるか？本件は香港での一国二制度の建て付けが上手く行くのか？の踏み絵でも有り、又香港の持続的な発展を考えると解決方法が非常に重要と思われる。

最後になりますが、今回の視察団の派遣準備をして頂いたJCCI事務局の皆様と受け入れにご協力頂いた方々に深く御礼申し上げます。

【上海視察】

JETRO上海オフィス:

所長 三根 伸太郎様よりブリーフィング

三井住友銀行(中国)有限公司:

社長 龍田俊之様、上海自貿試験区出張所

副所長 小林廣太様よりご説明

上海国際経済貿易仲裁委員会:

黄文様より中国(上海)自由貿易試験区について
のご説明

上海は江蘇省・浙江省に隣接し、長江河口と杭州湾に南北を挟まれ、東シナ海に突き出す長江デルタの沖積平原上に位置する。江南の水郷地帯に属し、域内を大小の河川が縦横に交錯している。面積は6,341平方キロメートルであり、群馬県や宮崎県とほぼ同じ広さである。中国の直轄市(省と同格の一級行政区画)であり、戸籍人口は1,432万、常住人口は2,415万(いずれも2013年末時点)を超える、中国最大の都市である。中国の商業・金融・工業・交通などの中心地のひとつであり、2013年の地域総生産は2兆1602億元(約36兆5519億円)に達した。



(ジェットロ上海事務所でのブリーフィング)

名称として、今も「申」と称することがあり、また「滬」(魚を捕る道具の意)とも呼ばれる(車のナンバーにはこれらの呼称が現在も使われている)。

上海は1950年代から1960年代にかけては工業都市として発展。1978年の改革開放政策により、外国資本が流入して目覚ましい発展を遂げた。現在も、1992年以降本格的に開発された浦東新区が牽引役となって高度経済成長を続けている。また上海市指導部から江沢民、朱鎔基、呉邦国、曾慶紅、黄菊ら中国共産党の政治局常務委員などの指導部を輩出している。

本ミッションはジェットロ上海を訪問し、上海の現況などのブリーフィングを受けた。上海のGDPにおける産業構造としては第二次産業、第三次産業に比べて第一次産業の占める割合が極端に低く、都市型の産業構造となっている。1999年には第三次産業が第二次産業を上回り、それ以降ほぼ拮抗する形で推移してきたが、2007年辺りから差が大きく開き始めた。2013年の市内総生産は2兆1602億元(約36兆5519億円)であり、北京市を凌ぎ同国第1位である。東京都の都内総生産(約84.8兆円)やニューヨーク市の市内総生産(約51兆円)と比較すると劣るものの、シンガポールの国内総生産を既に抜いており、世界有数の経済都市へと成長している。2007年には成長率15.2%を記録し、10年連続で二桁成長を維持したが、世界金融危機の影響により2009年は8.2%と一桁成長にとどまった。2010年には一旦二桁成長に回復したものの、2009年以降、中国全体の成長率を下回る傾向が続いている。

日系企業の上海での投資は80年代半ばから活発化した。最初はホテルや商業ビル等の建設を中心としていたが、その後は豊富な低賃金労働力を利用した製造業が中心であった。ここ数年の新規進出企業についてはサービス産業のウェイトが圧倒的に高い。日本企業による投資は、契約件数では2003年の788件、契約金額では2012年の25.05億ドルが最大である。2012年は、契約件数が536件(対前年同期比16.9%減)と減少したものの、契約金額は25.1億ドル(同22.2%増)と大幅に増加した。2013年上海市の対日輸出額は、249.1億ドル(対前年比0.2%減)に増加し、

米国に次ぐ2位であった。現在上海市の日系企業数は8,000社を超え(2011年末時点)、上海日本商工クラブの会員数も2400を超えている。邦人居住者数は5万6,000人、長期滞在者を含めると10万人を超え、世界でもロサンゼルスに次いで2位を占めている。その一方で、上海日本商工クラブとの懇談会では、反日運動と大気汚染の影響で家族帯同者が減り、日本人学校の生徒が減っている事などが話された。

本ミッションは、2013年9月に設置された「中国(上海)自由貿易試験区」を訪問した。同試験区の設置は、中国経済が投資・輸出主導の成長構造から脱却する上で最重要の課題の一つとなる、サービス業の振興を図ることが目的とされる。試験区の規制緩和により、内外の多様な事業者を呼び込み、競争を喚起することで、中国サービス業の多様化と高付加価値化を図ることを狙いとし、特にサービス業6分野18業種に対する投資規制緩和措置が採られた。例えば銀行業では、中国の民間資本と外資系金融機関による合弁銀行の設立や、中国資本の金融機関によるオフショア業務、ノンバンク金融企業の設立やクロスボーダー投融资サービスの展開が奨励されるなど、国内外からの注目を集めた。試験区設置当初に上海日本商工クラブが行ったアンケート結果では、8割近い日系企業が、高い関心や期待を示しており、また、米国、欧州の企業もその多くがポジティブな評価を下していた。

しかし、設置後一年を経た現在、当初の期待とは裏腹に、運用面で実際のメリットを見出せないという失望の声が上がっているようだ。例えば、日系企業の関心の高い貿易分野において、通関手続きの簡素化などの進展はあるものの、それ以外に進出するメリットを感じられない、といった声が上がっている。当初国家政策で推進された同試験区も、今では上海市の責任が大きくなるとともに、上海市運営側のプレッシャーがますます強まり、施策も慎重なものとなってしまっている。試験区内で視察を受け入れて頂いた三井住友銀行・上海自貿試験区出張所では、「試験区の管理委員会自体も、進出企業数を増やすための具体的な策を講じることが出来ていないのではないか」との意見が聞かれた。視察団が面談した上海経済貿易仲裁委員会の黄氏からも、「中国は改革開放の歴史は浅く経験も少ないため、慎重にならざるを得ない」「試験区だからこそ投資が許される分野において、外資の進出は少しずつ進んでおり、進展がないわけではない」と、理解を求める発言があった。今後進出に向けて様子を見たいという企業も多く、試験区の改革の行方は、日系企業の動きと共に注視すべきである。



(中国(上海)自由貿易試験区 三井住友銀行

上海自貿試験区出張所にて)

【香港・深セン視察】

Canon Finetech NISCA(Shenzhen)Inc:
小黒貴信様よりご説明、見学案内

香港日本人商工会議所:

- ・JETRO香港所長 小野村拓志様よりブリーフィング
- ・JETROシンガポール所長 長谷部 雅也様よりブリーフィング
- ・香港日本人商工会議所メンバーと交流会

「香港」は、以前、香木や芳香剤などの交換が行われていた、現在の香港島、香港仔周辺の地域に由来している。香港島や260の島、半島は南シナ海に位置しており、珠江デルタの河口にあり、主に3つの地域(香港島、九龍、新界)から構成される。面積は1,104平方キロメートルで東京都の約半分。人口は約722万人で、在留邦人数は23,000人以上に上り、アジアにおいて上海、バンコク、シンガポールに次いで4位となっている。また、香港日本人商工会議所との交流会では、香港に家族を住ませ、Weekdayは深センへ単身赴任をしている日本人が増えているとの話も聞かれた。

言語としては広東語が一般的ながら普通話も普及し、英国領であった歴史から英語も利用される。英国時代の英国文化及び中国文化の混合は、現在の香港の文化を形成することとなった。1997年7月1日に、香港特別行政区として英国から中国へ返還され、香港基本法に基づき2047年までの50年間は「一国二制度」が維持されることとなった。

香港は世界でも重要な貿易・物流センター、国際金融センター、そして中国ビジネス・アジアビジネスにおける重要拠点と位置づけられており、通貨の香港ドルは世界有数の取引高を誇っている。香港日本人商工会議所との交流会では、ジェトロ香港の小野村所長から、香港の概況に関し詳しい説明を受けた。実質GDPは2607億米ドル(2013年)に達しているものの、欧米の経済不振

の影響を受け、現在は成長率が若干減速(2014年第一四半期2.6%→同年第二四半期1.8%)している。

香港の産業構造を見ると、不動産・建設、観光関連、金融、行政サービスに特化しており、これらで75%を占めている。不動産に関しては、欧州債務危機後の中国本土マネーの影響を受け、不動産価格が急上昇しており、土地バブルの様相を呈している。今回の視察で訪問した香港日本人商工会議所があるコーズウェイベイは、ニューヨークの5番街を抜き、繁華街の店舗賃料比較で世界トップの年間2,630米ドル(前年比34.9%増)に達したとのことである。なお、アジア太平洋地域では香港の繁華街が同ランキングの上位3位までを独占している。

日本との関係では、香港から日本への旅行客数において、2011年以降年々増加しており、また日本から香港への旅行客数も伸びている。貿易面では、日本への輸出は全体で3位、日本からの輸入については第2位となっているが、なかでも日本から香港への農林水産物の輸出実績は伸びており、2007年以降7年連続で最大の輸出先となっている。この中には、乾燥ナマコや真珠など、高級水産物が多く含まれるとのことであった。



(香港日本人商工会議所との交流会)

香港とシンガポールの比較をテーマに、ジェトロ・シンガポールの長谷部所長からも、シンガポールの現況について香港側へレクチャーがなされた。意見交換の際には、「同じように地域拠点、金融拠点などの役割を持つシンガポールと香港だが、政府主導で現在の地位を獲得したシンガポールと、割譲以来の歴史から現在の姿となった香港では、その成立過程にも違いがある」などの意見が出た。



(佐々木会頭と下山・香港日本人商工会議所会頭)

「一国二制度」の下、高度な自治が認められている香港では、次回2017年香港特別行政区行政庁間選挙から1人1票の「普通選挙」が導入される予定であったが、中国の全国人民代表大会(全人代、国会)常務委員会が2014年8月31日、行政長官候補は指名委員会の過半数の支持が必要であり、候補は2～3人に限定すると決定したのに対し、香港の民主化団体が9月27日以降抗議デモ活動を開始した。このデモ活動は雨傘革命、オキュパイ・セントラルなどと呼ばれている。ミッション団が滞在したホテルは占拠エリアに近く、その様子をじかに見ることが出来たが、非常に落ち着いた雰囲気であり、危険な印象は受けなかった。「真の普通選挙を求める」という張り紙が多数貼り付けられ、雨の降る深夜でもテント内に学生の姿を認めることが出来た。



(デモ占拠エリアの張り紙)

ミッション団は香港から深センにも渡り、キヤノンファインテック社に視察お受け入れを頂いた。工場の見学を行った他、当地における取り組みや現況などを解説される中で、深セン全体として離職率が高い中、人材の確保を図る取り組みが功を奏していること、アセアンの各拠点と比べても中国の人材レベル・技術レベルは高く、現地調達率の高さからも中国拠点のメリットは依然として大きいものと評価していることなどが説明された。さらに、深センの生活レベルも徐々に高まり、人事制度や福利厚生などを重視して求職する人材が増えていることがわかった。実際、工場内の数々の施設や売店などが揃い、また、多くの従業員が敷地内の寮で生活するなど、従業員に深い配慮がなされた労働環境が整えられていた。



(キヤノンファインテック社)

短期間ながら、自由貿易特区で注目を集める上海、デモに揺れながらも依然として重要な経済拠点である香港、そして日系製造拠点の集積する深センを視察することができ、中国経済の現状の一端を垣間見ることが出来た。中国の世界経済に及ぼす影響力はますます大きくなっており、アセアン統括拠点が集まるシンガポールでも、中国の動向へ今後も注目し続けたい。

JCCI 11-12月イベント写真

11月15日 第3工業部会「懇親ゴルフ」



11月25日 運輸通信部会主催 シンガポールにおける航空関連産業
～アジアのワンストップサービス拠点に向けて～



12月3日 金融保険部会講演会 最近のシンガポール経済と
シンガポール経済を取り巻く環境



12月15日 観光・流通・サービス部会 「自社PRプレゼン大会及び忘年会(昼食懇談会)」



1.Tree Islands Singapore Pte Ltd



2.Leggenda Pte Ltd



3.COACH A (Singapore) Pte Ltd



4.TEXSEAR Pte Ltd



5.Crossborder Research Ptd Ltd



6.Cuny's Global Pte Ltd

12月15日 金融保険部会 忘年会





シンガポール日本商工会議所 第26回会員懇親ゴルフ大会(2014年)



2014年11月30日、Tanah Merah Country ClubのTampines Course「JCCI 第26回会員懇親ゴルフ大会(2014年)」を開催いたしました。本大会は今回で26年の歴史を有する伝統ある大会であり、2014年もサンヤード・ペトロクラフトの宮田慶幸様に競技委員としてご協力いただきました。

2013年よりトーナメント方式に一日で対戦する対抗戦方式に変更され、今回は47名(2名1組、計23チームと1名)の参加者にお集まりいただき、競技はステーブルフォード方式によるチームの合計得点で争われました。

前週からほぼ毎日雨が降っていた為、天候も危ぶまれましたが、幸い当日はお天気にも恵まれ、格好のゴルフ日和となりました。

栄えある優勝者は小西様・磯部様のキャノンチームとなり、2位にはPETRO-DIAMOND SINGAPORE (PTE) LTD 櫻井様&玉井様、また3位にはKOSHO SINGAPORE PTE. LTD. 萩野様&VLK TRADERS (S) PTE. LTD. 近藤様が入賞されました。

ラウンド後の表彰・懇親会の場にて、佐々木淳一会頭より優勝トロフィーが授与されました。懇親会は参加者皆様の笑顔こぼれる大盛況の場となり、部会の垣根を越え、会員相互の親睦を深める良い機会となりました。

2015年もぜひ会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。



優勝 小西理事、磯部様と佐々木会頭



準優勝 櫻井様、玉井様と佐々木会頭



3位 近藤様、萩野様と佐々木会頭

JCCI SINGAPORE FOUNDATION LIMITED

10 Shenton Way, #12-04/05 MAS Building, Singapore 079117

(Co. Reg. No.: 199002444H)

各位

シンガポール日本商工会議所

副会頭・基金募金委員長

稲垣幸一郎

シンガポール日本商工会議所基金「2014年度募金」へのご協力御礼

拝啓 2015年の新しい年が明け、会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は当会議所の事業活動に多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、この度は、昨年8月から12月にかけて実施致しました標記基金への募金活動におきまして、厳しい経済情勢並びに経費多端の折りにもかかわらず、格別のご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。お陰様をもちまして、今年度は計302会員から39万8,838S \$の貴重な浄財を頂戴致しました。これもひとえに、会員企業各位によるシンガポール社会へ貢献しようとする想いの賜物と、心より感謝申し上げます。

頂戴致しました募金につきましては、基金の各委員会において慎重に検討のうえ、相応しいと判断した11の団体と2人の留学生への寄付・奨学金授与を決定し、去る12月17日(水)にそれぞれ贈呈致しました。

末筆ながら、皆様の温かいご協力に対し心よりお礼申し上げますとともに、本基金活動を今後もよりわかりやすい制度とするために、皆様の助言やアドバイスを頂戴したく、また、引き続き変わらぬご理解、ご支持を賜りますよう併せてお願い申し上げます。

敬具

寄付・奨学金贈呈式（2014年12月17日）

会場：マックスウェル・チャンバーズ

～プログラム～

- | | |
|--------|---|
| 2:00pm | オープニングパフォーマンス ～ NUS ギターアンサンブル |
| 2:10pm | 開会挨拶 JCCI 会頭 佐々木 淳一 来賓挨拶 駐シンガポール日本大使館公使 堤 尚広様 |
| 2:25pm | 寄付贈呈 ～受賞団体スピーチ |
| 3:00pm | 奨学金贈呈 ◇ 早稲田大学留学生 2015/16 ◇ 立命館アジア太平洋大学留学生 2015/16 ～留学生スピーチ |
| 3:15pm | 懇親会 |
| 4:00pm | 終了 |

寄付・奨学金贈呈式 (2014年12月17日)

会場：マックスウェル・チャンバーズ



JUGAS



The Esplanade



Be Movement



SSO



SDSC



Philharmonic Winds



NUS CFA



Luna Films



NUS LKY School



SKC



APU Scholar



Waseda Scholar





贈呈式～寄付先の紹介

1. Japanese University Graduates Association of Singapore (JUGAS)

シンガポール留日大学卒業生協会は 1970 年に設立。日本で高等教育を受けたことがあるシンガポール人のための同窓会組織である。

寄付活動： JUGAS 教育基金

留学、文化交流を通じ、日本とシンガポールの交流を深めることを目的としたプログラム



2. The Esplanade

2002 年 10 月 16 日にオープンした、シンガポールにある総合芸術文化施設。オペラ、バレエ、ミュージカル、演劇、管弦楽、室内楽、伝統音楽などの各種公演が開催されている。

寄付活動： 「海辺のカフカ」

村上春樹の著作を蜷川幸雄の指揮の下、日本人アーティストを招いて舞台化。



3. National University of Singapore (NUS), Department of Japanese Studies

シンガポール国立大学の人文社会学部に属する日本研究学科は 1981 年創立。多くの学生に日本に関する様々な分野の知識を広めている。

寄付活動： フィールドスタディ「エコ・ツーリズム; 日本の取り組み」



4. Be Movement Pte Ltd

シンガポールの広告の無いマガジン、年 3 回発行。毎号特定の国にフォーカスを当て、その国の文化や経済に関わる個人・企業・団体の活動などを紹介する。

寄付活動： シンガポール独立 50 周年特集



5. Singapore Symphony Orchestra

シンガポール交響楽団は 1979 年に創設されたシンガポールのオーケストラ。現在の音楽監督はラン・シュイ。団員のほとんどがシンガポール出身である。

寄付活動： 五嶋 みどり、日本の有名なヴァイオリニストを招いてのコンサート



6. Singapore Disability Sports Council (SDSC)

1973年創立。障害者へのスポーツプログラムを通じて、リハビリを促進し、社会とのつながりを持つことを目的とした団体。

寄付活動： 16歳～40歳の障害者へのスポーツへの参加を通じた教育プログラム。アセアン障害者スポーツ大会への選手を育てる。



7. The Philharmonic Winds

2000年に創立された、ノンプロによる吹奏楽の活動をシンガポールへ広めるための団体。日本の音楽家とのコラボレーションも多数。

寄付活動： 2015年「フルートとサクソフェスティバル」及び「トロンボーンとローブラスフェスティバル」



8. Luna Films

アートやエンターテインメントとしての日本映画をシンガポールに広めることを目的とした団体。

寄付活動： 2015年シンガポールにての日本映画祭



9. National University of Singapore (NUS), Centre For The Arts (CFA)

シンガポール国立大学内にある CFA は、芸術や高等教育、知識を構築し、育てるという目標の下に活動する団体。シンガポールや海外の芸術者・団体とのパートナーシップを通じ、NUS コミュニティ内での学習と芸術の鑑賞力、研究を推進している。

寄付活動： 2015年 NUS 芸術祭



10. National University of Singapore (NUS), Lee Kuan Yew School of Public Policy

リー・クワン・ユー公共政策大学院は 2004 年創立され、東南アジア、中国、インドを中心に約 400 名学生が経済政策、国際関係などについて学んでいる。

寄付活動： ジャパントリップ実行委員会の企画で、アベノミクスと震災復興をテーマとして、世界から注目される日本の政策考察を通じ、日本の先駆的取り組みについて学習するスタディーツアー



11. Singapore Kendo Club

1972年創設、シンガポール・スポーツ・カウンシル傘下の剣道団体。

寄付活動：「第16回世界剣道選手権大会」



贈呈式～留学生の紹介

留学生名: Ms Ng Sue Ann, Joanna(ジョアンナ)

大学・専攻: National University of Singapore (NUS) / Global Studies

留学する早稲田大学

国際教養学部(日本概論コース)

派遣時期: 2015年9月～2016年7月



“Upon graduation, I want to work in the civil service like Ministry of Foreign Affairs and facilitate relations between Singapore and Japanese companies who want to do businesses in Singapore. If there is a chance, I would like to work in a Japanese company to help to introduce Japan's rich culture of food production and the concept of "safe food" to Singaporeans who are increasingly environmentally conscious. Once again, I would like to thank JCCI Singapore Foundation and its members for this scholarship.” ～ ジョアンナ

留学生名: Mr Alvan Tay Wei De(アルヴァン)

大学・専攻: Singapore Management University (SMU) / Accountancy

留学する立命館アジア太平洋大学 (APU)

アジア太平洋学部 (APS) または

国際経営学部 (APM)

派遣時期: 2015年9月～2016年7月



“Upon graduation, I hope to work with a finance or accounting-related firm in Japan so that I can contribute to Japan's economy by putting all that I have learnt in university to use. Alternatively, I would love to contribute to Japan's education system by being an English teacher there. This is because I firmly believe that education is very important in building a progressive society for future generations.” ～ アルヴァン

JCCI SINGAPORE FOUNDATION

2014年度募金状況 (12月23日現在)

(会社名アルファベット順)

第1工業部会

(SIN DOLLARS)

| | |
|---|------|
| AISIN ASIA PTE LTD | 1000 |
| ASIA PROJECTS ENGINEERING PTE LTD | 1000 |
| CHIYODA SINGAPORE (PTE) LTD | 1000 |
| DAIFUKU MECHATRONICS (S) PTE LTD | 1000 |
| DAIHATSU DIESEL (ASIA PACIFIC) PTE LTD | 2000 |
| DENSO INTERNATIONAL ASIA PTE LTD | 2500 |
| EBARA ENGINEERING SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| HITACHI CONSTRUCTION MACHINERY ASIA AND PACIFIC PTE LTD | 2500 |
| HITACHI ZOSEN CORPORATION (SINGAPORE BRANCH) | 2500 |
| ISUZU MOTORS ASIA LIMITED | 2500 |
| JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC. | 1000 |
| JAPAN MARINE UNITED SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| JFE STEEL ASIA PTE. LTD | 3000 |
| JUKI SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| KAWASAKI HEAVY INDUSTRIES (SINGAPORE) PTE LTD | 2500 |
| KEMEL ASIA PACIFIC PTE. LTD. | 500 |
| KS DISTRIBUTION PTE. LTD | 200 |
| KUBOTA CORPORATION, SINGAPORE BRANCH | 500 |
| MAKITA SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| NIKON SINGAPORE PTE LTD | 2500 |
| NISSHIN STEEL ASIA PTE. LTD | 1000 |
| OKAMOTO (SINGAPORE) PTE LTD | 1000 |
| PORITE SINGAPORE PTE LTD | 250 |
| SEIKO INSTRUMENTS SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| SHIMADZU (ASIA PACIFIC) PTE LTD | 2500 |
| SHIMANO SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| SINGAPORE TAKADA INDUSTRIES PTE LTD | 2500 |
| SMC MANUFACTURING (SINGAPORE) PTE LTD | 250 |
| TADANO ASIA PTE LTD | 1000 |
| TORISHIMA PUMP MFG CO LTD SINGAPORE BRANCH | 1000 |
| TOYOTA MOTOR ASIA PACIFIC PTE LTD | 5000 |
| YAMAHA MOTOR ASIA PTE LTD | 2500 |
| YANMAR ASIA (SINGAPORE) CORPORATION PTE LTD | 2500 |

第2工業部会

| | |
|---------------------------|------|
| ALTECO CHEMICAL PTE LTD | 500 |
| AZBIL SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| BANDO (SINGAPORE) PTE LTD | 1000 |
| DAICEL (ASIA) PTE. LTD. | 1000 |
| DENKA SINGAPORE PTE LTD | 1000 |

1/8

| | |
|---|------|
| DIC ASIA PACIFIC PTE LTD | 2500 |
| ENPLAS HI-TECH (SINGAPORE) PTE LTD | 1000 |
| FUJI OIL (SINGAPORE) PTE LTD | 1000 |
| FUJIFILM ASIA PACIFIC PTE. LTD. | 2500 |
| JAPAN TOBACCO INTERNATIONAL (SINGAPORE) PTE LTD | 1000 |
| KAO SINGAPORE PRIVATE LIMITED | 1000 |
| KURARAY ASIA PACIFIC PTE LTD | 1000 |
| MEIJI SEIKA (S) PTE LTD | 2500 |
| MITSUBOSHI OVERSEAS HEADQUATERS PRIVATE LIMITED | 2500 |
| NATIONAL OXYGEN PTE LTD | 1000 |
| NICHIAS SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| NIKKO CHEMICALS (SINGAPORE) PTE LTD | 1000 |
| NIPPON SHOKUBAI (ASIA) PTE LTD | 1000 |
| NISSIN FOODS (ASIA) PTE. LTD. | 2500 |
| OKAMURA INTERNATIONAL (S) PTE LTD | 250 |
| OSAKA GAS SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| SHOWA DENKO SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| SINGAPORE OXYGEN AIR LIQUIDE PTE LTD | 200 |
| TAIHEIYO SINGAPORE PTE LTD | 500 |
| TECHNO STAFF PTE LTD | 500 |
| TEIJIN POLYCARBONATE SPORE PTE LTD | 2500 |
| TERUMO ASIA HOLDINGS PTE. LTD. | 2500 |
| THREEBOND SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| TOPPAN PRINTING CO., LTD SINGAPORE BRANCH | 2500 |
| TORAY INTERNATIONAL SINGAPORE PTE LTD | 2500 |
| TOSOH ASIA PTE. LTD. | 1000 |
| UBE SINGAPORE PTE LTD | 2500 |
| YAKULT (SINGAPORE) PTE LTD | 2500 |

第3工業部会

| | |
|--|------|
| BROTHER INTERNATIONAL SINGAPORE PTE. LTD. | 1000 |
| CANON SINGAPORE PTE. LTD. | 3000 |
| CASIO SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| FUJIKURA ASIA LIMITED | 2500 |
| FUTABA DENSHI CORP. (S) PTE LTD | 500 |
| GLORY GLOBAL SOLUTIONS (SINGAPORE) PTE LTD | 1000 |
| IBIDEN ASIA HOLDINGS PTE. LTD. | 1000 |
| KOA DENKO (S) PTE LTD | 1000 |
| MABUCHI MOTOR (SINGAPORE) PTE LTD | 1000 |
| MEIDEN SINGAPORE PTE LTD | 2500 |
| MEKTEC CORPORATION (SINGAPORE) PTE LTD | 1000 |
| MITSUBISHI ELECTRIC ASIA PTE LTD | 3000 |
| MURATA ELECTRONICS SINGAPORE (PTE) LTD | 2500 |
| NITTO DENKO (SINGAPORE) PTE LTD | 1000 |
| OLYMPUS SINGAPORE PTE LTD | 2500 |
| ORIENTAL MOTOR ASIA PACIFIC PTE LTD | 1000 |
| PENNANT SINGAPORE PTE LTD | 250 |
| PIONEER ELECTRONICS ASIACENTRE PTE LTD | 2500 |
| RICOH ASIA PACIFIC PTE LTD | 2500 |

| | |
|--|------|
| ROHM SEMICONDUCTOR SINGAPORE PTE. LTD. | 1000 |
| SINGAPORE CHEMI-CON PTE LTD | 500 |
| SINGAPORE DAI-ICHI PTE LTD | 1000 |
| TANAKA ELECTRONICS SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| TDK SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| YASKAWA ELECTRIC (SINGAPORE) PTE LTD | 2500 |

貿易部会

| | |
|--|------|
| AGC ASIA PACIFIC PTE. LTD | 2500 |
| ITOCHU SINGAPORE PTE LTD | 2500 |
| IWATANI CORPORATION Singapore Branch | 2500 |
| KANEMATSU (SINGAPORE) PTE. LTD. | 2500 |
| KONICA MINOLTA BUSINESS SOLUTIONS ASIA PTE LTD | 2500 |
| MARUBENI ASEAN PTE LTD | 3000 |
| MITSUBISHI CORPORATION | 3000 |
| MITSUI & CO. (ASIA PACIFIC) PTE LTD | 3000 |
| NAGASE SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| OHGITANI (S) PTE LTD | 1000 |
| OKAYA SINGAPORE PTE LTD | 200 |
| SOJITZ ASIA PTE LTD | 2500 |
| SUMITOMO CORPORATION ASIA & OCEANIA PTE LTD | 3000 |
| TOYOTA TSUSHO ASIA PACIFIC PTE LTD | 2500 |
| YGP PTE. LTD. | 250 |

金融・保険部会

| | |
|---|------|
| AON SINGAPORE PTE LTD | 100 |
| AOZORA BANK, LTD SINGAPORE REPRESENTATIVE OFFICE | 1000 |
| CENTURY TOKYO LEASING (SINGAPORE) PTE LTD | 2500 |
| DAIWA ASSET MANAGEMENT (SINGAPORE) LTD. | 500 |
| DAIWA CAPITAL MARKETS SINGAPORE LIMITED | 2500 |
| MITSUBISHI UFJ LEASE (S) PTE LTD | 500 |
| MITSUBISHI UFJ TRUST AND BANKING CORPORATION | 2500 |
| MIZUHO BANK LTD. | 3000 |
| MSIG INSURANCE (SINGAPORE) PTE LTD | 2500 |
| SUMITOMO MITSUI BANKING CORPORATION | 3000 |
| SUMITOMO MITSUI FINANCE AND LEASING (SINGAPORE) PTE. LTD. | 500 |
| SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LTD | 2500 |
| TENET SOMPO INSURANCE PTE LTD | 2500 |
| THE BANK OF TOKYO-MITSUBISHI UFJ, LTD (SINGAPORE BRANCH) | 3000 |
| THE HOKURIKU BANK LTD Singapore Representative Office | 250 |
| THE NORINCHUKIN BANK Singapore Branch | 2500 |
| THE TOA REINSURANCE COMPANY LIMITED(SINGAPORE BRANCH) | 500 |

建設部会

| | |
|---------------------------------|------|
| HIROSE (SINGAPORE) PTE LTD | 1000 |
| JDC CORPORATION | 1000 |
| KAJIMA OVERSEAS ASIA PTE LTD | 2500 |
| KISO-JIBAN CONSULTANTS CO., LTD | 500 |
| KURIHARA KOGYO CO LTD | 1000 |

| | |
|--|------|
| MITSUBISHI JISHO SEKKEI INC. SINGAPORE REPRESENTATIVE OFFICE | 500 |
| NAKANO SINGAPORE (PTE) LTD | 2500 |
| NISHIMATSU CONSTRUCTION CO., LTD. | 2500 |
| OBAYASHI SINGAPORE PRIVATE LIMITED | 2500 |
| PENTA-OCEAN CONSTRUCTION CO LTD | 2500 |
| SATO KOGYO CO LTD | 2500 |
| SHIMIZU CORPORATION | 2500 |
| TAISEI CORPORATION | 2500 |
| TAKENAKA CORPORATION | 2500 |

運輸・通信部会

| | |
|---|------|
| DAIHO PROJECT SERVICES PTE LTD | 1000 |
| KDDI SINGAPORE PTE LTD | 2500 |
| KOYO KAIUN ASIA PTE LTD | 500 |
| KUMIAI NAVIGATION (PTE) LTD | 500 |
| KWE-KINTETSU WORLD EXPRESS (S) PTE LTD | 1000 |
| MITSUI-SOKO (SINGAPORE) PTE LTD | 2500 |
| NIPPON CARGO AIRLINES CO LTD | 500 |
| NIPPON EXPRESS (SINGAPORE) PTE. LTD | 2500 |
| NIPPON KAIJI KENTEI KYOKAI Singapore Office | 500 |
| NIPPON KAIJI KYOKAI SINGAPORE PTE. LTD. | 1000 |
| NYK GROUP SOUTH ASIA PTE LTD | 3000 |
| OXALIS SHIPPING CO PTE LTD | 500 |
| SANKYU (SINGAPORE) PTE LTD | 2500 |
| SCHENKER SINGAPORE PTE LTD | 50 |
| SG HOLDINGS GLOBAL PTE LTD | 1000 |
| SHINNIHON KENTEI (S) PTE LTD | 500 |
| SUMITOMO WAREHOUSE (SINGAPORE) PTE LTD | 1000 |
| TOYOFUJI SHIPPING SINGAPORE PTE. LTD. | 500 |
| TRI-NET LOGISTICS (ASIA) PTE LTD | 1000 |
| YONG SHENG SHIPPING PTE LTD | 500 |
| YUSEN LOGISTICS (SINGAPORE) PTE LTD. | 1000 |

観光・流通・サービス部会

| | |
|--|------|
| AJINOMOTO (SINGAPORE) PTE LTD | 2500 |
| ALL NIPPON AIRWAYS CO LTD | 2500 |
| BUKIT BATOK DRIVING CENTRE PTE. LTD. | 100 |
| CUNY'S GLOBAL PTE LTD | 100 |
| DENTSU SINGAPORE PTE LTD | 1000 |
| ISI-DENTSU SOUTH EAST ASIA PTE LTD | 500 |
| JAPAN AIRLINES CO LTD | 2500 |
| JAPAN GREEN HOSPITAL (PTE) LTD | 1000 |
| JAPANESE KINDERGARTEN (S) PTE LTD | 500 |
| JIJI PRESS LTD | 500 |
| JTB PTE LTD | 2500 |
| KIRIN HOLDINGS SINGAPORE PTE. LTD. | 2500 |
| MIKIMOTO JEWELLERY (SINGAPORE) PTE LTD | 250 |
| MITSUBISHI ESTATE AISA PTE LTD | 1000 |
| MITSUI FUDOSAN (ASIA) PTE LTD | 2500 |

| | |
|---|------|
| NAGASHIMA OHNO & TSUNEMATSU SINGAPORE LLP | 500 |
| NIKKEI GROUP ASIA PTE LTD | 1000 |
| NISHIMURA & ASAHI (SINGAPORE) LLP | 500 |
| NNA SINGAPORE PTE LTD | 500 |
| NTA TRAVEL (SINGAPORE) PTE LTD | 2000 |
| NTT URBAN DEVELOPMENT CORPORATION Singapore Representative Office | 2500 |
| PAN PACIFIC SINGAPORE | 100 |
| RE & S ENTERPRISES PTE LTD | 1000 |
| SALESBRIDGE HR PTE LTD | 888 |
| SBG HOLDINGS PTE LTD | 500 |
| SHOGAKUKAN ASIA PTE LTD | 1000 |
| SUPERMEDIA | 50 |
| TAKASHIMAYA SINGAPORE LTD | 1000 |
| WASEDA SHIBUYA SENIOR HIGH SCHOOL IN SINGAPORE PTE LTD | 500 |
| YAMATO TRANSPORT (S) PTE. LTD. | 1000 |
| YUSEN TRAVEL (SINGAPORE) PTE LTD | 500 |
| <u>GROUP COMPANIES</u> | |
| ASAHI KASEI GROUP | 4500 |
| ASAHI KASEI PLASTICS SINGAPORE PTE LTD | |
| ASAHI KASEI BIOPROCESS SINGAPORE PTE LTD | |
| ASAHI KASEI SYNTHETIC RUBBER SINGAPORE PTE. LTD. | |
| DAI NIPPON PRINTING GROUP COMPANIES | 2500 |
| TIEN WAH PRESS PTE LTD (DAI NIPPON PRINTING CO LTD) | |
| DNP ASIA PACIFIC PTE. LTD. | |
| EPSON GROUP | 2500 |
| EPSON SINGAPORE PTE LTD | |
| SINGAPORE EPSON INDUSTRIAL PTE LTD | |
| FUJI XEROX GROUP | 4000 |
| FUJI XEROX ASIA PACIFIC PTE LTD | |
| FUJI XEROX SINGAPORE PTE LTD | |
| FUJITSU GROUP COMPANIES | 5000 |
| FUJITSU ASIA PTE LTD | |
| FUJITSU TEN (SINGAPORE) PTE LTD | |
| FDK SINGAPORE PTE LTD | |
| FUJITSU KANSAI SOLUTIONS ASIA PTE LTD | |
| FUJITSU GENERAL (ASIA) PTE LTD | |
| PFU TECHNOLOGY SINGAPORE PTE LTD | |
| HAKUHODO DY GROUP COMPANIES | 2000 |
| HAKUHODO DY HOLDINGS INC. (SINGAPORE REPRESENTATIVE OFFICE) | |
| HAKUHODO SINGAPORE PTE LTD | |
| DAC ASIA PTE LTD | |
| HAKUHODO CONSULTING ASIA PACIFIC PTE LTD | |

| | |
|---|-------|
| HITACHI GROUP OF COMPANIES | 12500 |
| HITACHI ASIA LTD | |
| HITACHI AUTOMOTIVE SYSTEMS SINGAPORE PTE LTD | |
| HITACHI CAPITAL SINGAPORE PTE. LTD. | |
| HITACHI CHEMICAL (S) PTE LTD | |
| HITACHI ELEVATOR ASIA PTE LTD | |
| HITACHI INFRASTRUCTURE SYSTEMS (ASIA) PTE LTD | |
| HITACHI TRANSPORT SYSTEM (ASIA) PTE LTD | |
| IDEMITSU GROUP COMPANIES | 2500 |
| IDEMITSU INTERNATIONAL (ASIA) PTE LTD | |
| IDEMITSU CHEMICALS SOUTHEAST ASIA PTE LTD | |
| IDEMITSU LUBE ASIA PACIFIC PTE LTD | |
| IDEMITSU LUBE (SINGAPORE) PTE LTD | |
| IDEMITSU TANKER CO LTD SINGAPORE BRANCH | |
| IHI GROUP COMPANIES | 5000 |
| IHI ASIA PACIFIC PTE. LTD. | |
| JURONG ENGINEERING LTD | |
| NIIGATA POWER SYSTEMS (SINGAPORE) PTE LTD | |
| KIKKOMAN GROUP OF COMPANIES | 2500 |
| KIKKOMAN (S) PTE LTD | |
| KIKKOMAN TRADING ASIA PTE LTD | |
| KIKKOMAN MARKETING & PLANING PTE LTD | |
| KIKKOMAN R&D LABORATORY PTE LTD | |
| KOBE STEEL GROUP | 2500 |
| KOBE STEEL ASIA PTE LTD | |
| KOBELCO WELDING ASIA PACIFIC PTE. LTD. | |
| SINGAPORE KOBE PTE LTD | |
| KOBELCO MACHINERY ASIA PTE LTD | |
| KOBELCO INTERNATIONAL(S) CO PTE LTD | |
| KYOCERA GROUP OF COMPANIES | 3500 |
| KYOCERA ASIA PACIFIC PTE LTD | |
| KYOCERA CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD | |
| KYOCERA DOCUMENT SOLUTIONS SINGAPORE PTE LTD | |
| MITSUBISHI CHEMICAL HOLDINGS GROUP | 4600 |
| MITSUBISHI CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD | |
| MITSUBISHI PLASTICS ASIA PACIFIC PTE LTD | |
| MCC PTA ASIA PACIFIC PTE LTD | |
| MITSUBISHI CHEMICAL INFONICS PTE LTD | |
| ADVANCED PLASTICS COMPOUNDS SINGAPORE PTE LTD | |
| MCL LOGISTICS ASIA PTE LTD | |
| MRC RENSUI ASIA PTE LTD | |

| | |
|---|------|
| MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES GROUP | 2500 |
| MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES ASIA PACIFIC PTE LTD | |
| MITSUI CHEMICALS GROUP | 4000 |
| MITSUI CHEMICALS ASIA PACIFIC, LTD. | |
| MITSUI PHENOLS SINGAPORE PTE. LTD. | |
| MITSUI ELASTOMERS SINGAPORE PTE LTD | |
| MITSUI CHEMICALS SINGAPORE R&D CENTRE, PTE. LTD. | |
| MOL GROUP COMPANIES (MITSUI O.S.K. LINES. LTD) | 4500 |
| MOL TANKSHIP MANAGEMENT ASIA PTE LTD | |
| M.O. TOURIST (SINGAPORE) PTE LTD | |
| TOKYO MARINE ASIA PTE LTD | |
| MITSUI O.S.K. BULK SHIPPING (ASIA OCEANIA) PTE. LTD | |
| PHOENIX TANKERS PTE. LTD. | |
| NEC GROUP COMPANIES | 4000 |
| NEC ASIA PACIFIC PTE LTD | |
| NEC TOKIN SINGAPORE PTE LTD | |
| NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL GROUP COMPANIES | 6000 |
| NIPPON STEEL & SUMITOMO METAL SOUTHEAST ASIA PTE LTD. | |
| NIPPON STEEL & SUMIKIN BUSSAN (SINGAPORE) PTE. LTD. | |
| NS SOLUTIONS ASIA PACIFIC PTE. LTD. | |
| NISSHINBO GROUP COMPANIES | 2500 |
| NISSHINBO SINGAPORE PTE. LTD. | |
| NJR (SINGAPORE) PTE LTD | |
| ALPHATRON MARINE SYSTEMS PTE LTD | |
| NTT GROUP COMPANIES | 3000 |
| NTT SINGAPORE PTE LTD | |
| NTT FACILITIES INC. Singapore Branch | |
| NTT DATA ASIA PACIFIC PTE. LTD. | |
| OMRON GROUP COMPANIES | 2500 |
| OMRON ASIA PACIFIC PTE LTD | |
| OMRON ELECTRONICS PTE LTD | |
| OMRON ELECTRONICS COMPONENTS PTE LTD | |
| OMRON HEALTHCARE SINGAPORE PTE LTD | |
| PANASONIC GROUP COMPANIES | 5000 |
| PANASONIC ASIA PACIFIC PTE LTD | |
| PANASONIC APPLIANCES REFRIGERTATION DEVICES | |
| PANASONIC AVC NETWORKS SINGAPORE | |
| PANASONIC INDUSTRIAL DEVICES SINGAPORE | |
| PANASONIC INDUSTRIAL DEVICES SEMICONDUCTOR ASIA | |
| PANASONIC FACTORY SOLUTIONS ASIA PACIFIC | |
| PANASONIC R&D SINGAPORE | |

| | |
|---|----------------|
| TOKIO MARINE GROUP | 5000 |
| TOKIO MARINE INSURANCE SINGAPORE LTD | |
| TOKIO MARINE LIFE INSURANCE SINGAPORE LTD | |
| TOSHIBA GROUP COMPANIES | 5000 |
| TOSHIBA ASIA PACIFIC PTE LTD | |
| TOSHIBA SINGAPORE PTE LTD | |
| TOSHIBA ELECTRONICS ASIA (SINGAPORE) PTE LTD | |
| TOSHIBA TEC SINGAPORE PTE LTD | |
| SONY GROUP OF COMPANIES | 5000 |
| SONY ELECTRONICS ASIA PACIFIC PTE LTD. | |
| SONY ELECTRONICS (SINGAPORE) PTE LTD. | |
| SONY GLOBAL TREASURY SERVICES PLC, SINGAPORE BRANCH | |
| SONY MOBILE COMMUNICATIONS INTERNATIONALS AB | |
| SONY MUSIC ENTERTAINMENT | |
| SONY PICTURES ENTERTAINMENT | |
| SUMITOMO CHEMICAL & AFFILIATES | 9000 |
| SUMITOMO CHEMICAL (ASIA PACIFIC) PTE LTD | |
| SUMITOMO CHEMICAL ASIA PTE LTD | |
| SUMITOMO CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD | |
| PETROCHEMICAL CORPORATION OF SINGAPORE (PRIVATE) LIMITED | |
| THE POLYOLEFIN COMPANY (SINGAPORE) PTE LTD | |
| SUMITOMO CHEMICAL ENGINEERING SINGAPORE PTE. LTD | |
| SUMITOMO SEIKA SINGAPORE PTE LTD | |
| SCAS SINGAPORE PTE. LTD. | |
| SUNOVION PHARMACEUTICALS ASIA PACIFIC PTE LTD | |
| TAOKA CHEMICAL SINGAPORE PTE LTD | |
| SUMITOMO ELECTRIC GROUP COMPANY | 3000 |
| SUMITOMO ELECTRIC AUTOMOTIVE PRODUCTS (S) PTE LTD | |
| SUMITOMO ELECTRIC INTERCONNECT PRODUCTS (SINGAPORE) PTE LTD | |
| SUMITOMO ELECTRIC INTERNATIONAL (SINGAPORE) PTE LTD | |
| YOKOGAWA GROUP COMPANIES | 2500 |
| YOKOGAWA ENGINEERING ASIA PTE LTD | |
| YOKOGAWA ELECTRIC INTERNATIONAL PTE. LTD. | |
| YOKOGAWA ELECTRIC ASIA PTE LTD | |
| TOTAL | <u>398,838</u> |

【2014年会員懇親パーティー】

本年も12月9日（火）に、竹内大使を主賓としてお迎えし、会員懇親パーティーを開催致しました。

沢山の会員企業の皆様の笑顔に支えられ、大盛況の内に懇親会を終了することが出来ました！





2014年ラッキードロー賞品ご提供一覧

(企業名ABC順)

| No | Company name | Prize | Unit price (S\$) | Quantity | Unit | Total Price (S\$) |
|----|---|---|------------------|----------|-------|-------------------|
| 1 | AGC Asia Pacific Pte. Ltd | Houseware Airtight Container | 16 | 48 | | 768 |
| 2 | Ajinomoto (Singapore) Pte. Ltd. | Vono Creamy Corn | 2.1 | 120 | | 252 |
| 3 | All Nippon Airways Co., Ltd. | Economy Class Return Air Ticket from Singapore to Tokyo for 2 Persons | 12064 | 1 | | 12064 |
| 4 | Aon Singapore | Manchester United Training Shirt | 60 | 3 | | 180 |
| 5 | Asahi Kasei Synthetic Rubber Singapore Pte. Ltd. | Asahi Kasei A-Wrap (Food Wrap) | 3.8 | 180 | | 684 |
| 6 | Brother International Corporation Singapore Pte Ltd | Brother Multi Function Printer MFC-7290 | 378 | 1 | | 378 |
| 7 | Brother International Corporation Singapore Pte Ltd | Brother Home Sewing Machine NV50 | 998 | 1 | | 998 |
| 8 | Brother International Corporation Singapore Pte Ltd | Brother Home Sewing Machine Hello Kitty GS2786K | 398 | 1 | | 398 |
| 9 | Bushiroad South East Asia | Future Card Buddyfight Trial Deck Vol.6 Dark Pulse | 18 | 3 | boxes | 54 |
| 10 | Bushiroad South East Asia | Weis Schwarz Trial Deck Kill la Kill | 20 | 2 | boxes | 40 |
| 11 | Bushiroad South East Asia | Cardfight!! Vanguard Trial deck Vol.14 Seeker of Hope | 18 | 3 | boxes | 54 |
| 12 | Bushiroad South East Asia | Cardfight!! Vanguard Trial Deck Vol.16 Divine Judgement of The Bluish Flames | 18 | 3 | boxes | 54 |
| 13 | Bushiroad South East Asia | Cardfight!! Vanguard Trial Deck Vol.17 Will of The Locked Dragon | 18 | 3 | boxes | 54 |
| 14 | Canon Singapore Pte. Ltd. | Digital Compact Camera PowerShot G7X | 799 | 1 | | 799 |
| 15 | Canon Singapore Pte. Ltd. | Compact Photo Printer SELPHY and Consumables RP-108 Set | 220 | 1 | set | 220 |
| 16 | Casio Singapore Pte Ltd | GPS Hybrid Solar G-shock | 999 | 1 | | 999 |
| 17 | COACH A Pte. Ltd. | Book "3 Minutes Coach" | 15 | 50 | books | 750 |
| 18 | COMM Pte Ltd | J+PLUS Advertisement Voucher | 550 | 2 | | 1100 |
| 19 | Docomo Singapore | Docomo-dake Cell Phone Cleaner Strap | 1 | 200 | | 200 |
| 20 | Docomo Singapore | Docomo-dake Towel | 7 | 20 | | 140 |
| 21 | Drew & Napier LLC | Capita Voucher | 200 | 1 | | 200 |
| 22 | Duane Morris & Selvam LLP | GV Gold Class Ticket | 76 | 2 | | 152 |
| 23 | Epson Singapore Pte Ltd | WiFi All-In-One Ink Tank Printer | 329 | 1 | | 329 |
| 24 | Four Seasons Hotel Singapore | One-night Weekend Boulevard View Room Accommodation for 2 Persons with American Breakfast | 580 | 1 | | 580 |
| 25 | Fraser's Hospitality Pte Ltd | 2 Nights Stay at Fraser Suites River Valley or Fraser Place Robertson Walk, 2 Bedroom | 1200 | 1 | | 1200 |
| 26 | Fuji Xerox Asia Pacific and Fuji Xerox Singapore | Printer DPM215FW | 280 | 1 | | 280 |
| 27 | Fujifilm Asia Pacific Pte. Ltd. | Instax Mini 8 Instant Camera & Instax Mini | 172.9 | 2 | sets | 345.8 |
| 28 | Glory Global Solutions (Singapore) Pte Ltd | SEIKO Watch | 350 | 3 | | 1050 |
| 29 | Hitachi Asia Ltd. | Rice Cooker | 599 | 1 | | 599 |
| 30 | Hitachi Construction Machinery Asia & Pacific Pte. Ltd. | Hitachi Excavator ZX200-5G Mini Scale Model | 110 | 5 | units | 550 |
| 31 | IHI Asia Pacific Pte. Ltd. | Takashimaya Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 32 | IJ Global Solutions Singapore Pte Ltd. | Stainless Bottle | 35 | 3 | | 105 |
| 33 | International Taiyo Trading Pte.Ltd | Takashimaya Voucher | 200 | 1 | | 200 |
| 34 | IPPUDO Singapore | IPPUDO Cash Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 35 | ITOCHU Singapore | Munsingwear Golfware | 150 | 5 | | 750 |

2014年ラッキードロワー賞品ご提供一覧

(企業名ABC順)

| No | Company name | Prize | Unit Price (\$) | Quantity | Unit | Total Price (\$) |
|----|---|--|-----------------|----------|-------|------------------|
| 36 | Iwatani Corporation | Portable Gas Cooker Set | 70 | 5 | sets | 350 |
| 37 | Japan Airlines | Economy Class Return Air Ticket from Singapore to Tokyo for 2 Persons | 12064 | 1 | | 12064 |
| 38 | Japan Green Hospital Pte Ltd | Pedometer | 50 | 2 | | 100 |
| 39 | Japan Green Hospital Pte Ltd | Thermometer | 30 | 3 | | 90 |
| 40 | Japan Green Hospital Pte Ltd | Ice Pillow | 20 | 3 | | 60 |
| 41 | Japan Marine United Singapore Pte Ltd | Takashimaya Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 42 | Japanese Kindergarten (S) Pte Ltd | Takashimaya Voucher | 150 | 1 | | 150 |
| 43 | JFE Steel Asia Pte. Ltd. | Royal Selangor | 130 | 2 | | 260 |
| 44 | JTB Pte. Ltd. | Travel Voucher | 200 | 1 | | 200 |
| 45 | JX Nippon Oil & Energy Corporation | Takashimaya Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 46 | Kajima Overseas Asia | Isetan Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 47 | Kanematsu (Singapore) Pte Ltd | BOSE In-Ear Headphones SoundSport | 219 | 1 | | 219 |
| 48 | Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte. Ltd. | Kawasaki Polo shirt | 30 | 2 | | 60 |
| 49 | Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte. Ltd. | Kawasaki T-shirt | 30 | 2 | | 60 |
| 50 | Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte. Ltd. | Kawasaki Racing Team Cap | 30 | 3 | | 90 |
| 51 | Kawasaki Heavy Industries (Singapore) Pte.Ltd. | Ballpoint pen | 4 | 6 | | 24 |
| 52 | KDDI Singapore Pte Ltd | Takashimaya Voucher | 200 | 1 | | 200 |
| 53 | Kikkoman (S) Pte Ltd | Kuriya Dinning Voucher | 500 | 1 | | 500 |
| 54 | Kirin Holdings Singapore Pte, Ltd. | KIRIN ICHIBAN SHIBORI 350ml×24can | 86 | 2 | boxes | 172 |
| 55 | Kosho Singapore Pte Ltd | Edo Powder | 15 | 240 | | 3600 |
| 56 | Kowa South East Asia Pte Ltd | Sakura Beauty "URU" (Supplement for Skin) | 75 | 1 | | 75 |
| 57 | Kowa South East Asia Pte Ltd | Sakura Beauty "SHIRO" (Supplement for Skin) | 70 | 1 | | 70 |
| 58 | Kowa South East Asia Pte Ltd | Sakura Beauty "KAGAYAKI" (Supplement for Skin) | 70 | 1 | | 70 |
| 59 | Kuraray Asia Pacific Pte Ltd | Takashimaya Voucher | 200 | 1 | | 200 |
| 60 | KYOCERA Asia Pacific Pte. Ltd. | Christmas Hard Case Gift Box Set (2 Ceramic Knives + 1 Bamboo Cutting Board) | 239 | 1 | set | 239 |
| 61 | KYOCERA Asia Pacific Pte. Ltd. | Chef's Ceramic (Zirconia Blade) Knife | 168 | 1 | | 168 |
| 62 | KYOCERA Asia Pacific Pte. Ltd. | Electric Diamond Sharpener (For Ceramic and Metal Knives) | 138 | 1 | | 138 |
| 63 | KYOCERA Asia Pacific Pte. Ltd. | 28cm IH Cerabrid Frying Pan (Induction Heat Eco-Friendly Ceramic Coated Fry Pan) | 99 | 1 | | 99 |
| 64 | Mandarin Orchard Singapore | One Night Weekend Stay in Premier Room with Buffet Breakfast for 2 Persons at Triple Three | 770 | 1 | | 770 |
| 65 | Mandarin Oriental, Singapore | One Night Weekend Stay in Premier Harbour Room with Daily Buffet Breakfasts for 2 Persons | 979.25 | 1 | | 979.25 |
| 66 | Marubeni Asean Pte. Ltd. | Kyoto Marubeni Greeting Card Set | 48 | 1 | set | 48 |
| 67 | Marubeni Asean Pte. Ltd. | Kyoto Marubeni MAJIKAO Wrapping Cloth | 84 | 5 | | 420 |
| 68 | Marubeni Asean Pte. Ltd. | Kyoto Marubeni Bandana & Handkerchief | 40 | 4 | sets | 160 |
| 69 | MEIDI-YA Singapore Co (Pte) Ltd. | Meidi-Ya Voucher | 500 | 1 | | 500 |
| 70 | Mitsubishi Chemical Singapore Pte Ltd | Takashimaya Voucher | 500 | 1 | | 500 |

2014年ラッキードロワー賞品ご提供一覧

(企業名ABC順)

| No | Company name | Prize | Unit Price (\$) | Quantity | Unit | Total Price (\$) |
|-----|---|--|-----------------|----------|--------|------------------|
| 71 | Mitsubishi Corporation | Takashimaya Voucher | 500 | 1 | | 500 |
| 72 | Mitsubishi Electric Asia Pte Ltd | Mitsubishi Electric Tatami Fan R30-MR-PC-P | 139 | 7 | | 973 |
| 73 | Mitsui&Co.(Asia Pacific) Pte. Ltd. | Takashimaya Voucher | 500 | 1 | | 500 |
| 74 | Mizuho Bank Ltd. | Takashimaya Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 75 | Mizuho Bank Ltd. | Golf Balls | 60 | 2 | dozens | 120 |
| 76 | MOL Group Companies (Mitsui O.S.K. Lines) | Takashimaya Voucher | 500 | 1 | | 500 |
| 77 | MSIG Insurance (Singapore) Pte. Ltd | Golf Balls | 30 | 5 | dozens | 150 |
| 78 | NEC Asia Pacific Pte. Ltd. | NEC Tablet PC VersaPro Type J | 350 | 1 | | 350 |
| 79 | Nikkei Group Asia Pte Ltd | Takashimaya Voucher | 200 | 1 | | 200 |
| 80 | NIKON Singapore Pte Ltd | COOLPIX P530 with Camera Bag | 449 | 1 | | 449 |
| 81 | Nippon Cargo Airlines | Nippon Cargo Airlines Model Plane (Airplane Plastic Model) 1/200 Scale | 22 | 1 | | 22 |
| 82 | Nippon Cargo Airlines | Nippon Cargo Airlines Model Plane (Airplane Plastic Model) 1/250 Scale | 10 | 1 | | 10 |
| 83 | Nippon Kaiji Kyokai Singapore Pte Ltd | Golf Balls (Callaway Speed Regime SR) | 69 | 5 | dozens | 345 |
| 84 | Nippon Steel & Sumitomo Metal Southeast Asia Pte Ltd. | Takashimaya Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 85 | Nisshinbo Singapore Pte Ltd | Appolcot Non-iron Handkerchief | 30 | 11 | boxes | 330 |
| 86 | NLI International Asia Pte Ltd | Takashimaya Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 87 | Nomura Design & Engrg. (S) Pte Ltd | Delicious Stollen | 25 | 2 | | 50 |
| 88 | Nomura Design & Engrg. (S) Pte Ltd | Delicious Christmas Cake | 18 | 3 | | 54 |
| 89 | Obayashi Singapore Private Limited | Takashimaya Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 90 | Okamura International (Singapore) Pte Ltd | Stella Chair | 440 | 1 | | 440 |
| 91 | OMRON Asia Pacific Pte Ltd | OMRON Blood Pressure Monitor HEM7211 | 178 | 3 | | 534 |
| 92 | Osaka Gas Singapore | Srixon Golf Balls | 50 | 4 | dozens | 200 |
| 93 | Penta-Ocean Construction Co.,Ltd. | Isetan Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 94 | Petro-Diamond Singapore (Pte) Ltd | Golf Balls (Titleist pro V1) | 70 | 1 | dozens | 70 |
| 95 | R E & S Enterprises Pte Ltd | Kuriya Dining Voucher | 500 | 1 | | 500 |
| 96 | Rakuten Asia Pte. Ltd. | Rakuten.com.sg Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 97 | RECRUIT RGF | Takashimaya Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 98 | Riken Technos Internatinal Pte. Ltd. | Golf Balls | 50 | 2 | dozens | 100 |
| 99 | SATO Asia Pacific Pte Ltd | Takashimaya Voucher | 200 | 1 | | 200 |
| 100 | SATO Kogyo Co Ltd | Isetan Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 101 | Seiko Instruments Singapore Pte Ltd. | Seiko Automatic Open-Heart Model | 561.8 | 1 | | 561.8 |
| 102 | Seiko Instruments Singapore Pte Ltd. | Seiko Automatic Open-Heart Model (Black Dial) | 561.8 | 1 | | 561.8 |
| 103 | SG Holdings Global Pte Ltd | Takashimaya Voucher | 100 | 1 | | 100 |
| 104 | Shangri-La Hotel, Singapore | Shangri-La Hotel Singapore Sunday Champagne Brunch for 2 Persons at The Line | 276 | 1 | | 276 |
| 105 | Shangri-La Hotel, Singapore | Shangri-La Hotel Singapore High Tea Buffet for 2 Persons at Rose Veranda | 90 | 1 | | 90 |
| 106 | Shangri-La Hotel, Singapore | Shangri-La Hotel Singapore 1Night Weekend Stay at Valley Wing Deluxe Room | 630 | 1 | | 630 |
| 107 | Sharp-Roxy Sales (Singapore) Pte Ltd | Sharp AQUOS LCD TV | 799 | 1 | | 799 |
| 108 | Sharp-Roxy Sales (Singapore) Pte Ltd | Sharp Plasmacluster Synchron Vacuum-cleaner | 369 | 1 | | 369 |

2014年ラッキードロワー賞品ご提供一覧

(企業名ABC順)

| No | Company name | Prize | Unit Price (\$) | Quantity | Unit | Total Price (\$) |
|-----|---|--|-----------------|----------|--------|------------------|
| 109 | Shimadzu (Asia Pacific) Pte Ltd | Takashimaya Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 110 | Shimizu Corporation | Isetan Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 111 | Shogakukan Asia Pte Ltd | Bundle Set of Children's Book & Craft Book | 30 | 5 | sets | 150 |
| 112 | Sojitz Asia Pte Ltd | Isetan Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 113 | Sojitz Asia Pte Ltd | Four Leaves Voucher | 100 | 1 | | 100 |
| 114 | Sumitomo Corporation Asia & Oceania Pte. Ltd. | Isetan Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 115 | Sumitomo Mitsui Banking Corporation | Judan-Jikomi Junmai Daiginjo (Ozeki) & Titleist Golf Balls Set | 190 | 3 | sets | 570 |
| 116 | Sunstar Singapore Pte. Ltd. | Midori de Salana - Super Vegetable Juice | 99 | 3 | boxes | 297 |
| 117 | Sunstar Singapore Pte. Ltd. | Ora2 Stain Cleaner | 83.4 | 2 | boxes | 166.8 |
| 118 | Supermedia | IBDP (Kindle Edition) | 378 | 5 | books | 1890 |
| 119 | Takenaka Corporation | Takashimaya Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 120 | TDK Singapore (Pte) Ltd | Magnetic Necklace | 100 | 3 | | 300 |
| 121 | Teijin Polycarbonate Singapore Pte Ltd | Isetan Voucher | 200 | 1 | | 200 |
| 122 | Tenet Sompoo Insurance Pte Ltd | Golf Balls | 70 | 5 | dozens | 350 |
| 123 | The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Ltd | MUFG Corporate Golf Balls | 30 | 20 | dozens | 600 |
| 124 | The Hokuriku Bank Ltd | Isetan Voucher | 100 | 1 | | 100 |
| 125 | The Japan Steel Works (Singapore) Pte. Ltd. | Takashimaya Voucher | 200 | 1 | | 200 |
| 126 | Toh-Shi Printing Singapore | The Special Calendar of Hanshin-Tigers 2015 | 20 | 5 | | 100 |
| 127 | Tokio Marine Insurance Singapore Ltd. | Golf Balls | 65 | 10 | dozens | 650 |
| 128 | Toppa Management Systems (S) Pte Ltd | Acer Android TabletPC 7 inch | 350 | 1 | | 350 |
| 129 | Toppa Printing Co., Ltd Singapore Branch | Reader Lideo (e-book) | 103.75 | 3 | | 311.25 |
| 130 | Toshiba Asia Pacific Pte Ltd | Rice Cooker 18.L RC18NMF & Hot Pot W50HGN-6DIS Set | 230 | 1 | set | 230 |
| 131 | Toyota Motor Asia Pacific Pte Ltd | Boston Bag | 250 | 1 | | 250 |
| 132 | Toyota Motor Asia Pacific Pte Ltd | Umbrella | 50 | 5 | | 250 |
| 133 | Toyota Motor Asia Pacific Pte Ltd | Golf Balls | 70 | 1 | dozen | 70 |
| 134 | Toyota Tsusho Asia Pacific Pte. Ltd | Phyz Golf Balls | 50 | 4 | dozens | 200 |
| 135 | Toyota Tsusho Asia Pacific Pte. Ltd | Singapore Trump & Pen Set | 15 | 10 | sets | 150 |
| 136 | Trend Micro (S) Pte. Ltd. | Tourstage Golf Bag | 500 | 1 | | 500 |
| 137 | Tsubaco Singapore Pte. Ltd. | Isetan Voucher | 200 | 1 | | 200 |
| 138 | Tsubakimoto Singapore | Takashimaya Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 139 | Ulvac Singapore Pte Ltd | Takashimaya Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 140 | Yakult (Singapore)Pte Ltd | Takashimaya Voucher | 300 | 1 | | 300 |
| 141 | Yusen Travel (Singapore) Pte. Ltd. | Orchid Voucher | 100 | 2 | | 200 |

多くの会員企業様よりご支援ご協力賜り、誠にありがとうございました。

《日本シンガポール協会のイベントをご紹介します》

1. 協会のロゴマークを募集中です

協会ではロゴマークを募集中です。詳細はホームページをご覧ください。

2. 「第22回 懇親ゴルフ大会」を開催しました

春・秋の年2回開催の懇親ゴルフ大会を、10月1日（水）に千葉県の総武カントリークラブ・印旛コースにて開催しました。参加者は45名で、チン・シアットユーン大使、ウィリアム・タン首席公使、コリン・コー公使にもご参加いただきました。残暑がおさまった薄曇りのなか、全員完走しました。シンガポール大使館からタイガービールやシンガポールグッズの賞品をご提供いただき、シンガポール航空からは日本～シンガポール間の往復航空券、協賛の企業や協会役員からも多数賞品をご提供いただきパーティも盛り上がりました。次回は2015年3月4日（水）神奈川県の本厚木カントリークラブにて開催予定です。ふるってご参加ください。



3. 「アジア大洋州大使会議レセプション」に出席しました

「アジア大洋州大使会議」の開催に併せ、10月8日（木）、外務省飯倉別館にて岸田外務大臣主催のレセプションが開催され、宇野副会長が出席いたしました。同会議に出席されました竹内春久駐シンガポール大使から、最新のシンガポール事情や協会季刊誌への感想などを伺う機会となりました。

4. 中部シンガポール協会との交流会が開催されました

11月11日（月）、小泉グループ（株）の全面的なご協力の元、東天紅・名古屋店にて『中部シンガポール協会』との交流会が開催されました。中部シンガポール協会からは、会長の田中武彦氏、名誉会長（前会長）の宮崎雅史氏、当協会からは、鈴木会長、石原参与、小泉グループ（株）より諸岡氏が出席しました。本年（2014年）は中部シンガポール協会設立25周年を記念しての開催行事やら、アセアン諸国との交流についての所感、また協会運営の苦労話などで盛り上がりました。



◆はい、こちらは「日本シンガポール協会」です！

「日本シンガポール協会」は1971年の設立以来、「シンガポール日本商工会議所（JCCI）」とも密接に連携し、日本とシンガポールとの経済協力、文化交流を深めるための活動をボランティア・ベースで行っています。シンガポールとの関係、交流を深めるため、ご帰国されましたら、あるいは今から協会の活動にご参加されませんか。ご入会を心からお待ちしています。連絡先は右記のとおりです。（2013年1月に、事務所は港区赤坂より港区芝に引っ越しました）

一般社団法人 日本シンガポール協会
〒108-0014 東京都港区芝4-7-6 芝ビルディング308
電話：03-6435-3600 FAX：03-6435-3602
E-mail：singaaso@singaaso.or.jp
ホームページ：http://www.singaaso.or.jp/

シンガポール日本商工会議所
事務局便り



《 11月-12月度 活動報告 》

第1工業部会懇親ゴルフ並びに忘年会

11月24日、Singapore Island Country Clubにて第1工業部会では懇親ゴルフを行いました。前半はお天気に恵まれましたが、後半は雨に見舞われましたので、前半ハーフで諦めることとなりました。懇親ゴルフ後の忘年会では、ゴルフをされない部会員にもご参加いただきました。皆様、積極的に交流を深めておられまして、楽しく過ごしていただけたことと思います。

運輸通信部会主催講演会 共催 観光・流通サービス部会、第3工業部会、貿易部会

スピーカーとして、DBJ Singaporeの北所克史様をお招きし、【シンガポールにおける航空関連産業～アジアのワンストップサービス拠点に向けて～】という題で、11月25日Maxwell Chamberにて講演会を開催致しました。講演会後は、活発な質疑応答が行われ、参加者皆様の関心の高さが伺えました。またその後、4部会共催ということで皆様の懇親の場も設け、参加者皆様の交流の場となりました。

Bencoolen地下鉄駅新築工事」現場見学会

去る12月5日、建設部会による佐藤工業株式会社が施行中の、ダウンタウン線三期ベンクーレン駅工事の現場見学会を行い、29名がご参加下さいました。本工事は、市街中心業務地区のベンクーレンストリートに位置し、地下6階で構成されております。完成後にはシンガポールで一番深い駅となります。佐藤工業様には、こちらの質問にも大変ご親切にご対応いただきました。参加者の皆様に非常に有意義なひとときとなりました。

金融保険部会講演会

12月3日、日本銀行よりMonetary Authority of Singapore (MAS) にご出向中の藤本啓様をお迎えし、【最近のシンガポール経済とシンガポール経済を取り巻く環境】という題で講演を行っていただきました。定員50名で当日は46名の金融保険部会会員の皆様にご参加頂き、出席率も非常に高い講演会となりました。

観光・流通・サービス部会 自社PRプレゼン大会及び忘年会

12月15日、観光・流通・サービス部会では、毎年恒例となった忘年会(昼食懇談会)を開催しました。加えて今年は自社PRプレゼン大会も行い、立候補いただいた企業様の中から先着6社に各10分、自社についてご紹介いただきました。その後の忘年会も大盛況となり、新旧会員様同士が積極的に交流を図る、良い機会となりました。

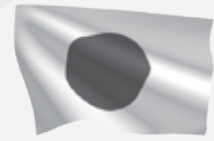
《 2015年1月-2月 行事予定 》

※予定は事情により変更・追加されることがございます。

| 開催日 | 開催区分 | イベント名 | 時間・場所 |
|----------|--------|------------------------|------------------------------------|
| 1月7日(水) | 懇談・その他 | 賀詞交歓会 日本人会共催 | 11:00-12:30 日本人会 |
| 1月13日(火) | 理事会 | 1月度運営担当理事会 第535回理事会 | 11:30-12:14 12:15-14:01 日本人会 |
| 1月13日(火) | 委員会 | 1月広報委員会 | 19:00-21:00 春夏秋冬 |
| 1月27日(火) | 部会 | 2015年8部会合同新年会 | 18:30-20:30 Regent Singapore |
| 2月10日(火) | 理事会 | 2月度運営担当理事会 第536回理事会 | 11:30-12:14 12:15-14:01 日本人会 |



Japan & Singapore Holiday 2015



January



1st New Year's Day

February



19th-20th Chinese New Year

March



April



3rd Good Friday

May



1st Labour Day

June



1st Vesak Day

July



17th Hari Raya Puasa

August



9th National Day
10th Substitute Holiday

September



24th Hari Raya Haji

October



1月01日 元日
1月12日 成人の日
2月11日 建国記念の日
3月21日 春分の日
4月29日 昭和の日
5月03日 憲法記念日

November



10th Deepavali

5月04日 みどりの日
5月05日 こどもの日
5月06日 振替休日
7月20日 海の日
9月21日 敬老の日
9月22日 国民の休日

December



25th Christmas Day

9月23日 秋分の日
10月12日 体育の日
11月03日 文化の日
11月23日 勤労感謝の日
12月23日 天皇誕生日

月報

Jan, 2015

編集後記

シンガポール建国50周年。

その間のシンガポール総人口の推移を見てみると、1965年188万人、1985年273万人、2005年426万人そして2014年10月現在約547万人。直近の10年間で約120万人増えています。

その中のシンガポール国民人口（SGパスポート保持者）は、2012年の統計で約328万人で総人口に占める比率が約60%。シンガポールは、アジア地域の中でも出生率が低いことから、総人口に占める国民比率は10年前と比較すると急激に低下していると言っているでしょう。

グローバル化が当たり前のシンガポールにおいて、移民や労働者の受入をコントロールしていく施策は、経済状況や国民の声を聞きながら慎重にならざるを得ないというもうなづけます。

何事につけても、分母数の小ささが即効性のある施策の推進力といったところでしょうか？

2013年、日本の高校修学旅行の訪問国として、人数ベースでシンガポールが1位になったそうです。日本の全高校生の人口が約330万人で、少子化とはいえシンガポール国民の人口に匹敵します。その中で、学校教育の一環である修学旅行で海外を訪れる高校生の人数が*約13万4千人（うちシンガポール訪問人数は*約2万1千人）。

現段階では、海外修学旅行に参加する学生数は日本の高校生のわずか4%ですが、海外を修学旅行先を選ぶ学校数は増加傾向にあるようです。

日本国内の中・高校生に照準をあてて、修学旅行や語学研修で海外渡航の機会を増やす取組が進んでいることは、グローバル化へ向けての明るい兆しと言えるかもしれません。

シンガポール建国50周年を迎えて、各業界からの抱負をご執筆いただき、新春座談会では、シンガポールへの進出の振り返りと将来展望、東南アジアへの経済シフト、2105年はどんな年になるか等大いに語っていただきました。

文末になりますが、お忙しい中、ご執筆をいただきました皆様、座談会に参加いただきました皆様にこの場を借りまして厚く御礼申し上げます。

なお、編集は日本航空の河原畑、日本旅行シンガポールの中島およびJCCI事務局が担当いたしました。

*全国修学旅行研究協会資料より

（編集後記執筆：日本旅行シンガポール 中島）



編集

河原畑 敏幸

JAPAN AIRLINES CO., LTD

中島 茂

NTA TRAVEL (Singapore) Pte Ltd

発行

JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY, SINGAPORE

10 Shenton Way #12-04/05 MAS Building Singapore 079117

Tel: 6221-0541 Fax: 6225-6197

E-mail: info@jcci.org.sg

Web: <http://www.jcci.org.sg>

印刷

TOH-SHI PRINTING SINGAPORE PTE LTD

4 Ayer Rajah Crescent, Singapore 139960

Tel: 6775-2555 Fax: 6775-1661

会員データベース 訂正・変更記入フォーム

会員データベース登録内容に訂正・変更がございましたら、下欄にご記入の上、事務所まで FAX また E メールにてご連絡頂きますよう、御願ひ申し上げます。

注：*必ず会社名と E メールはご記入下さい。

| | | | |
|----------|--|----------|--|
| 会社名(日) | | | |
| 会社名(英)* | | | |
| 旧代表者名(日) | | | |
| 新代表者名(日) | | 新代表者名(英) | |
| E-MAIL* | | | |

| | | | |
|---------|---|-------|------|
| 役職(英) | | 役職 | |
| Address | | | |
| TEL: | | 業務内容 | |
| FAX: | | | |
| WEB: | | | |
| 日本人社員数 | | 総従業員数 | |
| 変更日 | 年 | 月 | 日 より |

緊急連絡 E メール：

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |

その他

| |
|--|
| |
|--|

Fax: 6225 6197

担当：ドリス(doris@jcci.org.sg)

☆☆JCCI Eメール送信サービスのお知らせ☆☆

シンガポール日本商工会議所ではセミナー情報や、サービス・新製品等のビジネス情報を
弊所メーリングリストを使用し、会員企業の皆様にお届けするサービスをご提供しております。

(2014年12月時点 1920名の方にご登録して頂いております)

Eメール送信サービス 1回

SGD 200 (GST 込み)

(※会員企業様のみ利用可能とさせていただきます)

ご利用をご希望の方は「info@jcci.org.sg」(担当: Ms. Doris)まで、

下記必要事項を明記の上、お申し込み下さい。

- ①希望送信内容 ※原稿はソフトコピー(500KB以下、PDF)にてご提出下さい。
- ②希望送信日 ※余裕をもって、お申し込み下さい。(土日・祝日を除く)
- ③支払方法 ※現金・小切手・GIROのいずれか

【 お申込みから配信までの手順 】

お申込み頂いた後、事務局よりお申込確認用紙・ご請求書を送付致します。

お支払をお済ませいただき、テストメールをご確認頂きました後、配信となります。

皆様からのお申込みをお待ちしております。

シンガポール日本商工会議所事務局 担当: Doris (Ms)
10 Shenton Way, #12-04/05 MAS Building, Singapore 079117
TEL: 6221-0541 FAX: 6225-6197 E-mail: info@jcci.org.sg



